

吹田市第4次総合計画策定用資料

# 市民を対象とした各種意識調査の 分析報告書(案)

平成28年11月10日

吹田市

## 内容

<b>I</b>	<b>報告書の概要</b>	<b>1</b>
1	目的	1
2	方法	1
3	分析の対象とした調査	1
4	報告書の構成	1
<b>II</b>	<b>市民の暮らしや市政全般に関する調査結果</b>	<b>2</b>
1	地域別の回答者の傾向（平成 26 年度吹田市市民意識調査による）	2
2	地域の環境についての満足度・重要度	5
(1)	利便性	5
(2)	快適性	7
(3)	安全性	8
(4)	地域の環境についての全体としての満足度	9
3	吹田市の方向性・将来像について	10
(1)	吹田市の施策のうち優れている分野・優先して実施すべき分野	10
(2)	吹田市の望ましい将来像	12
<b>III</b>	<b>政策別の調査結果</b>	<b>13</b>
1	すべての人がいきいき輝くまちづくり	13
(1)	政策に関する評価	13
(2)	個別事項の状況	14
2	市民自治が育む自立のまちづくり	17
(1)	政策に関する評価	17
(2)	個別事項の状況	18
3	健康で安心して暮らせるまちづくり	25
(1)	政策に関する評価	25
(2)	個別事項の状況	27
4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	56
(1)	政策に関する評価	56
(2)	個別事項の状況	57
5	環境を守り育てるまちづくり	63
(1)	政策に関する評価	63
(2)	個別事項の状況	64
6	安全で魅力的なまちづくり	65

(1) 政策に関する評価 .....	65
(2) 個別事項の状況.....	66
7 活力あふれにぎわいのあるまちづくり .....	73
(1) 政策に関する評価 .....	73
(2) 個別事項の状況.....	74
8 基本計画推進のために .....	91
(1) 政策に関する評価 .....	91
(2) 個別事項の状況.....	92

# I 報告書の概要

## 1 目的

吹田市第4次総合計画の策定にあたり、今後10年を見据えた吹田市のまちづくりの課題や市民ニーズを把握し、取組の参考とするため、「3. 分析の対象とした調査」に示す市民を対象とした様々な意識調査の結果を活用して市民意識の把握・分析を行う。

## 2 方法

「吹田市第3次総合計画」における施策体系に沿って、各調査の結果データより、分野別の重点課題の把握や施策の優先順位付けの参考となる情報を抽出・整理するものとする（なお、対応する調査が実施されていない施策については、本分析からは除いている）。

## 3 分析の対象とした調査

本分析で活用する調査（結果が記載された計画書を含む）の名称と実施時期は、以下のとおりである。

図表 I-1 分析の対象とした調査(資料の名称)

資料名	調査実施時期
平成26年度(2014年度)吹田市市民意識調査報告書	平成26年(2014年)7月
平成24年度(2012年度)市政モニタリング調査	平成24年(2012年)8月
平成27年度男女共同参画に関する市民意識・実態調査報告書	平成27年(2015年)10月
吹田市第3期情報化推進計画(平成26年度～平成30年度)	平成25年(2013年)9月
地域の自治組織についてのアンケート調査報告書	平成28年(2016年)1～2月
少子化対策に関する市民アンケート調査報告書	平成27年(2015年)9月
吹田市就学前の子どもの教育・保育に関する将来ビジョン	平成24年(2012年)10月
吹田市子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査業務報告書	平成25年(2013年)12月
第6期吹田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画にかかる高齢者等実態調査報告書	平成26年(2014年)2月
第3期吹田市障がい福祉計画策定のためのアンケート調査 調査結果報告書	平成23年(2011年)8月
第4次吹田市障がい福祉計画	平成26年(2014年)9月
吹田市民の地域福祉に関する実態調査報告書	平成26年(2014年)10月
健康に関する市民意識アンケート調査報告書	平成26年(2014年)11月
平成26年度吹田市事業所実態調査結果報告書	平成26年(2014年)10月
平成27年度(2015年度)吹田市労働事情調査	平成28年(2016年)1月
都市計画マスタープランの見直しに関するアンケート調査	平成24年(2012年)10月
吹田市内の大学に就学する学生の就職意識等に関するアンケート調査報告書	平成27年(2015年)7月
平成26年度(2014年度)窓口サービスアンケートの結果について	平成26年(2014年)11月

## 4 報告書の構成

「II. 市民の暮らしや市政全般に関する調査結果」では、生活環境全般に関する市民意識及び吹田市の方向性・将来像に関する市民調査を把握・分析し、「III. 政策別の調査結果」では、「吹田市第3次総合計画」における政策別に、市民意識を把握・分析する。

## Ⅱ 市民の暮らしや市政全般に関する調査結果

### 1 地域別の回答者の傾向（平成 26 年度吹田市市民意識調査による）

回答者の居住地域別の年齢構成、15 歳未満及び 65 歳以上の親族がいる世帯の状況、住宅の種類、通算居住年数から、地域別の回答者の概ねの傾向を以下に整理した。

図表 II-1 地域別の回答者の特徴

地域	60 代以上	世帯の状況	住宅の種類	通算居住年数
JR以南	<b>52.8%</b>	75 歳以上の親族がいる世帯の割合が高い	持ち家（一戸建て）が圧倒的に多い	50 年以上が多い
片山・岸部	38.2%	15 歳未満の親族がいる世帯の割合が高い	持ち家（一戸建て）が圧倒的に多い	30～40 年未満が多いが、1～5 年未満も比較的多い
豊津・江坂・南吹田	37.3%	—	持ち家（マンション）と民間賃貸（集合住宅）がほぼ同率	40 年以上は少なく、1～5 年未満が多い
千里山・佐井寺	37.7%	15 歳未満の親族がいる世帯の割合が高い	持ち家（一戸建て）と持ち家（マンション）がほぼ同率	10～20 年未満が多い
山田・千里丘	38.2%	15 歳未満の親族がいる世帯の割合が高い	持ち家（マンション）が圧倒的に多い	10～40 年未満が多く 40 年以上は少ない
千里NT・万博・阪大	<b>45.7%</b>	75 歳以上の親族がいる世帯の割合が高い	持ち家（マンション）が多く、公団・公社（賃貸）や府営・市営（賃貸）の割合も比較的高い	40～50 年未満と 10～20 年未満がほぼ同率

（資料）平成 26 年度（2014 年度）吹田市市民意識調査報告書

図表 II-2 回答者の年齢構成（性別・地域別）

		N	(%)						無不明回答・
			30 歳未満	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	
標本		1,193	10.1	14.9	18.9	14.5	20.8	19.8	0.9
母集団		289,669	15.6	17.5	20.7	14.1	15.8	16.2	—
居住地域別	JR以南	106	6.6	16.0	12.3	12.3	24.5	28.3	0.0
	片山・岸部	183	9.3	16.4	16.9	19.1	22.4	15.8	0.0
	豊津・江坂・南吹田	190	14.7	17.4	19.5	9.5	18.9	18.4	1.6
	千里山・佐井寺	199	10.6	13.1	22.6	15.6	19.1	18.6	0.5
	山田・千里丘	270	8.5	16.3	19.3	17.4	21.9	16.3	0.4
	千里NT・万博・阪大	230	10.9	10.9	20.4	11.3	20.0	25.7	0.9
	不明・無回答	15	0.0	20.0	6.7	20.0	13.3	13.3	26.7

※網掛け欄は最も多いもの

（資料）平成 26 年度（2014 年度）吹田市市民意識調査報告書

図表 II-3 15 歳未満及び 65 歳以上の親族がいる世帯(居住地域別)

(96)

	N	親族が いる世帯			親族が いない世帯			親族が いない世帯		
		15歳未満の (うち12歳未満)	(うち6歳未満)	15歳未満の (うち6歳未満)	65歳以上の (うち75歳以上)	(うち85歳以上)	65歳未満の (うち85歳以上)	65歳未満の (うち85歳以上)		
全体	1,193	22.9	18.8	11.9	76.1	43.4	18.6	3.1	55.9	
居住地域別	JR以南	106	17.0	12.3	8.5	81.1	54.7	24.5	3.8	44.3
	片山・岸部	183	25.1	23.0	15.3	74.9	41.5	15.3	2.7	58.5
	豊津・江坂・南吹田	190	22.6	18.4	13.2	76.8	40.5	14.7	3.2	58.9
	千里山・佐井寺	199	25.1	20.6	10.6	73.9	37.2	20.6	3.5	62.3
	山田・千里丘	270	24.4	19.3	13.3	74.4	41.1	13.0	3.0	58.1
	千里NT・万博・阪大	230	20.9	17.0	10.0	78.3	49.6	26.5	2.2	50.0
	不明・無回答	15	13.3	13.3	0.0	73.3	53.3	20.0	13.3	33.3

(資料)平成 26 年度(2014 年度)吹田市市民意識調査報告書

図表 II-4 住居形態(地域別)

(96)

	N	持ち家 (一戸建て)	持ち家 (マンション)	民間賃貸 (一戸建て)	民間賃貸 (集合住宅)	公団・公社 (賃貸)	府営・市営 (賃貸)	社宅・寮	その他	不明・無回答	持家比率	一戸建て比率
		*			*							
全体	1,193	31.7	34.5	1.1	18.3	5.7	6.2	1.9	0.3	0.4	66.1	32.8
居住地域別	JR以南	106	57.5	9.4	3.8	19.8	0.9	5.7	0.9	0.9	67.0	61.3
	片山・岸部	183	48.6	18.0	0.5	21.3	2.7	6.0	2.2	0.5	66.7	49.2
	豊津・江坂・南吹田	190	29.5	32.1	0.5	33.2	0.5	1.1	3.2	0.0	61.6	30.0
	千里山・佐井寺	199	33.2	34.2	1.0	24.1	4.5	1.0	2.0	0.0	67.3	34.2
	山田・千里丘	270	19.3	60.4	1.5	14.1	1.1	1.5	1.9	0.0	79.6	20.7
	千里NT・万博・阪大	230	19.6	32.2	0.4	3.0	21.3	21.3	1.3	0.4	51.7	20.0
	不明・無回答	15	60.0	13.3	0.0	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	13.3	73.3

\* 調査票では、それぞれ以下のとおりである。

※ 網掛けは最も多いもの

「持ち家(一戸建て)」 : 持ち家(一戸建て、タウンハウス)

「民間賃貸(集合住宅)」 : 民間賃貸(マンション、アパート、文化住宅)

(資料)平成 26 年度(2014 年度)吹田市市民意識調査報告書

図表 II-5 居住年数

(%)

		N	1 年 未 満	1 5 年 未 満	5 5 1 0 年 未 満	1 0 5 2 0 年 未 満	2 0 5 3 0 年 未 満	3 0 5 4 0 年 未 満	4 0 5 5 0 年 未 満	5 0 年 以 上	不 明 ・ 無 回 答
全 体		1,193	3.0	11.2	10.0	19.5	15.8	17.4	13.5	9.4	0.2
居 住 地 域 別	JR以南	106	4.7	7.5	6.6	12.3	10.4	15.1	18.9	24.5	0.0
	片山・岸部	183	0.5	13.1	6.6	16.4	16.9	19.7	15.3	11.5	0.0
	豊津・江坂・南吹田	190	4.7	18.4	15.8	15.8	10.5	16.3	8.9	9.5	0.0
	千里山・佐井寺	199	2.5	11.1	12.6	23.1	18.1	17.1	9.5	5.5	0.5
	山田・千里丘	270	2.6	9.6	10.0	20.7	21.9	20.7	8.5	5.9	0.0
	千里NT・万博・阪大	230	3.9	8.3	7.4	23.5	13.0	13.9	23.0	7.0	0.0
	不明・無回答	15	0.0	0.0	6.7	26.7	13.3	13.3	6.7	26.7	6.7

(資料)平成 26 年度(2014 年度)吹田市市民意識調査報告書

## 2 地域の環境についての満足度・重要度

ここでは、回答者の年齢別及び居住地域別に、居住地域の利便性、快適性、安全性に関する「重要度評価点」と「満足度評価点」から、重要度の高い項目及び重要度と満足度との差（重要度評価点から満足度評価点を引いた値）が大きい項目を把握する。

### (1) 利便性（図表 II-6）

- ・ 重要度評価点は、いずれの年齢及び地域でも「②鉄道・バスなど公共交通網の利便さ」と「⑥医療施設の利用しやすさ」で特に高くなっている。
- ・ 重要度評価点と満足度評価点の差が、比較的多くの年齢及び地域で共通して大きいのは「⑤商業施設の利用しやすさ」「⑥医療施設の利用しやすさ」であり、また、比較的多くの地域で「⑤商業施設の利用しやすさ」の差も大きい。
- ・ 年齢別では、特に 30 歳代で差が大きい（20 以上）項目が多く、「②鉄道・バスなど公共交通網の利便さ」「③地域内の生活道路の利用しやすさ」「⑤商業施設の利用しやすさ」「⑧教育・子育て支援施設の利用しやすさ」で差が大きくなっている。
- ・ 居住地域別で差が大きい（20 以上）の項目は、以下のとおりである。
  - － J R以南：「⑧教育・子育て支援施設の利用しやすさ」
  - － 片山・岸部：「③地域内の生活道路の利用しやすさ」
  - － 豊津・江坂・南吹田：「⑥医療施設の利用しやすさ」
  - － 山田・千里丘：「②鉄道・バスなど公共交通網の利便さ」「③地域内の生活道路の利用しやすさ」「⑥医療施設の利用しやすさ」
- ・ 千里山・佐井寺では、差は 20 を超えないものの、公共交通網や生活道路、商業施設等の生活利便施設に関する項目の差が比較的大きい。
- ・ 千里NT・万博・阪大では全体的に差が小さく、「①自動車で移動する道路網の利便さ」と「④公園・緑地の利用しやすさ」では満足度評価点が重要度評価点を上回っている。

図表 II-6 利便性についての重要度評価点と満足度評価点の差

(評価点、100点満点)

	重要度評価点								重要度評価点と満足度評価点の差								
	① 路 網 の 便 利 さ	② 交 通 網 の 便 利 さ	③ 利 用 し や す さ	④ 地 域 内 の 生 活 道 路 の 利 用 し や す さ	⑤ 公 園 ・ 緑 地 の 利 用 し や す さ	⑥ 商 業 施 設 の 利 用 し や す さ	⑦ 医 療 施 設 の 利 用 し や す さ	⑧ 公 共 施 設 の 利 用 し や す さ	① 路 網 の 便 利 さ	② 交 通 網 の 便 利 さ	③ 利 用 し や す さ	④ 地 域 内 の 生 活 道 路 の 利 用 し や す さ	⑤ 公 園 ・ 緑 地 の 利 用 し や す さ	⑥ 商 業 施 設 の 利 用 し や す さ	⑦ 医 療 施 設 の 利 用 し や す さ	⑧ 公 共 施 設 の 利 用 し や す さ	
全体	70.8	78.6	73.8	68.4	72.3	77.9	67.9	68.0	3.7	13.5	15.5	6.0	16.3	17.6	14.7	15.1	
年齢別	30歳未満	70.5	79.1	75.5	65.7	72.3	75.5	65.9	67.8	5.4	8.8	17.3	2.7	15.0	12.9	6.8	12.8
	30歳代	72.8	83.3	77.2	73.4	76.1	78.4	71.1	76.3	10.3	<b>22.0</b>	<b>25.8</b>	12.6	<b>23.9</b>	19.3	18.8	<b>23.8</b>
	40歳代	70.4	79.9	74.1	69.9	70.1	76.8	66.5	69.0	2.4	18.3	16.7	3.8	11.7	<b>20.8</b>	14.0	16.3
	50歳代	67.1	78.1	72.0	64.3	71.0	76.4	68.0	64.7	<b>-1.6</b>	14.5	14.8	4.8	16.2	17.1	15.8	13.2
	60歳代	71.6	75.4	71.9	68.5	70.0	78.9	67.6	64.4	3.9	9.2	11.9	8.0	16.0	19.9	16.3	11.9
	70歳以上	72.4	77.7	73.5	68.0	74.7	80.1	68.5	66.0	3.0	9.0	9.7	4.3	15.5	12.8	13.5	11.5
居住地域別	JR以南	68.8	75.6	70.2	63.8	73.3	75.6	65.3	69.3	8.0	5.1	13.1	18.4	19.8	15.2	15.1	<b>22.9</b>
	片山・岸部	68.9	76.3	72.1	65.7	69.7	78.0	67.0	69.3	8.7	12.7	<b>20.5</b>	10.5	15.8	19.1	16.3	19.9
	豊津・江坂・南吹田	67.2	80.5	73.3	68.7	71.4	77.8	68.9	67.3	<b>-0.6</b>	9.9	14.5	5.8	10.7	<b>20.2</b>	16.2	15.0
	千里山・佐井寺	71.2	78.5	73.7	69.3	71.0	77.2	67.8	67.9	6.3	18.9	19.0	5.4	19.0	17.9	16.4	12.8
	山田・千里丘	74.2	79.6	76.1	69.9	73.5	78.3	68.6	67.7	5.4	<b>22.1</b>	<b>21.2</b>	7.7	17.5	<b>20.6</b>	15.6	13.4
	千里NT・万博・阪大	72.6	80.1	74.5	70.8	74.9	79.8	69.1	68.3	<b>-2.0</b>	6.7	3.7	<b>-4.3</b>	16.5	12.3	10.1	12.0

(注1) 重要度評価点から満足度評価点を引いた差。値が大きいほど、「重要度の水準に比して満足度が低い」ことを示す。

(注2) 差の欄におけるグレーの網掛けは差が 15 以上、白抜き文字は差が 20 以上。

(資料) 平成 26 年度(2014 年度)吹田市市民意識調査報告書から作成

## (2) 快適性（図表 II-7）

- ・重要度評価点は、いずれの年代及び地域でも「⑨居住環境の心地よさ」と「⑫歩行者にとっての道路の安全性」で特に高くなっている。
- ・重要度評価点と満足度評価点の差が多く、の年齢で共通して大きいのは、「⑫歩行者にとっての道路の安全性」であり、「⑪道路の整備状況」についても比較的差が大きくなっている。
- ・多くの地域で共通して差が大きいのは、「⑪道路の整備状況」「⑫歩行者にとっての道路の安全性」である。特に「⑫歩行者にとっての道路の安全性」は、千里NT・万博・阪大を除く全ての地域で差が30を超えている。
- ・JR以南では、上記以外に「⑭街並みや景観」「⑮河川やため池、樹林地などの自然環境」の差も大きい。
- ・他の地域はほぼ道路関連の項目のみだが、JR以南と豊津・江坂・南吹田では、それ以外の項目でも差が比較的大きく、全般的に差が大きい項目が多い。

図表 II-7 快適性についての重要度評価点と満足度評価点の差

		重要度評価点							重要度評価点と満足度評価点の差						
		⑨ 居住環境の心地よさ	⑩ 公園や緑地の整備状況	⑪ 道路の整備状況	⑫ 歩行者にとっての道路の安全性	⑬ と地域内のごみがいち	⑭ 街並みや景観	⑮ な河川やため池、樹林地	⑨ 居住環境の心地よさ	⑩ 公園や緑地の整備状況	⑪ 道路の整備状況	⑫ の歩行者にとっての道路の安全性	⑬ と地域内のごみがいち	⑭ 街並みや景観	⑮ な河川やため池、樹林地
全体		79.3	71.8	72.9	80.3	75.1	71.1	69.2	11.6	11.0	17.7	35.2	12.1	9.7	13.4
年齢別	30歳未満	78.2	70.2	72.7	78.9	74.5	68.6	68.4	7.1	8.2	14.3	28.7	11.6	7.3	11.4
	30歳代	84.7	74.9	73.4	82.2	75.6	70.4	66.1	13.8	13.3	19.8	42.8	13.9	7.8	11.4
	40歳代	81.8	72.6	73.8	81.3	76.0	72.4	68.4	13.3	10.8	16.8	37.4	13.9	9.8	9.6
	50歳代	78.5	69.3	72.8	80.2	74.4	69.9	68.7	13.4	10.3	19.7	35.4	13.3	9.9	15.6
	60歳代	77.9	71.4	72.8	79.8	74.5	71.8	70.7	13.0	13.4	20.2	33.8	11.2	12.9	16.4
	70歳以上	74.7	71.8	72.0	79.2	75.3	72.5	72.7	6.9	8.8	14.4	31.8	7.9	9.1	15.6
居住地域別	JR以南	73.6	65.0	67.6	76.9	73.1	68.7	69.2	18.1	17.3	21.4	36.5	14.5	20.2	25.9
	片山・岸部	76.4	68.7	71.4	76.6	72.5	67.3	67.2	14.8	14.8	22.7	36.6	14.8	11.9	15.1
	豊津・江坂・南吹田	78.7	73.4	72.9	80.8	75.7	70.4	69.2	17.3	13.8	18.3	38.3	18.3	15.1	17.3
	千里山・佐井寺	80.4	71.3	75.4	83.7	77.5	73.2	70.3	8.6	7.7	20.8	39.6	12.6	7.6	13.7
	山田・千里丘	80.7	73.2	73.9	81.7	74.8	70.9	68.5	11.0	11.7	21.1	40.5	8.8	7.6	11.9
	千里NT・万博・阪大	82.5	75.3	74.2	80.7	76.9	75.7	72.0	5.6	4.2	5.9	21.3	7.5	3.8	5.5

(注1) 重要度評価点から満足度評価点を引いた差。値が大きいほど、「重要度の水準に比して満足度が低い」ことを示す。

(注2) 差の欄におけるグレーの網掛けは差が15以上、白抜き文字は差が20以上。

(資料) 平成26年度(2014年度)吹田市市民意識調査報告書から作成

### (3) 安全性 (図表 II-8)

- ・ 重要度評価点は全ての項目で高い。
- ・ 「⑱消防・救急救命体制」を除き、ほぼ全ての項目、全ての年代・地域で、重要度評価点と満足度評価点の差が20を超えており、安全性に対する満足度の低さがうかがえる。
- ・ 居住地域別で、他地域と比較して特に差が大きい項目は、以下のとおりである。
  - － JR以南：「⑯地震や風水害などに対する対策」「⑰各種の防犯対策」「⑱消防・救急救命体制」
  - － 豊津・江坂・南吹田：「⑯地震や風水害などに対する対策」「⑳大気汚染や騒音などの公害対策」
  - － 千里山・佐井寺：「⑲交通面での安全性」

図表 II-8 安全性についての重要度評価点と満足度評価点の差

(評価点、100点満点)

	重要度評価点					重要度評価点と満足度評価点の差					
	⑯ 地震や風水害などに対する対策	⑰ 各種の防犯対策	⑱ 消防・救急救命体制	⑲ 交通面での安全性	⑳ 大気汚染や騒音などの公害対策	⑯ 地震や風水害などに対する対策	⑰ 各種の防犯対策	⑱ 消防・救急救命体制	⑲ 交通面での安全性	⑳ 大気汚染や騒音などの公害対策	
全体	79.2	78.8	78.9	78.4	77.1	27.4	24.1	19.1	27.2	26.0	
年齢別	30歳未満	78.2	80.2	75.5	78.2	75.5	27.3	26.7	18.2	28.4	22.6
	30歳代	77.5	78.1	76.6	79.9	77.1	26.1	25.5	19.1	32.7	26.9
	40歳代	80.1	81.4	79.1	79.8	77.7	29.0	26.7	19.6	30.1	26.6
	50歳代	78.2	77.8	79.7	78.0	78.0	28.6	25.2	21.6	25.1	28.2
	60歳代	79.3	76.1	79.3	77.3	77.5	28.1	20.4	18.6	26.0	26.5
	70歳以上	81.1	79.0	81.1	76.8	76.3	25.5	21.7	17.4	21.5	24.1
居住地域別	JR以南	80.3	79.4	81.3	77.7	77.5	35.2	27.9	22.9	27.5	28.3
	片山・岸部	77.0	76.9	78.1	76.1	75.3	28.0	24.5	19.5	28.2	27.2
	豊津・江坂・南吹田	80.3	78.3	76.2	77.4	78.0	30.1	22.0	17.2	26.2	32.6
	千里山・佐井寺	80.5	81.3	80.2	81.5	77.5	27.3	24.5	21.0	31.8	23.6
	山田・千里丘	78.6	77.6	78.7	78.6	77.4	26.5	23.7	19.5	29.2	27.5
	千里NT・万博・阪大	80.2	80.3	80.6	79.5	77.9	23.2	24.3	17.3	21.4	19.8

(注1) 重要度評価点から満足度評価点を引いた差。値が大きいほど、「重要度の水準に比して満足度が低い」ことを示す。

(注2) 差の欄におけるグレーの網掛けは差が15以上、白抜き文字は差が20以上。

(資料) 平成26年度(2014年度)吹田市市民意識調査報告書から作成

#### (4) 地域の環境についての全体としての満足度（図表 II-9）

- ・ 年齢別では、30 歳未満の全体としての満足度が全体を約 3 ポイント上回っており、年齢別では最も高くなっている。
- ・ 地域別では、千里NT・万博・阪大における全体としての満足度が全体を約 7 ポイント上回り、他地域と比較して非常に高くなっている。
- ・ JR以南における全体としての満足度は全体を約 7 ポイント下回り、非常に低くなっているほか、片山・岸部でも比較的低い結果になっている。

図表 II-9 地域の環境についての全体としての満足度

(評価点、100点満点)

		全体としての満足度
全体		60.8
年齢別	30歳未満	63.5
	30歳代	60.5
	40歳代	60.8
	50歳代	59.8
	60歳代	59.1
	70歳以上	62.4
居住地域別	JR以南	53.6
	片山・岸部	56.8
	豊津・江坂・南吹田	60.5
	千里山・佐井寺	61.3
	山田・千里丘	60.3
	千里NT・万博・阪大	68.1

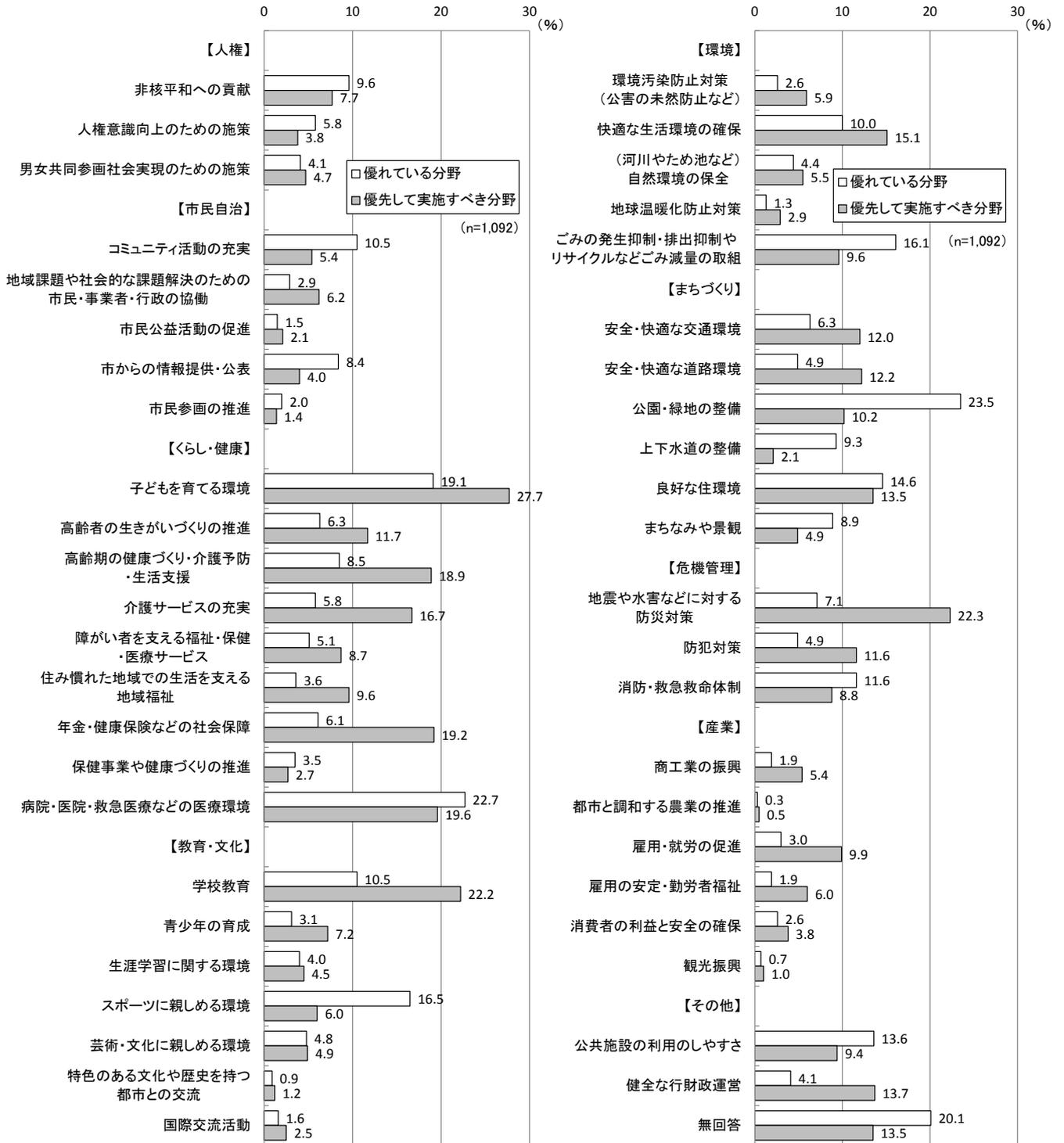
(資料)平成 26 年度(2014 年度)吹田市市民意識調査報告書から作成

### 3 吹田市の方向性・将来像について

#### (1) 吹田市の施策のうち優れている分野・優先して実施すべき分野（図表 II-10）

- ・ 吹田市の施策に関し、「優れている分野」として選択率が高い項目は、以下のとおりである。
  - －子どもを育てる環境
  - －病院・医院・救急医療などの医療環境（★2割以上の回答者が選択）
  - －スポーツに親しめる環境
  - －ごみの発生抑制・排出抑制やリサイクルなどごみ減量の取組
  - －公園・緑地の整備（★2割以上の回答者が選択）
- ・ 「優先して実施すべき分野」としての選択率が高い項目は、以下のとおりである。
  - 優れている分野と重複するもの
    - －子どもを育てる環境
      - （★2割以上の回答者が選択。優れている分野での選択率を大幅に上回る）
    - －病院・医院・救急医療などの医療環境
  - 優れている分野と重複しないもの
    - －高齢期の健康づくり・介護予防・生活支援
    - －介護サービスの充実
    - －年金・健康保険などの社会保障
    - －学校教育（★2割以上の回答者が選択）
    - －快適な生活環境の確保
    - －地震や水害などに対する防災対策（★2割以上の回答者が選択）
- ・ 優先して実施すべき分野については、子育て環境や学校教育のほか、防災対策、社会保障、医療環境など安心安全な暮らしに関する回答や、高齢者の介護予防・生活支援、介護サービスの充実など福祉に関する回答などで選択率が高くなっている。

図表 II-10 吹田市の施策のうち優れている分野・優先して実施すべき分野(複数回答)

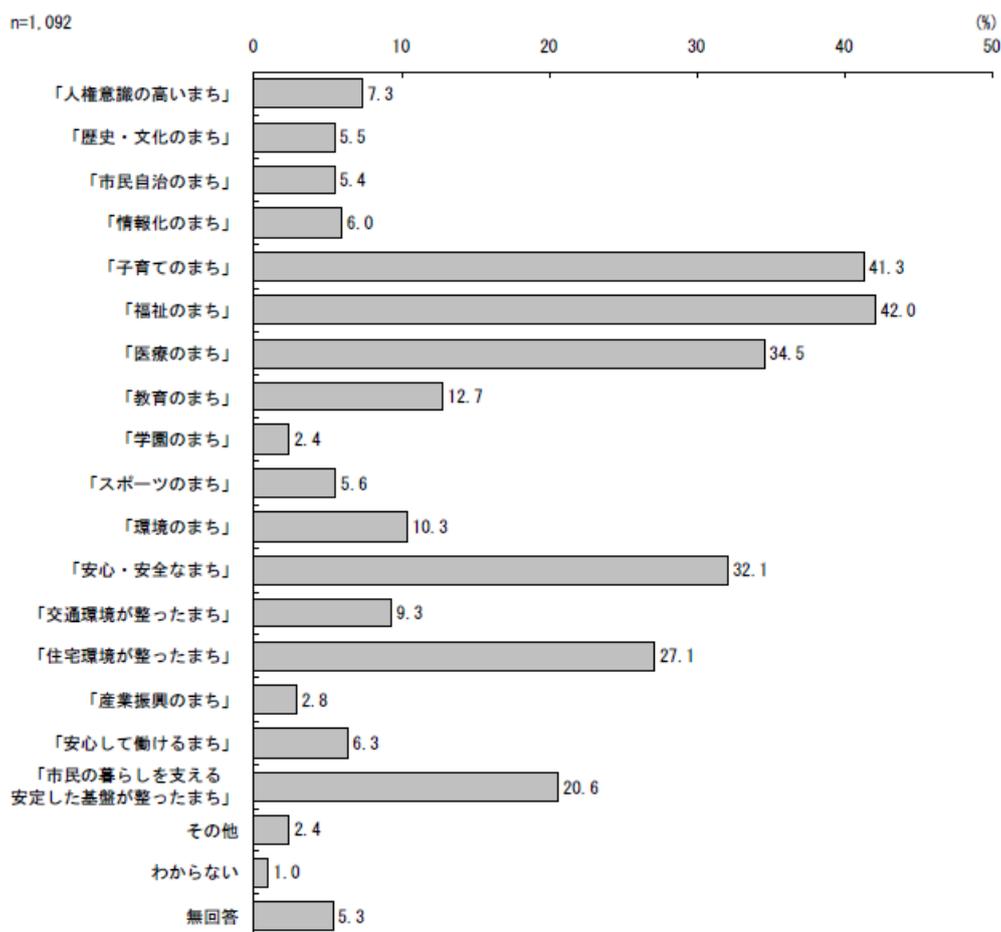


(資料)平成 24 年度(2012 年度)市政モニタリング調査から作成

## (2) 吹田市の望ましい将来像（図表 II-11）

- ・ 「吹田市の望ましい将来像」として選択率が高い項目は、以下のとおりである。
  - －子育てのまち
  - －福祉のまち
  - －医療のまち
  - －安心・安全なまち
  - －住宅環境が整ったまち
  - －市民の暮らしを支える安定した基盤が整ったまち
- ・ 「(1)吹田市の施策のうち優れている分野・優先して実施すべき分野」の傾向と同様に、子育てや福祉、医療、安心・安全、住宅環境に関する選択率が高く、「あらゆる世代が快適かつ安心・安全に暮らせる住環境を備えた都市」という将来像が求められていることが推察される。

図表 II-11 吹田市の望ましい将来像



(資料)平成 24 年度(2012 年度)市政モニタリング調査

### Ⅲ 政策別の調査結果

#### 1 すべての人がいきいき輝くまちづくり

##### (1) 政策に関する評価（図表Ⅲ-1）

- ・ 人権・平和・男女共同参画についての重要度評価点について、項目間で著しく値が異なるものはみられない。
- ・ 重要度評価点と満足度評価点の差をみると、「1. 非核平和への貢献」では、「女性」「70歳以上」「千里山・佐井寺」「千里NT・万博・阪大」ではやや差が大きいものの、他の項目では差が大きいものはない。

図表Ⅲ-1 人権・平和・男女共同参画についての重要度評価点と満足度評価点の差

		重要度評価点				重要度評価点と満足度評価点の差			
		1. 非核 平和 への 貢献	2. 施人 権 意 識 の 向 上 の た め の	3. た 男 女 の 共 同 参 画 社 会 実 現 の	4. 項 目 1 と 3 の 総 合 評 価	1. 非 核 平 和 へ の 貢 献	2. 施人 権 意 識 の 向 上 の た め の	3. た 男 女 の 共 同 参 画 社 会 実 現 の	4. 項 目 1 と 3 の 総 合 評 価
全体		65.9	64.5	63.3	63.4	13.3	12.5	12.6	11.9
性別	女性	68.5	65.2	64.5	64.7	15.9	13.2	14.1	13.2
	男性	62.8	63.6	61.8	61.7	9.9	11.5	10.7	10.2
年齢別	30歳未満	64.8	66.5	65.3	66.4	12.5	14.2	12.3	13.6
	30歳代	59.2	61.6	61.2	59.5	6.9	10.3	12.5	9.0
	40歳代	62.8	63.2	61.8	61.9	11.0	11.6	10.4	11.2
	50歳代	66.8	65.3	63.6	64.3	14.4	14.0	14.0	13.0
	60歳代	68.5	65.3	63.8	64.0	14.9	12.5	12.9	12.2
	70歳以上	72.6	65.4	64.8	65.3	19.2	12.9	13.7	13.0
居住地域別	JR以南	67.6	64.3	62.6	62.9	14.4	12.7	11.0	11.8
	片山・岸部	67.9	66.0	64.8	63.6	13.6	12.7	12.8	11.0
	豊津・江坂・南吹田	63.1	61.8	60.6	60.7	8.9	8.5	9.6	7.9
	千里山・佐井寺	67.5	66.4	65.4	64.3	15.6	14.4	14.5	13.0
	山田・千里丘	64.4	64.1	63.6	64.0	12.4	12.6	13.4	13.0
	千里NT・万博・阪大	67.0	65.0	62.8	64.5	15.4	14.2	13.3	13.9

(注1) 重要度評価点から満足度評価点を引いた差。値が大きいほど、「重要度の水準に比して満足度が低い」ことを示す。

(注2) 差の欄におけるグレーの網掛けは差が15以上、白抜き文字は差が20以上。

(資料) 平成26年度(2014年度)吹田市市民意識調査報告書から作成

## (2) 個別事項の状況

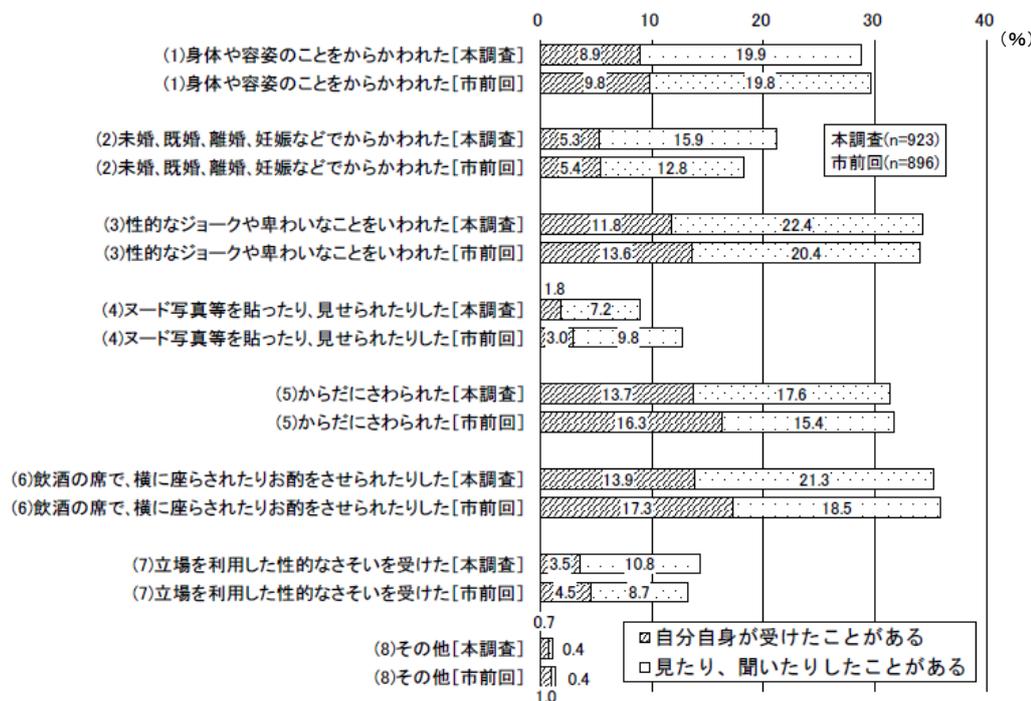
- ・セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）を受けたことがある、あるいは見聞きしたことがある人の割合は、前回調査から5年以上経過しても大きく変化していないだけでなく、複数の項目で発生頻度が上昇している。（図表 III-2）
- ・DV（ドメスティック・バイオレンス）被害を受けた経験がある人のうち「どこにも相談しなかった」のは4割以上で、公的機関（警察含む）に相談した回答者はわずかである。（図表 III-3）
- ・公的なDV相談窓口の認知度は警察を除いて低く、「すいたストップDVステーション（DV相談室）」は約8割が「知らなかった」と回答している。（図表 III-4、図表 III-5）
- ・家庭生活や地域活動、学校教育における男女平等はある程度達成されているが、職場や政治、慣習やしきたりの面では男性が優遇されているという意識が強い。（図表 III-6）
- ・吹田市立男女共同参画センター デュオの知名度は低く、前回調査から向上していない。（図表 III-7）

### 考察

セクハラ防止、男女共同参画に関する意識高揚については、学校での教育や企業への働きかけ等を通じて、時間をかけて取り組んでいく必要がある。

また、DV相談については、被害者が安心して相談できるような体制を整備するとともに、認知度の向上や支援を必要とするDV被害者に必要な支援が行き届くような仕組みを検討する必要がある。

図表 III-2 セクシュアル・ハラスメントを受けたり聞いたりした体験

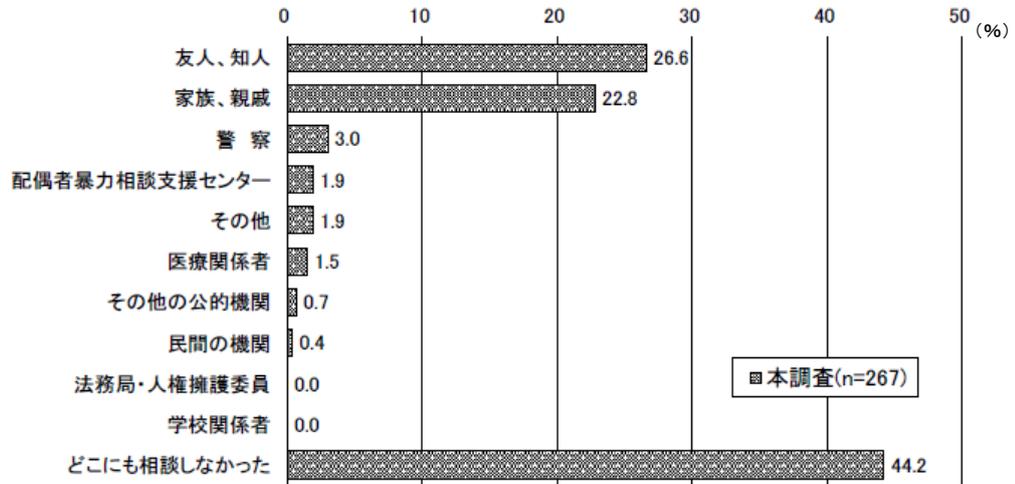


(注1) 回答者には男性を含む。(以下同様)

(注2) 「市前回」は平成22年(2010年)9月の調査。(以下同様)

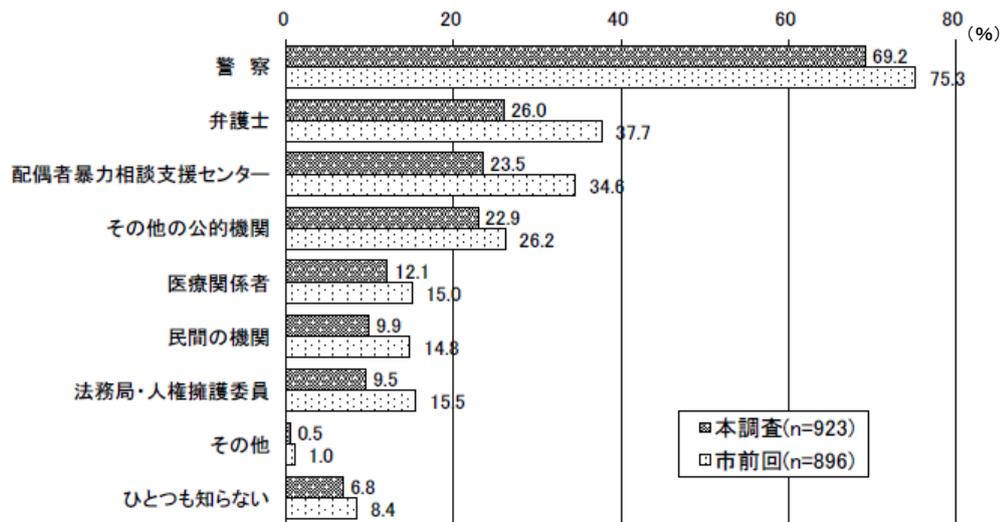
(資料) 平成27年度(2015年度)男女共同参画に関する市民意識・実態調査報告書

図表 III-3 DV被害を打ち明けたり相談したりした先



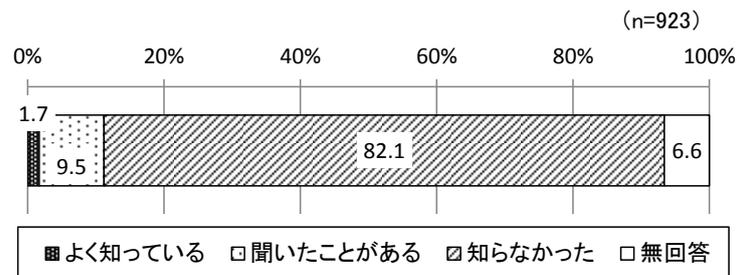
(資料)平成 27 年度男女共同参画に関する市民意識・実態調査報告書

図表 III-4 DV相談窓口として知っているもの



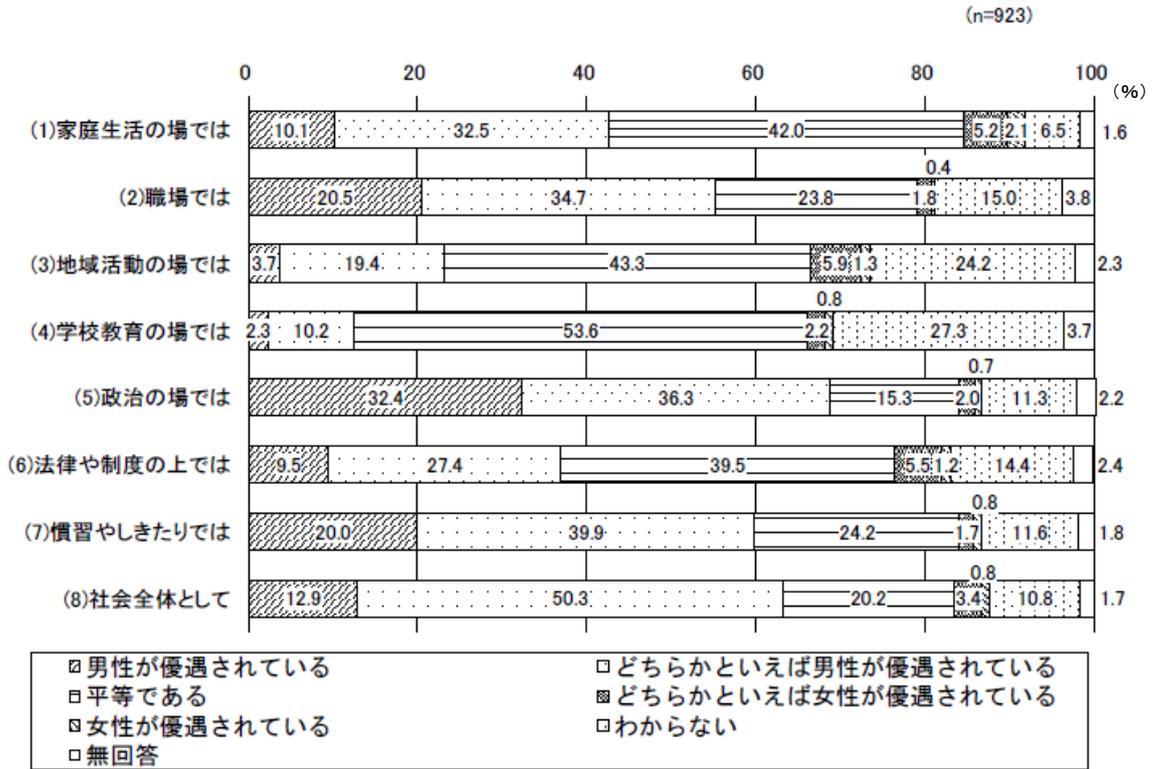
(資料)平成 27 年度男女共同参画に関する市民意識・実態調査報告書

図表 III-5 「すいたストップDVステーション(DV相談室)」の認知度



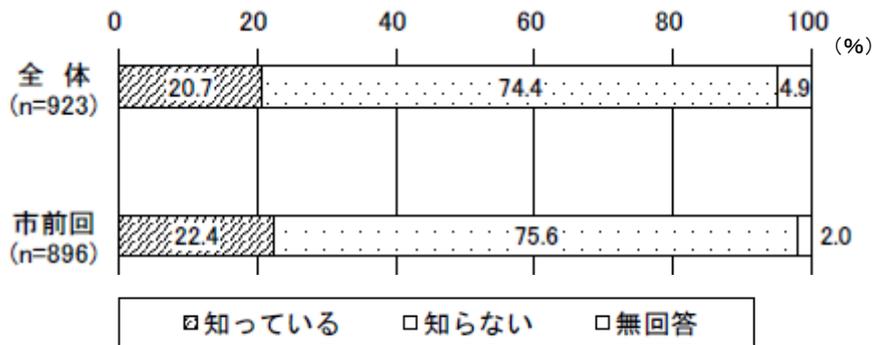
(資料)平成 27 年度(2015 年度)男女共同参画に関する市民意識・実態調査報告書

図表 III-6 各分野において、男女の地位は平等か



(資料)平成 27 年度(2015 年度)男女共同参画に関する市民意識・実態調査報告書

図表 III-7 吹田市立男女共同参画センター デュオの知名度



(資料)平成 27 年度(2015 年度)男女共同参画に関する市民意識・実態調査報告書

## 2 市民自治が育む自立のまちづくり

### (1) 政策に関する評価（図表 III-8）

- ・ 市民自治についての重要度評価点について、項目間で著しく値が異なるものはみられない。
- ・ 重要度評価点と満足度評価点の差をみると、市全体で「6. 地域課題や社会的な課題の解決のための市民、事業者、行政の協働」と「8. 市からの情報提供・公表」の差が総合評価に比べてやや大きく、市民の側でも、協働や、その前提となる情報提供・公表の重要性を認識していることが推察される。

図表 III-8 市民自治についての重要度評価点と満足度評価点の差

		重要度評価点						重要度評価点と満足度評価点の差					
		5. コミュニティ活動の充実	6. 業者、行政の協働	7. 市民公益活動の促進	8. 市からの情報提供・公表	9. 市民参画の推進	10. 項目5と9の総合評価	5. コミュニティ活動の充実	6. 業者、行政の協働	7. 市民公益活動の促進	8. 市からの情報提供・公表	9. 市民参画の推進	10. 項目5と9の総合評価
全体		60.4	61.0	58.1	62.9	58.3	58.9	8.1	11.3	7.5	12.1	7.6	8.3
性別	女性	60.9	61.7	58.3	63.4	59.2	59.5	7.4	11.8	7.9	12.1	8.3	8.5
	男性	59.7	60.1	57.8	62.3	57.3	58.1	9.0	10.9	7.1	12.1	6.9	8.0
年齢別	30歳未満	61.7	62.0	59.8	61.8	57.5	59.7	8.1	10.7	8.8	9.4	5.8	8.4
	30歳代	57.4	58.7	55.9	60.6	57.0	57.2	5.8	10.0	6.9	11.2	7.2	7.0
	40歳代	58.0	59.4	55.6	59.9	56.0	56.5	4.8	9.4	3.8	8.4	5.3	5.5
	50歳代	60.3	60.1	57.3	63.7	58.1	58.6	9.8	11.3	8.3	16.6	9.5	9.5
	60歳代	60.1	61.3	57.8	63.8	58.7	59.3	8.0	11.2	6.7	12.5	7.5	8.5
	70歳以上	65.7	64.8	62.9	67.7	62.7	62.6	13.0	15.3	11.5	14.9	10.6	11.1
居住地域別	JR以南	60.3	62.7	59.3	64.0	58.4	58.2	10.9	14.9	8.8	15.6	8.7	9.9
	片山・岸部	62.3	62.3	59.4	63.1	59.4	60.7	9.9	13.0	9.4	11.5	8.1	8.7
	豊津・江坂・南吹田	61.5	60.8	58.1	62.7	58.8	59.6	9.1	10.8	8.3	11.6	7.5	8.8
	千里山・佐井寺	61.5	63.0	58.8	63.4	59.2	60.1	7.7	11.8	6.3	12.9	8.1	9.0
	山田・千里丘	58.8	59.2	56.5	61.8	57.9	58.2	5.7	9.3	6.3	10.6	7.4	7.8
	千里NT・万博・阪大	59.5	60.6	58.0	64.1	57.5	57.6	8.4	11.8	7.7	13.8	7.5	7.5

(注1) 重要度評価点から満足度評価点を引いた差。値が大きいほど、「重要度の水準に比して満足度が低い」ことを示す。

(注2) 差の欄におけるグレーの網掛けは差が15以上、白抜き文字は差が20以上。

(資料) 平成26年度(2014年度)吹田市市民意識調査報告書から作成

## (2) 個別事項の状況

- ・地域活動への参加経験や参加希望については、町内会・自治会、スポーツ、芸術文化、イベント・行事など、比較的身近な活動は参加してみたいとする回答率が高くなっているが、青少年育成、社会福祉、まちづくり、消防団など、一定の責務が発生するような活動へ参加してみたいとする回答率は低い傾向にある。(図表 III-9)
- ・自治会への加入状況は全体で約6割となっている。若い世代ほど加入率は低下している。ただし、自治会未加入理由について、「近所付き合いをしたくない」や「自治会費などが高い」の回答率は若い世代においても非常に低い。(図表 III-10、図表 III-11)
- ・地域の自治組織(連合自治会、福祉委員会、青少年対策委員会、体育振興会)の活動における問題として、共通して認識されているのは「役員の負担が大きく、なり手が少ない」及び「担い手不足」である。また、連合自治会、福祉委員会及び体育振興会では「高齢化による活動への支障」、連合自治会と福祉委員会では「行政からの依頼事項が多い」、連合自治会と青少年対策委員会では「予算が少ない」、体育振興会では「行事、活動等の参加者が少ない」が、問題として認識されている。(図表 III-12)
- ・また、団体における課題解決のために必要な取組として共通して多い回答は、「役員の負担の軽減」「次の担い手育成」「関係団体との連携・協力」である。また、連合自治会と体育振興会では「会員の加入促進」、福祉委員会と体育振興会では「活動のPR」、青少年対策委員会では「事業内容の見直し及び効率化」という回答が多い。(図表 III-13)
- ・さらに、行政が取り組むべき事項として、共通して多い回答は、「情報の提供」や「地域の人材の育成」、「地域活動に関する市民への意識啓発」であり、また体育振興会以外の団体では「活動費の助成」も多くなっている。(図表 III-14)
- ・市政への参画経験については、ワークショップやパブリックコメント等、参画のレベルにかかわらず、ほとんどの市民が経験していない。(図表 III-15)
- ・情報の入手媒体としてパソコンやスマホを使用し、SNS等から情報を入手している人が多いが、市政情報に関しては、市のホームページやSNSを活用している人は少ない。(図表 III-16)
- ・市のITサービスの利用度では、ホームページが最も高く、利用したことがある人が半数を超える。コンビニ収納(税、国保料の支払い)を利用したことがある人は3割程度、健康・医療・子育てに関する情報や防災に関する情報、図書館の蔵書検索を利用したことがある人は2割程度となっている。(図表 III-17)
- ・市民サービス分野及び災害対策分野でのIT活用が求められているが、情報化の進展に伴い個人情報保護等のセキュリティ管理に対する不安を持つ人が6割以上である。(図表 III-18)

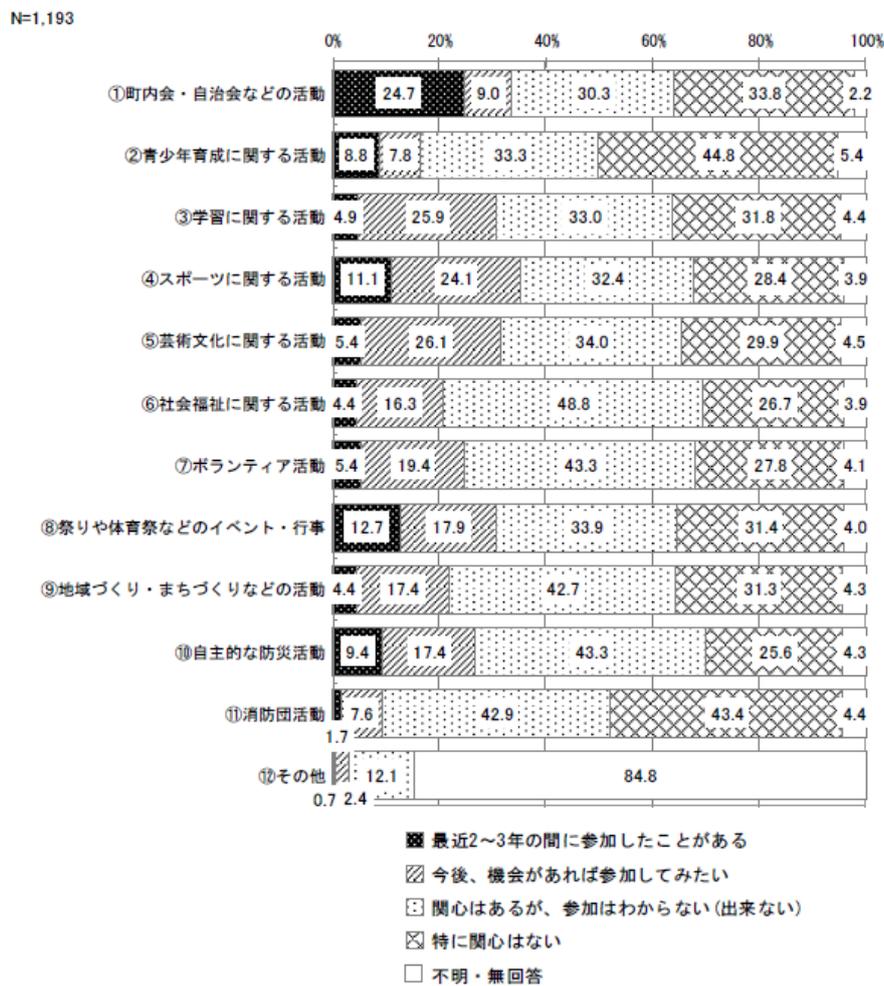
### 考察

現状は地域活動に参加していなくても、関心はあるが活動を始めるきっかけがない「潜在的担い手」はある程度の規模で存在すると見込まれる。一方で、地域の自治組織の活動においては、担い手不足や参加者不足が問題として認識されているほか、担い手

の育成や地域活動に関する市民への意識啓発等が行政に求められており、特に、若い世代の参加促進に向けて、様々な分野、様々な活動レベルでの参加するきっかけづくりを支援する取組が必要である。また、地域活動から、関心のある分野の市政への参画につながることも考えられる。

市政情報の発信については、市のホームページやSNSを、有効に活用するための方策を検討する必要がある。またITを活用したサービスについては、厳重なセキュリティ管理のもと、市民サービスの利便性向上に向けた取組を実施する必要がある。

図表 III-9 地域活動への関心度



(資料)平成 26 年度(2014 年度)吹田市市民意識調査報告書

図表 III-10 自治会への加入状況

(%)

	加入	未加入	なわ いから	無 回 答
全体 (n=1,092)	60.7	28.9	8.7	1.6
30歳未満 (n=91)	26.4	46.2	26.4	1.1
30歳代 (n=166)	41.6	41.0	16.9	0.6
40歳代 (n=201)	58.7	34.3	6.5	0.5
50歳代 (n=157)	60.5	30.6	7.6	1.3
60歳代 (n=214)	74.3	20.6	3.3	1.9
70歳以上 (n=172)	81.4	13.4	2.9	2.3

(資料)平成 24 年度(2012 年度)市政モニタリング調査

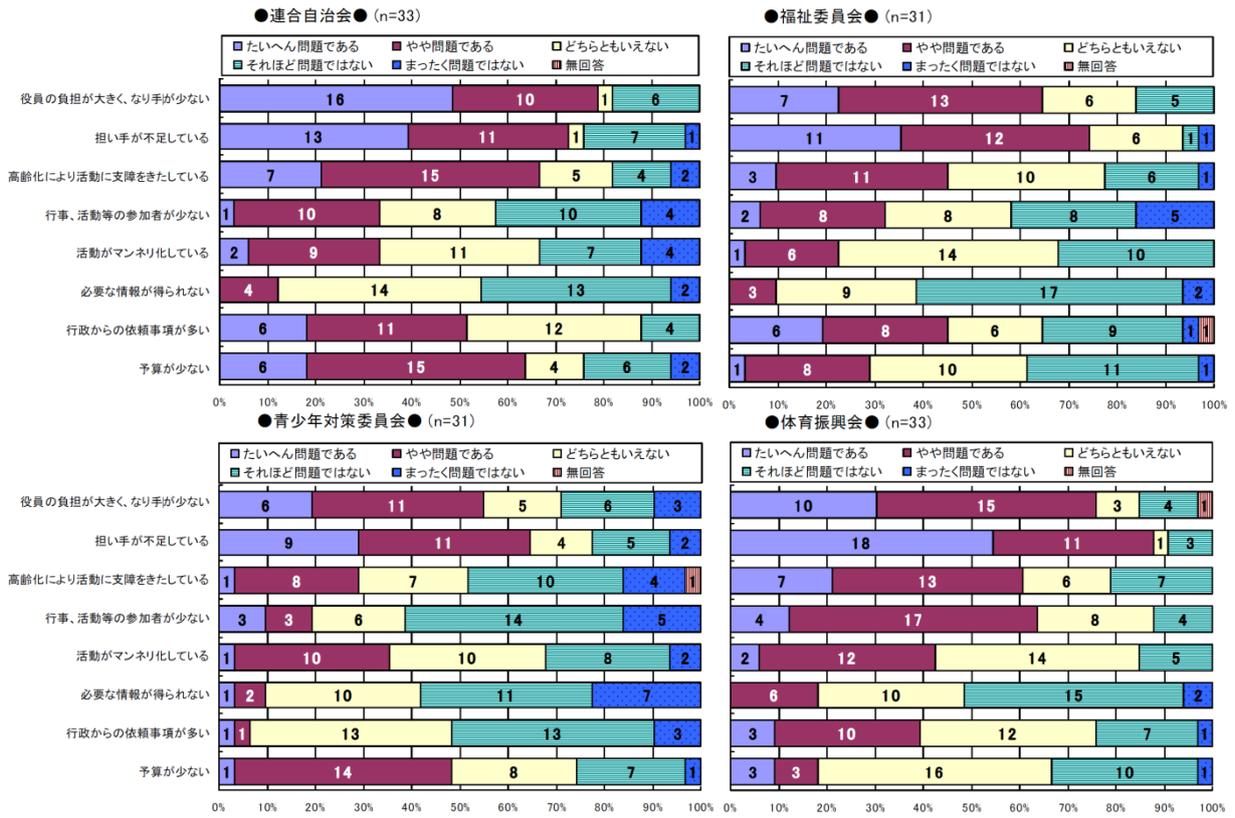
図表 III-11 自治会未加入の理由

(%)

	近 所 付 き 合 い を し た く な い	自 治 会 費 な ど が 高 い	役 員 を 引 き 受 け た く な い	わ か ら な い ( き つ か け が な い)	加 入 の 仕 方 が な い	加 入 す る メ リ ッ ト が な い	会 議 や 参 加 で 事 が な い	仕 事 が 忙 し く な い	自 治 会 の 住 民 に な ら な い	自 分 の 住 居 の 周 り に な ら な い	そ の 他	無 回 答
全体 (n=316)	3.5	2.2	15.8	23.1	22.5	28.2	13.9	19.3	6.3			
30歳未満 (n=42)	4.8	7.1	9.5	42.9	31.0	38.1	0.0	19.0	0.0			
30歳代 (n=68)	4.4	2.9	10.3	38.2	13.2	35.3	17.6	16.2	4.4			
40歳代 (n=69)	1.4	0.0	18.8	20.3	20.3	27.5	14.5	21.7	4.3			
50歳代 (n=48)	2.1	2.1	18.8	10.4	22.9	27.1	18.8	22.9	8.3			
60歳代 (n=44)	9.1	0.0	18.2	9.1	22.7	15.9	20.5	20.5	11.4			
70歳以上 (n=23)	0.0	4.3	39.1	21.7	43.5	0.0	0.0	17.4	4.3			

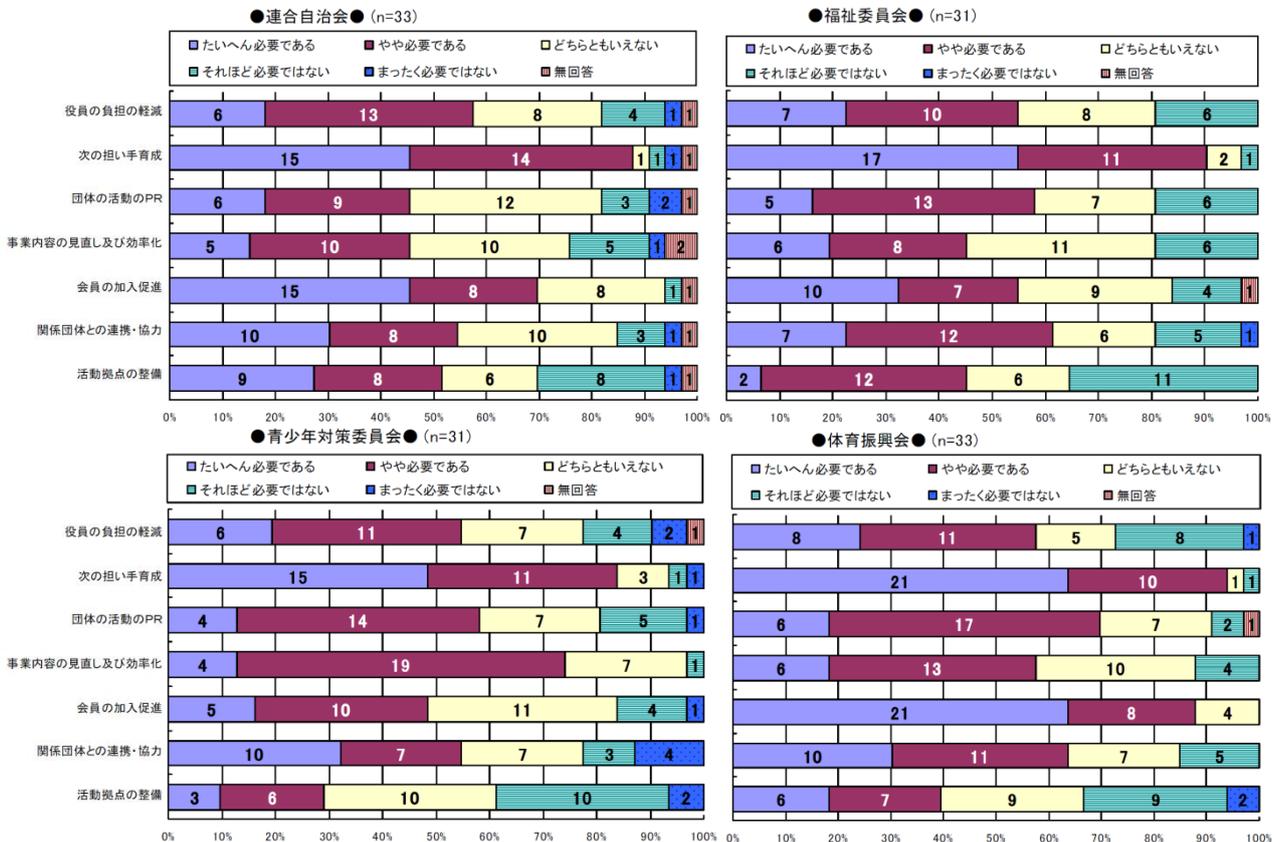
(資料)平成 24 年度(2012 年度)市政モニタリング調査

図表 III-12 地域の自治組織における問題



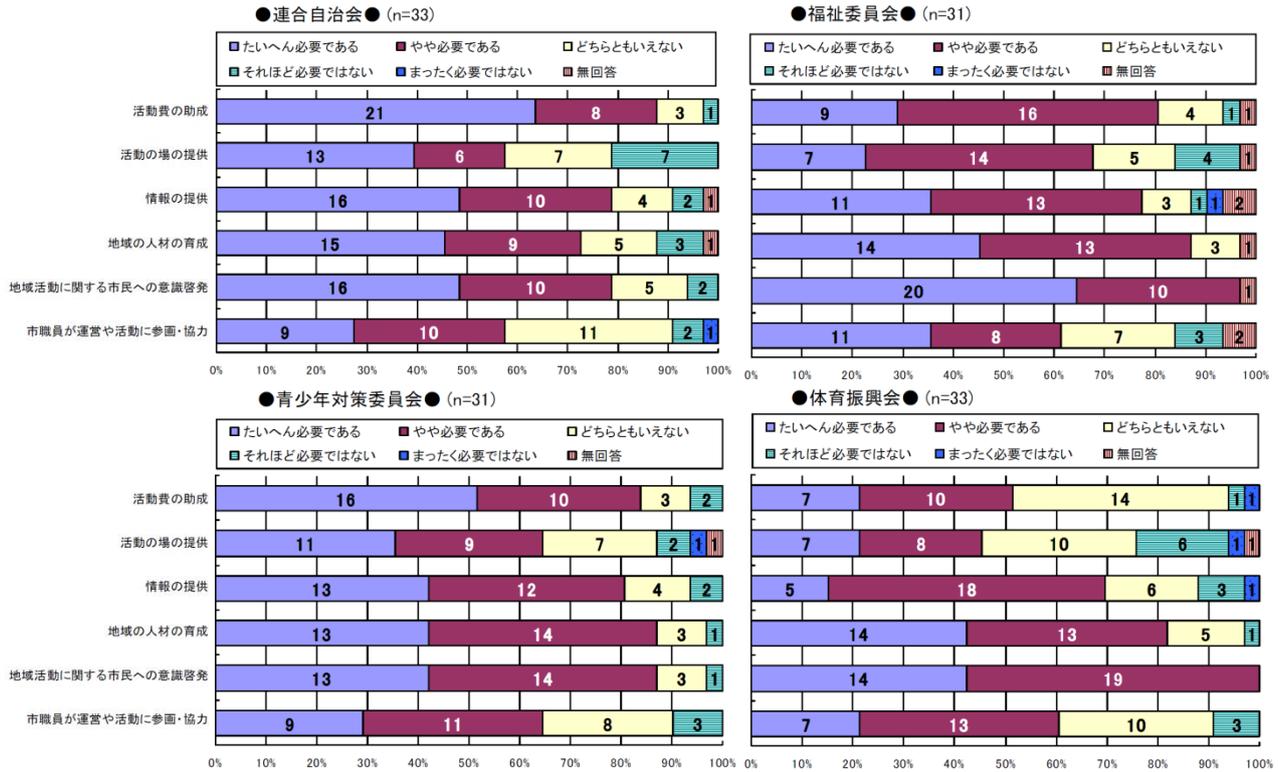
(資料)地域の自治組織についてのアンケート調査報告書(平成28年(2016年)5月)

図表 III-13 課題解決のために必要な取組



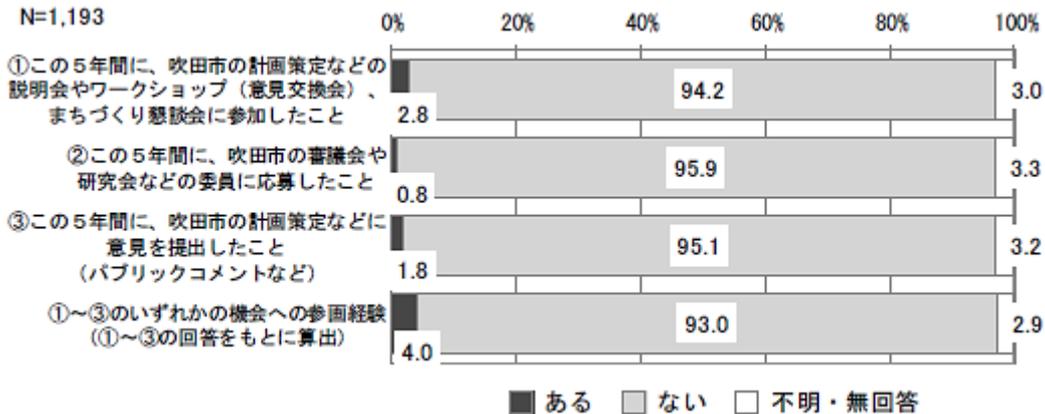
(資料)地域の自治組織についてのアンケート調査報告書(平成28年(2016年)5月)

図表 III-14 行政が取り組むべき事項



(資料) 地域の自治組織についてのアンケート調査報告書(平成 28 年(2016 年)5月)

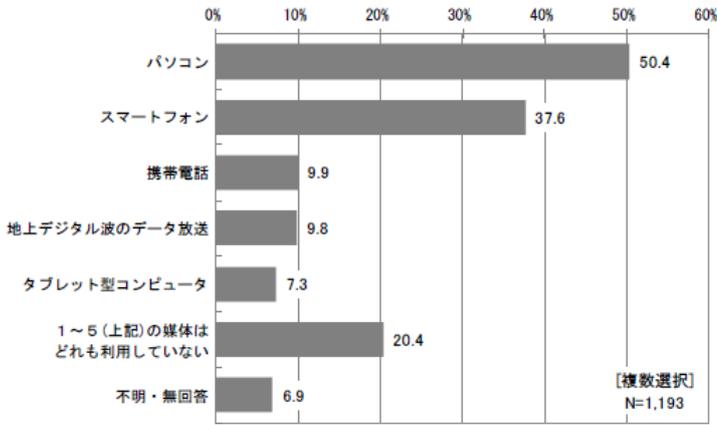
図表 III-15 市政への参画経験



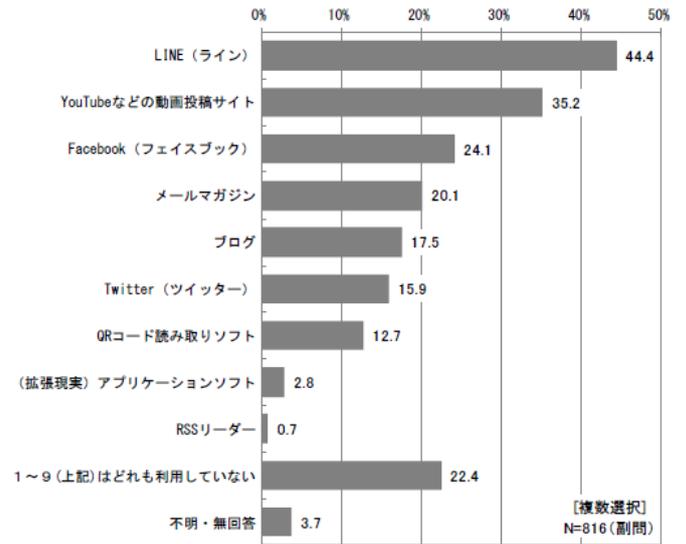
(資料) 平成 26 年度(2014 年度)吹田市市民意識調査報告書

図表 III-16 情報の入手媒体・利用サイトと市政情報の入手方法

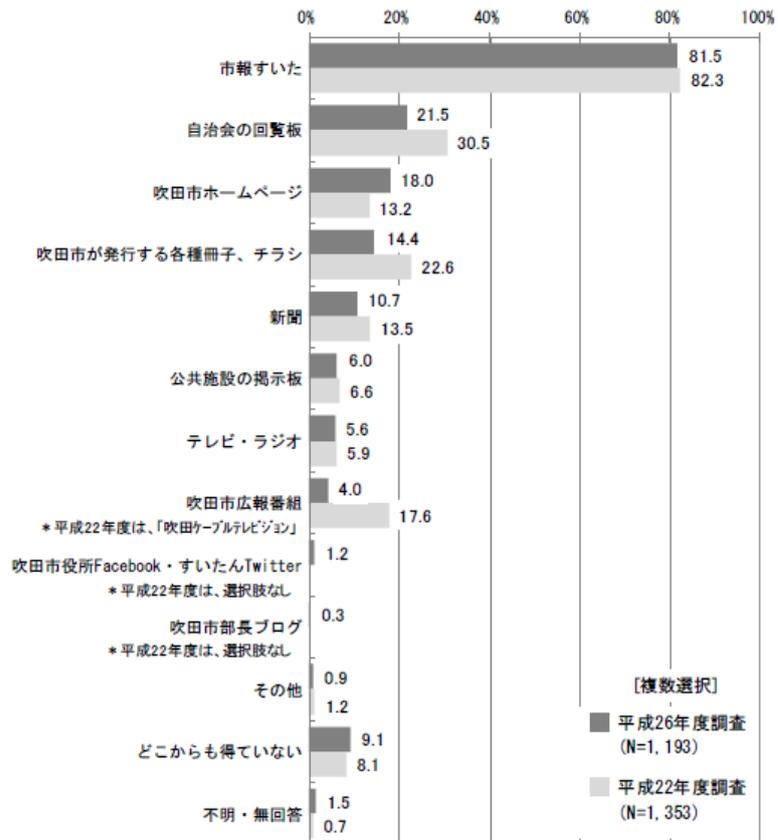
■情報の入手媒体



■利用しているサイト

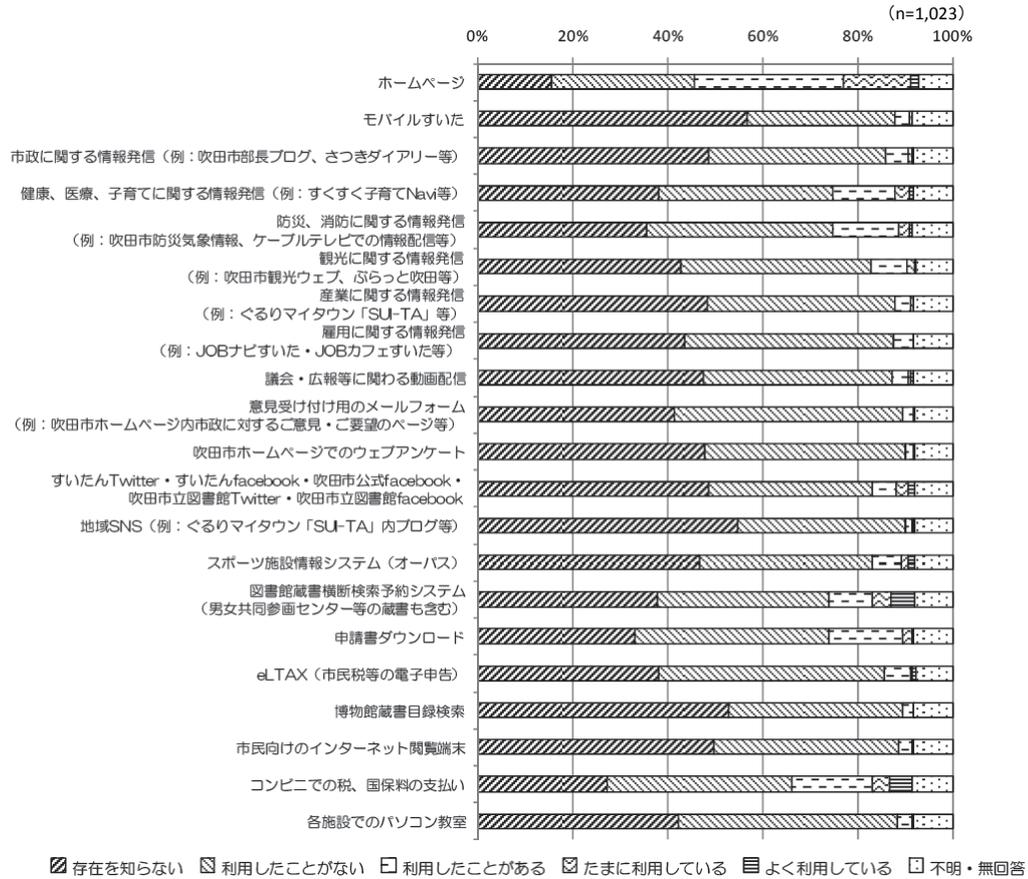


■市政情報の入手方法



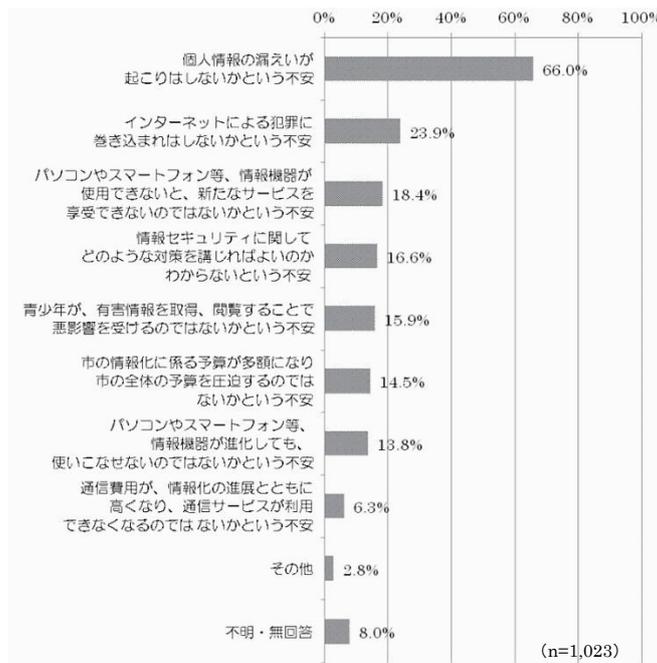
(資料) 平成 26 年度 (2014 年度) 吹田市市民意識調査報告書

図表 III-17 吹田市におけるITによる各種サービスの利用度



(資料)吹田市第3期情報化推進計画(平成26年度～平成30年度)

図表 III-18 情報化の進展に伴う不安



(資料)吹田市第3期情報化推進計画(平成26年度～平成30年度)

### 3 健康で安心して暮らせるまちづくり

#### (1) 政策に関する評価（図表 III-19）

- 健康と安心に関する重要度評価点（上下水道を除く）のうち、総合評価よりも点数が高い項目は、以下のとおりである。
  - －11. 子どもを育てる環境
  - －19. 病院・医院・救急医療などの医療環境
- 重要度評価点と満足度評価点の差をみると、市全体で 20 を超えている項目は、以下のとおりである。
  - －12. 虐待防止、ひとり親家庭への支援
  - －14. 高齢期の健康づくり・介護予防・生活支援
  - －17. 生活を支える社会保障
  - －19. 病院・医院・救急医療などの医療環境
- 地域別では、JR以南で差が 20 を超える項目が多く、特に「11. 子どもを育てる環境」と「17. 生活を支える社会保障」で差が大きい。

図表 III-19 暮らし・健康についての重要度評価点と満足度評価点の差

（評価点、100点満点）

		重要度評価点											22. 評価項目 11. 5. 2. 1. の総合評価
		11. 子どもを育てる環境	12. 虐待防止、ひとり親家庭への支援	13. 高齢者の生きがいづくり	14. 高齢期の健康づくり・介護	15. 保健・医療サービス福祉	16. 住み慣れた地域での生活を支える社会保障	17. 生活を支える社会保障	18. 保健事業や健康づくりの推進	19. 病院・医院・救急医療な	20. 良質な水道水の安定供給	21. 公共下水道の整備	
全体		74.8	70.4	68.4	70.4	69.7	67.3	70.1	68.2	78.0	76.0	73.7	71.0
性別	女性	76.4	71.9	69.9	72.2	70.9	68.5	71.4	69.0	79.6	77.5	74.9	72.0
	男性	73.0	68.5	66.6	68.2	68.2	66.0	68.7	67.2	76.1	74.2	72.2	69.9
年齢別	30歳未満	74.6	74.4	68.4	69.7	71.8	67.4	71.4	70.6	78.4	75.4	73.7	72.8
	30歳代	79.9	69.9	65.5	66.5	67.3	64.2	67.5	66.4	78.8	73.2	71.1	70.2
	40歳代	74.5	69.0	66.3	67.3	66.6	64.8	67.6	65.4	77.7	73.8	70.3	67.9
	50歳代	72.8	68.0	69.1	71.1	69.2	68.1	70.2	68.8	77.0	74.7	72.1	70.6
	60歳代	72.9	70.4	69.7	72.7	70.5	66.6	70.2	67.5	77.2	77.5	76.2	71.8
	70歳以上	74.6	71.6	71.7	74.9	73.6	73.3	74.3	71.6	79.2	80.8	78.4	74.0
居住地域別	JR以南	75.3	69.7	69.8	70.9	70.7	67.4	70.9	68.4	77.7	75.8	72.2	70.2
	片山・岸部	75.6	71.9	69.1	71.8	70.7	69.8	70.8	70.4	79.5	76.7	75.2	72.8
	豊津・江坂・南吹田	72.5	68.2	66.1	66.6	66.4	64.0	67.4	64.9	73.1	71.8	69.5	67.9
	千里山・佐井寺	77.0	74.4	72.0	73.2	73.9	68.9	72.2	70.1	79.0	77.6	75.6	73.1
	山田・千里丘	74.7	69.2	66.8	70.5	69.4	67.0	70.3	68.8	79.4	77.0	75.0	71.5
	千里NT・万博・阪大	75.2	69.9	68.9	70.8	68.7	68.0	70.8	67.5	79.0	77.3	74.2	70.8

(評価点、100点満点)

		重要度評価点と満足度評価点の差											
		11. 子どもの育てる環境	12. 虐待防止、ひとり親家庭への支援	13. 高齢者の生きがいづくりの推進	14. 高齢期の健康づくり・介護予防・生活支援	15. 障がい者を支える福祉・医療サービス	16. 住み慣れた地域での生活を支える福祉	17. 生活を支える社会保障	18. 保健事業や健康づくりの推進	19. 病院・医療環境・救急医療など	20. 良質な水道水の安定供給	21. 公共下水道の整備	22. 項目11～21の総合評価
全体		17.0	<b>20.4</b>	18.2	<b>20.1</b>	18.8	16.1	<b>21.5</b>	15.9	<b>20.6</b>	12.9	12.4	17.5
性別	女性	18.4	<b>21.8</b>	19.1	<b>21.6</b>	19.9	16.9	<b>23.0</b>	16.5	<b>22.8</b>	14.5	13.9	18.3
	男性	15.6	18.7	17.0	18.4	17.6	15.4	20.0	15.3	18.1	11.2	10.8	16.8
年齢別	30歳未満	14.5	<b>23.5</b>	14.4	15.7	19.3	14.6	<b>20.6</b>	15.7	18.5	12.3	12.7	17.7
	30歳代	<b>23.2</b>	<b>21.6</b>	16.1	18.5	18.0	15.4	<b>21.0</b>	17.2	<b>25.2</b>	13.5	12.9	<b>20.0</b>
	40歳代	15.9	18.5	14.6	16.0	15.2	13.8	18.5	13.7	<b>22.2</b>	12.9	8.9	14.7
	50歳代	14.7	19.1	19.6	<b>21.4</b>	19.2	17.6	19.9	17.2	<b>20.2</b>	13.5	12.5	17.7
	60歳代	17.0	19.9	<b>20.9</b>	<b>22.9</b>	19.5	15.1	<b>21.9</b>	14.5	19.7	13.4	14.3	18.8
	70歳以上	16.1	<b>21.1</b>	<b>22.6</b>	<b>25.1</b>	<b>22.6</b>	<b>20.9</b>	<b>26.8</b>	18.2	18.2	12.3	13.8	17.2
居住地域別	JR以南	<b>25.3</b>	<b>22.2</b>	<b>21.4</b>	<b>20.9</b>	<b>21.5</b>	18.5	<b>24.7</b>	17.3	<b>22.1</b>	11.3	11.7	18.8
	片山・岸部	18.1	<b>21.8</b>	19.0	<b>21.9</b>	19.1	17.9	<b>23.0</b>	17.7	<b>22.9</b>	14.1	15.6	19.6
	豊津・江坂・南吹田	17.4	18.6	16.5	16.7	16.0	13.4	19.1	13.7	19.5	11.6	10.2	15.0
	千里山・佐井寺	15.8	<b>22.3</b>	19.2	<b>21.2</b>	<b>21.1</b>	16.1	<b>22.1</b>	16.0	19.8	14.2	13.1	17.9
	山田・千里丘	16.2	19.4	16.1	<b>20.1</b>	19.2	16.2	<b>21.3</b>	16.5	<b>22.0</b>	13.7	14.3	17.9
	千里NT・万博・阪大	15.0	<b>20.2</b>	19.7	<b>21.0</b>	18.1	16.5	<b>22.1</b>	15.7	18.3	12.5	9.8	17.3

(注1) 重要度評価点から満足度評価点を引いた差。値が大きいほど、「重要度の水準に比して満足度が低い」ことを示す。

(注2) 差の欄におけるグレーの網掛けは差が15以上、白抜き文字は差が20以上。

(資料) 平成26年度(2014年度)吹田市市民意識調査報告書から作成

## (2) 個別事項の状況

### ① 子育て支援に関する事項

- ・結婚や出産、子育てしやすい環境をつくるために必要なサポートとして、最も回答率が高いのは「保育所などの預け先の施設数やサービス内容の充実」であり、次いで「夫婦がともに働き続けられるような職場環境の充実」「女性が働きやすい環境づくり」「長時間労働の是正、有給休暇の取得促進など、自由な時間や育児時間の確保」が続いている。就業の継続を前提として子育てを考える人が比較的多いことが推察される。(図表 III-20)
- ・就学前児童、就学児童の保護者のそれぞれ約2割が、日常的にも緊急時にも子どもの面倒を見てもらえる人がいないと回答している。また、幼稚園・保育所に対する要望では、保育所の定員増のほか、一時預かり、病児・病後児保育、緊急時保育等へのニーズも大きい。(図表 III-21、図表 III-22)
- ・また、園舎の改修・耐震化、設備の改修・更新、給食の回数・内容の充実(アレルギー対応含む)など、子どもの安心・安全に関する事項へのニーズが大きい。(図表 III-21)
- ・子育てに関する悩みとしては子どもが小学校に入るまでは、子育てによる自身の行動の制約や心身の疲れに関する回答が比較的多い。(図表 III-23)
- ・子育て支援事業について希望するサービスとしては、就学前児童の保護者が子育て親子の交流の場・遊び場の提供が子育てに関する相談・援助や情報提供、講習の割合を大幅に上回っている。(図表 III-24)
- ・就学前児童の保護者の半数以上が、子どもの交流を目的とした保育所・幼稚園・小学校の連携を希望しているほか、子ども会活動に「異年齢の子どもの交流活動の充実」を期待する保護者も多いなど、異年齢の子ども同士の交流に対するニーズがある。(図表 III-25、図表 III-26)
- ・「男は仕事、女は家庭」という考え方は、若い世代においても未だ根強く残っている。男性の育児休暇の利用希望については、たとえ制度があったとしても女性と比べて取得に消極的である。(図表 III-27、図表 III-28)

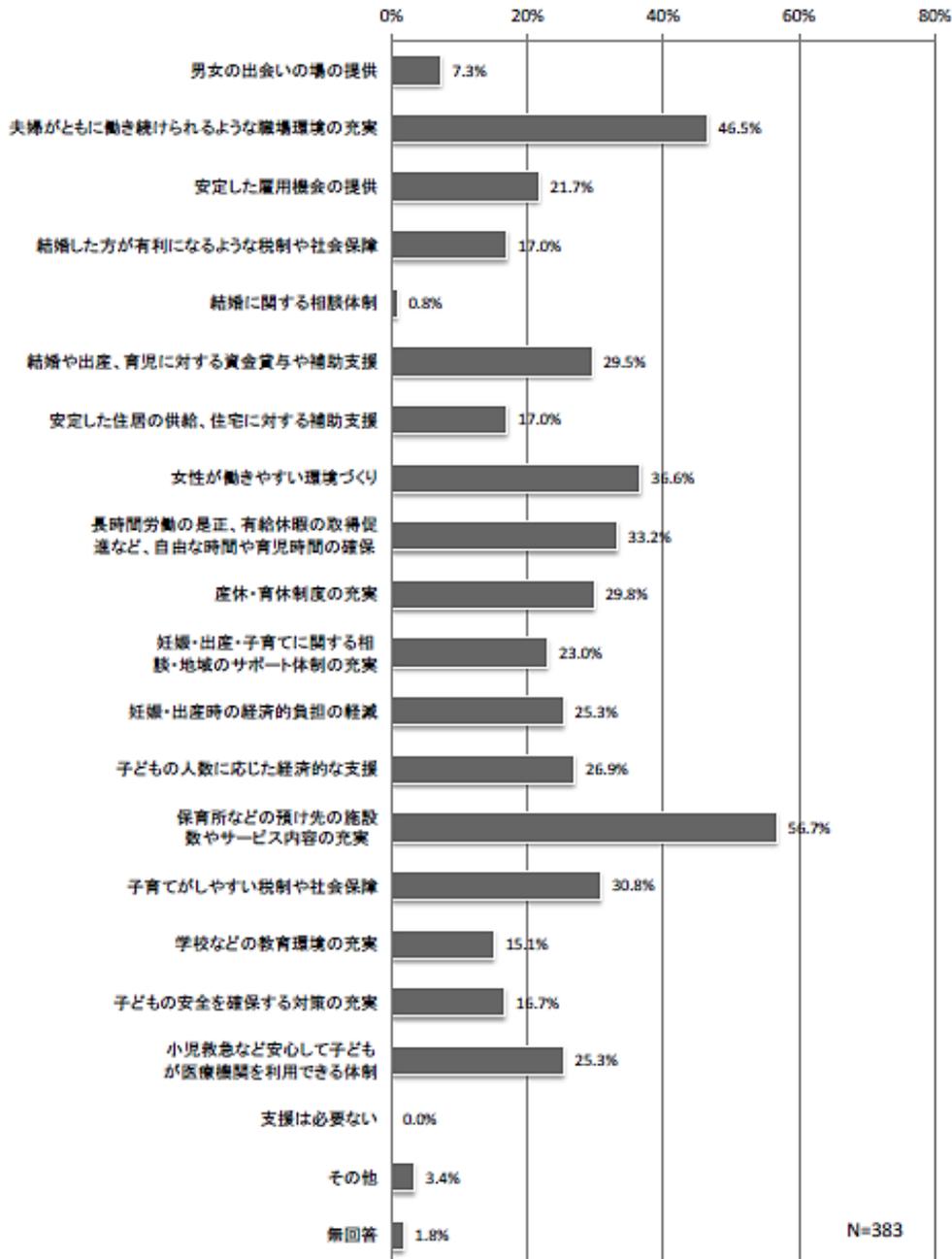
### 考察

保育に関しては、一時預かりや緊急時の預かりなど様々なニーズに柔軟に対応できる体制を整備することや、施設や設備、給食等において、これまで以上に安全に配慮したサービスを提供することが求められている。

また、子育ての負担感の軽減や地域での親子同士の交流を促進するため、親子の交流の場や遊び場を提供することが非常に重要になると考えられる。さらに、そのような場が子どもの年齢で区分されるのではなく、異なる年齢の子どもとその親が交流するような機会の提供も求められている。

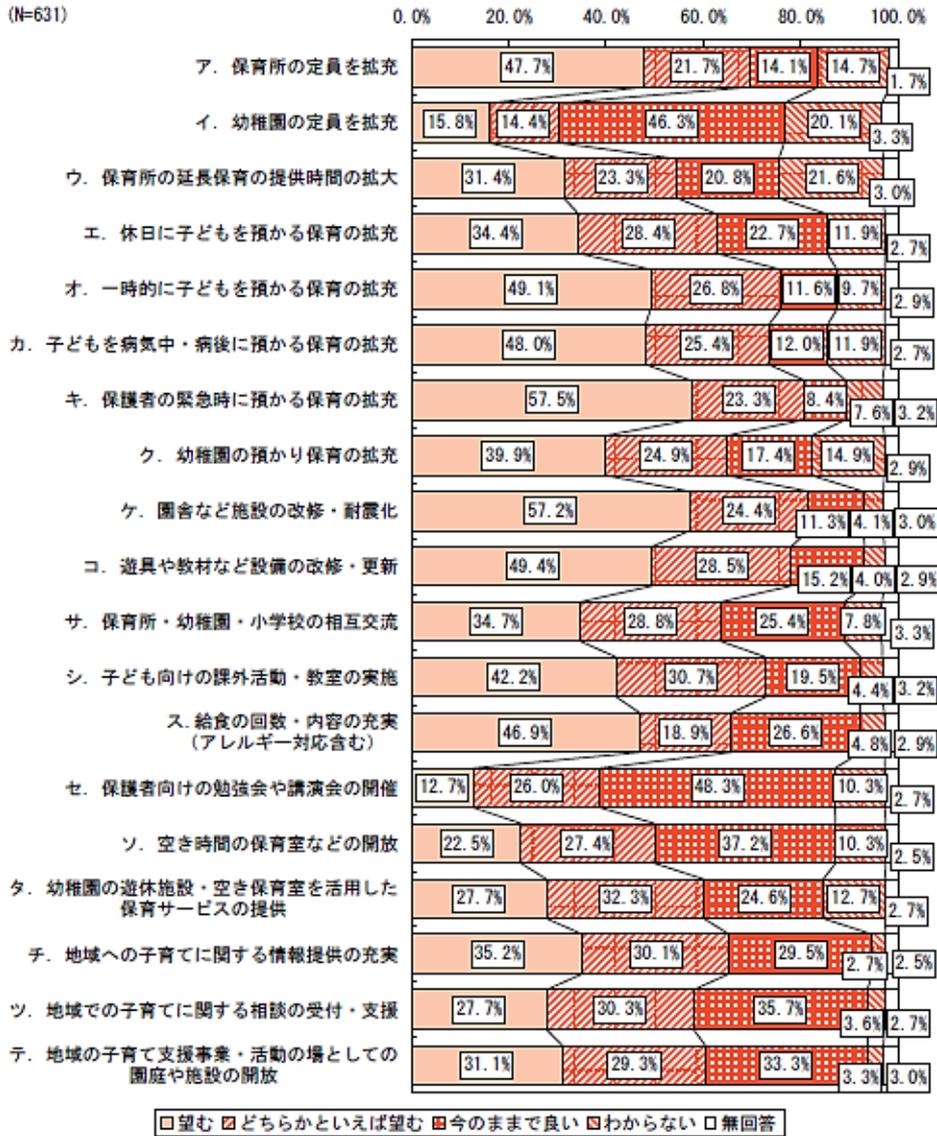
仕事と子育ての両立支援については、制度面の整備はもちろんのこと、事業者(雇用主や管理職、同僚)及び就労しながら子育てを行う市民自身への啓発等による意識改革との両輪で進めていく必要がある。

図表 III-20 結婚や出産、子育てしやすいと思える環境をつくるために必要なサポート



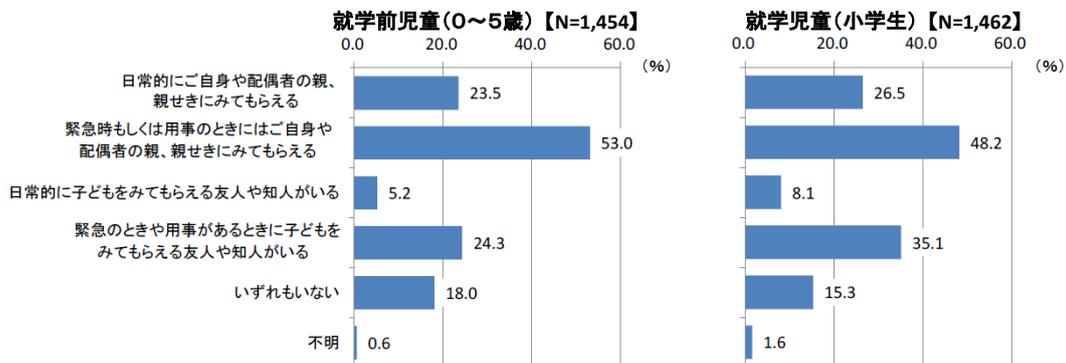
(資料) 少子化対策に関する市民アンケート調査報告書(平成 27 年(2015 年)11 月)

図表 III-21 幼稚園や保育所に対して整備・充実を望むこと



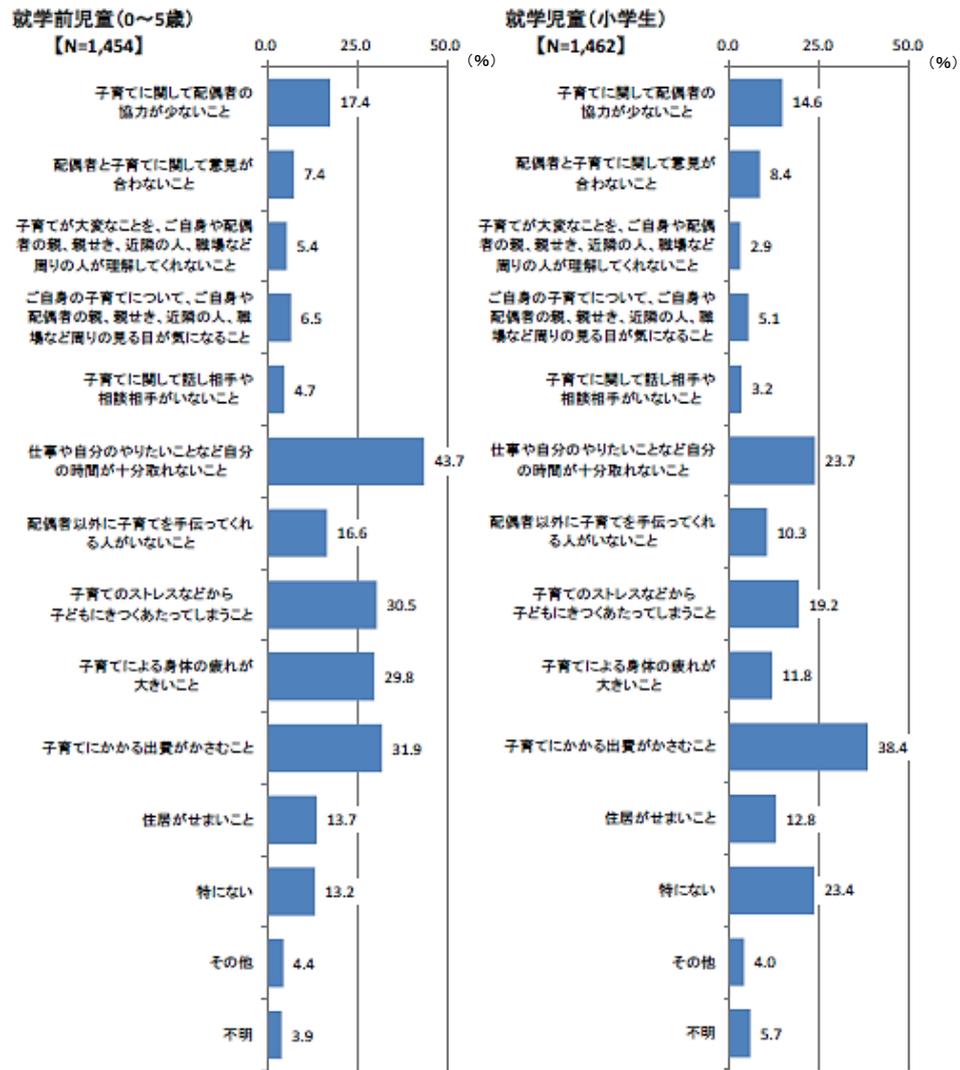
(資料)吹田市就学前の子どもの教育・保育に関する将来ビジョン(平成 25 年(2013 年)3月)

図表 III-22 子ども面倒をみてもらえる人の有無



(資料)吹田市子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査業務報告書(平成 26 年(2014 年)3月)

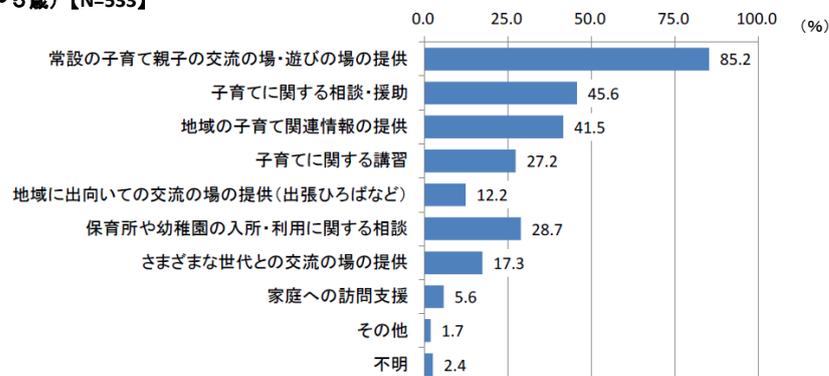
図表 III-23 子育てに関する悩み



(資料)吹田市子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査業務報告書(平成 26 年(2014 年)3月)

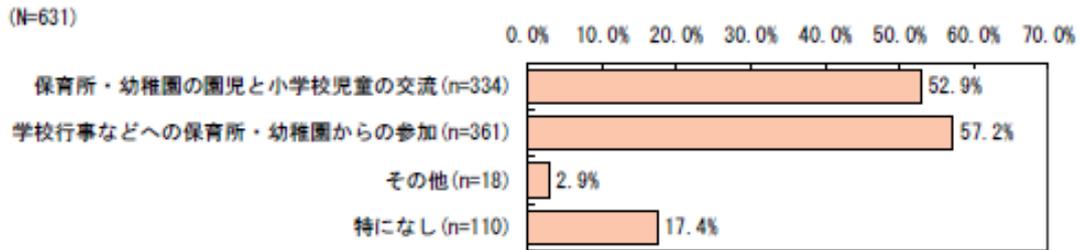
図表 III-24 子育て支援事業を利用するにあたって希望するサービス

就学前児童 (0~5歳) [N=533]



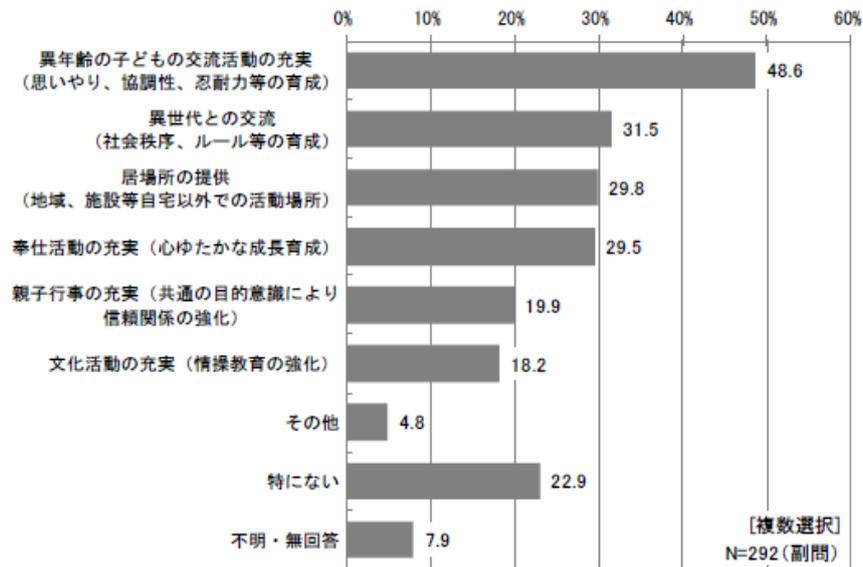
(資料)吹田市子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査業務報告書(平成 26 年(2014 年)3月)

図表 III-25 幼稚園・保育所と小学校の連携のあり方(子どもの視点での取組)



(資料)吹田市就学前の子どもの教育・保育に関する将来ビジョン(平成 25 年(2013 年)3月)

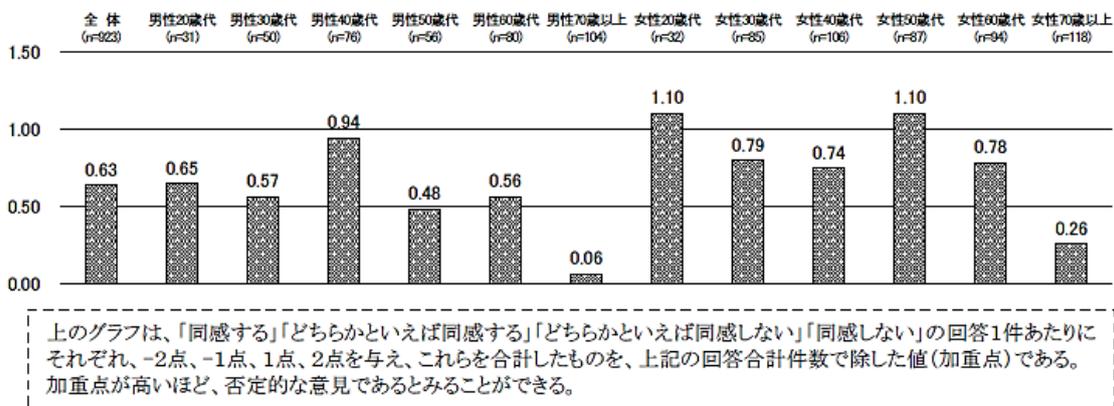
図表 III-26 子ども会活動に対する期待・要望



(注)15歳未満の子どもがいる回答者への設問。

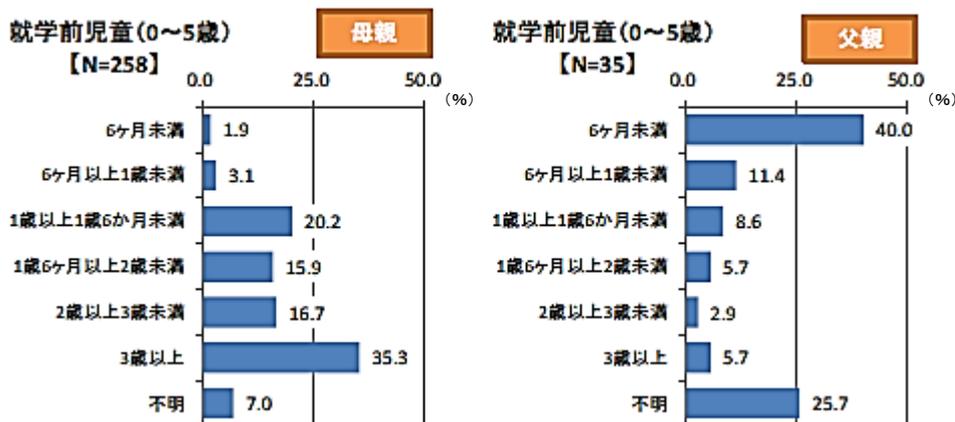
(資料)平成 26 年度(2014 年度)吹田市市民意識調査報告書

図表 III-27 「男は仕事、女は家庭」という考え方について



(資料)平成 27 年度男女共同参画に関する市民意識・実態調査報告書

図表 III-28 職場に育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合の利用希望 (子どもが何歳何ヶ月のときまで取りたいか)



(資料)吹田市子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査業務報告書(平成 26 年(2014 年)3月)

## ② 高齢者福祉に関する事項

- ・ 要介護度について、要支援の回答者は前回よりも割合が低下しているが、要介護4及び要介護5の回答者は前回調査よりもやや割合が上昇している。(図表 III-29)
- ・ 外出を控える回答者の割合は、年齢が高くなるほど上昇しており、外出を控える理由として、約半数が「足腰などの痛み」を挙げている。(図表 III-30、図表 III-31)
- ・ 社会への関心度や他者との接触に関する行動の実施状況について、要支援・要介護の認定者の回答率は非認定者の回答率を大幅に下回っている。(図表 III-32)
- ・ 主な介護・介助者の年齢は、65歳未満と65歳以上がどちらも約4割であり、いわゆる「老老介護」の状態にある世帯も多いことが推察される。(図表 III-33)
- ・ 要介護認定を受けているにもかかわらず、介護保険サービスを利用していない理由としては、「自分でがんばってみようと思っているから」や「家族が世話をしてくれるから」の割合が多く、家庭内で介護が完結している（あるいは完結させようとしている）状況がみえる。(図表 III-34)
- ・ 家庭で高齢者虐待が起きると思う原因については、「介護者の介護疲れ、介護によるストレス」の割合が圧倒的に高い。(図表 III-35)
- ・ 認定者の主な介護者の今後の介護意向については、「自宅で家族の介護と介護サービスを組み合わせて介護していきたい」の割合が約4割と最も高い。一方で、「自宅で家族中心の介護をしていきたい」は約1割にとどまり、「介護保険施設（特別養護老人ホーム）などの施設を利用したい」も約2割である。(図表 III-36)

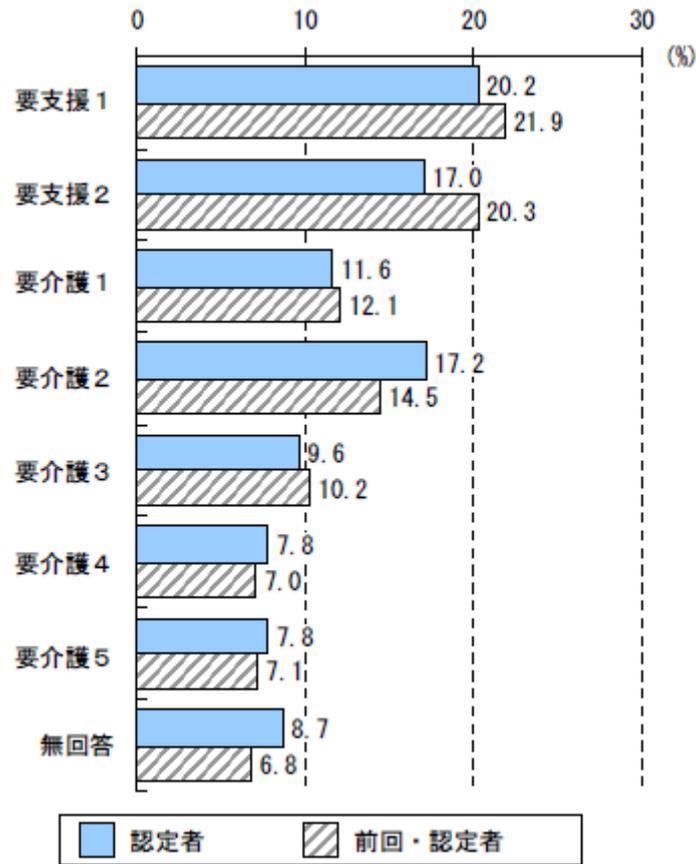
### 考察

要介護度が高い回答者の割合が前回よりも上昇しているなか、要介護度の進行や要介護状態への移行をできるだけ遅らせるためには、早い段階から介護予防を意識した取組を行うよう啓発を行う必要がある。

また、高齢になるほど外出控えの傾向があるが、外出を控えることにより、他者との接触頻度が低下し、加えて社会への関心が低くなることで、要介護度が進行する可能性がある。外出を控える理由として「足腰などの痛み」を挙げる回答者は約半数にのぼっており、比較的若い時期から運動の機会を提供することが求められる。

介護保険サービスを利用せずに家庭内で介護を完結させる回答者が多い一方で、今後の介護傾向として家族中心での介護を希望する介護者の割合は1割程度である。また、介護が家庭で完結することにより、介護者のストレスが募って高齢者虐待につながることも考えられることから、サービスの受け手が利用したいサービスに容易にアクセスでき、家族の介護と介護サービスを組み合わせることで介護者の負担が軽減されるような取組を進めることが必要である。

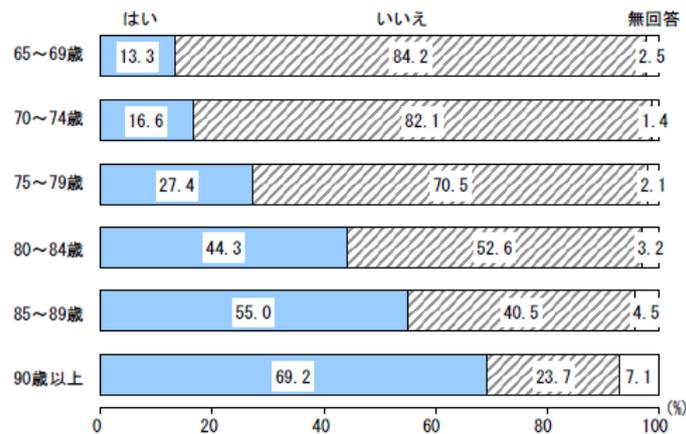
図表 III-29 要介護度の状況(認定者のみ)



(注)「前回」は平成23年(2011年)3月調査。

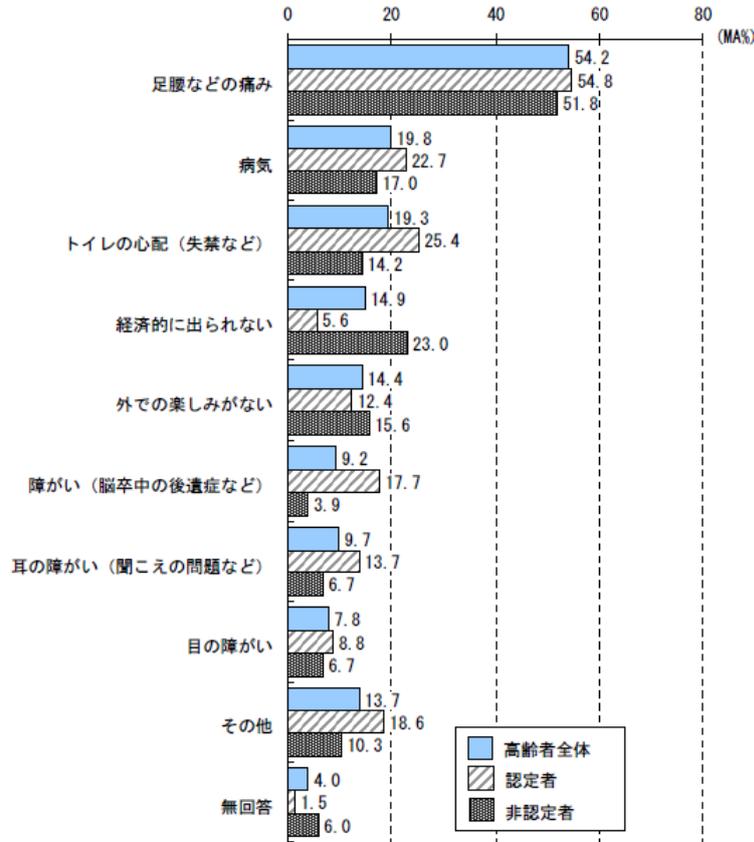
(資料)第6期吹田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画にかかる高齢者等実態調査報告書(平成26年(2014年)3月)

図表 III-30 外出控えの状況(年齢別)



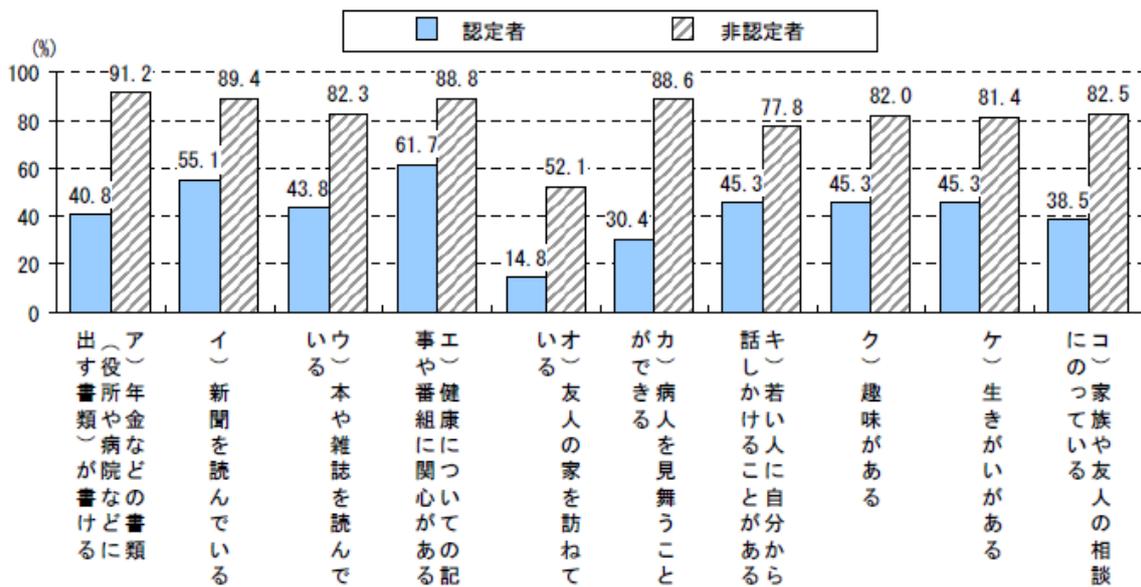
(資料)第6期吹田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画にかかる高齢者等実態調査報告書(平成26年(2014年)3月)

図表 III-31 外出を控える理由



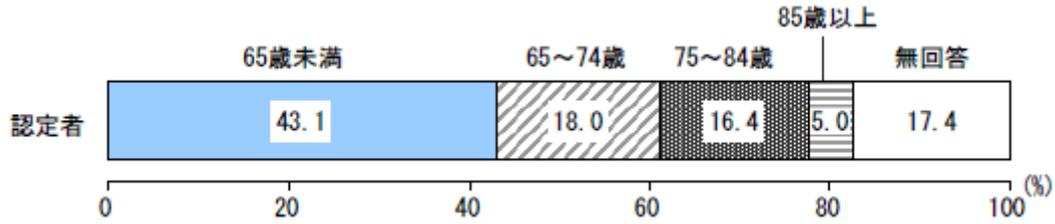
(資料) 第6期吹田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画にかかる高齢者等実態調査報告書(平成 26 年(2014 年)3 月)

図表 III-32 社会への関心度や他者との接触状況



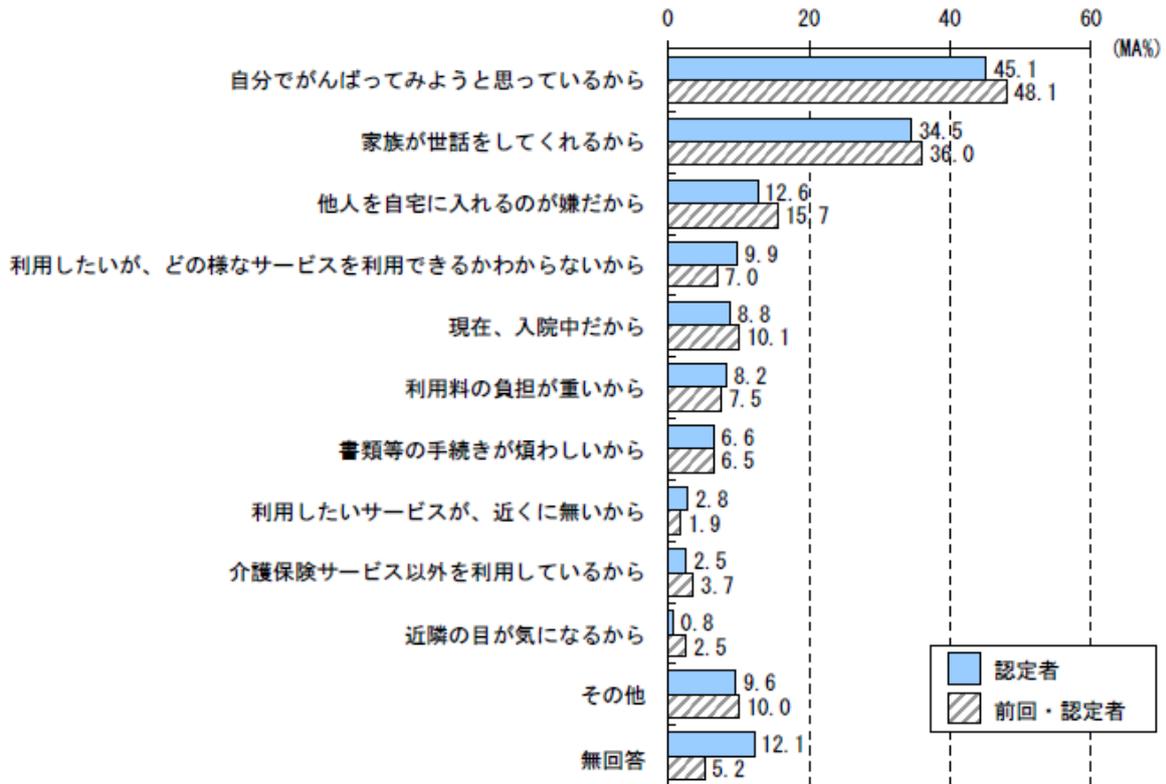
(資料) 第6期吹田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画にかかる高齢者等実態調査報告書(平成 26 年(2014 年)3 月)

図表 III-33 主な介護・介助者の年齢



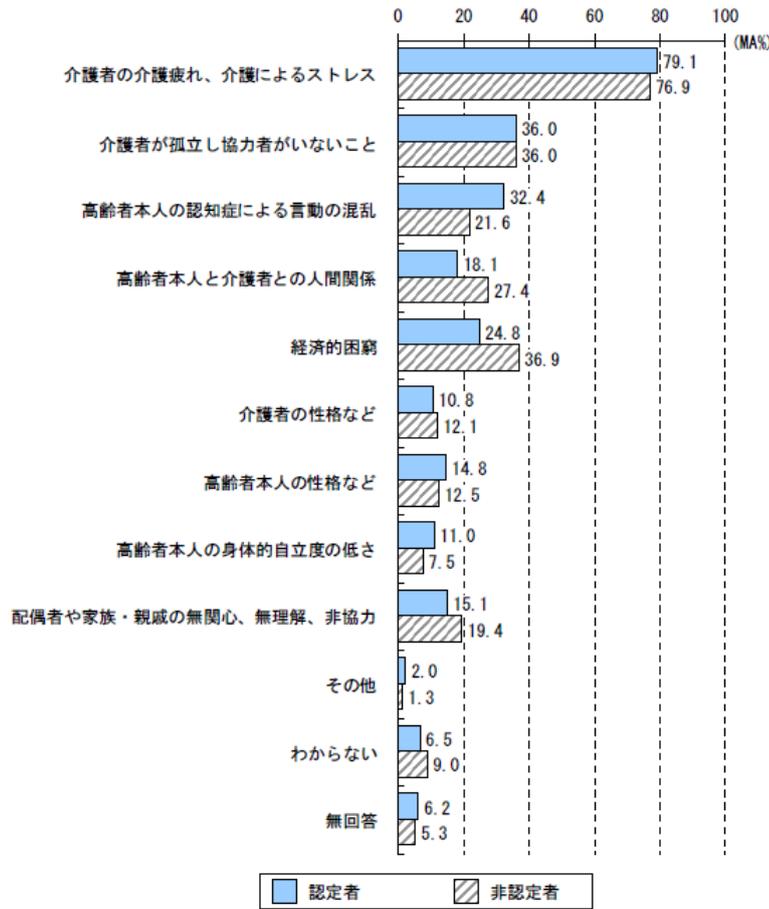
(資料) 第6期吹田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画にかかる高齢者等実態調査報告書(平成 26 年(2014 年)3 月)

図表 III-34 介護保険サービスの未利用理由



(資料) 第6期吹田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画にかかる高齢者等実態調査報告書(平成 26 年(2014 年)3 月)

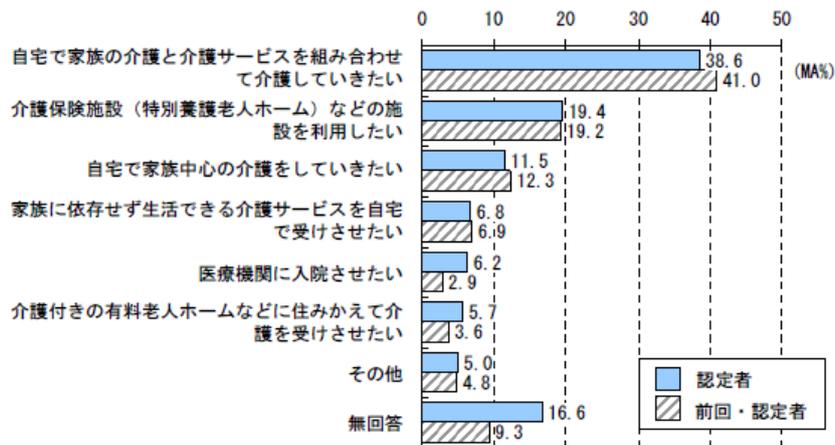
図表 III-35 家庭で高齢者虐待が起きると思う原因



※認定者は、認定者の主な介護者のみ回答

(資料) 第6期吹田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画にかかる高齢者等実態調査報告書(平成26年(2014年)3月)

図表 III-36 今後の介護意向(認定者の主な介護者)



(資料) 第6期吹田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画にかかる高齢者等実態調査報告書(平成26年(2014年)3月)

### ③ 障がい者福祉に関する事項

- ・ 障害者総合支援法のサービスを利用しない理由は、「サービスを利用する必要がないから」を除くと、18歳以上、18歳未満とも、「家族が介護や手助けをしてくれるから」と「サービスの内容や利用方法がわからないから」の割合が高い。(図表 III-37)
- ・ 18歳以上のサービス未利用者のうち、仕事をしている人が、仕事上でいやだと思ったり不安に感じたりしていることについては、「職場の人の障がいに対する理解が足りない」や「いつやめさせられるかわからない」の割合が高い。(図表 III-38)
- ・ また、18歳以上のサービス未利用者のうち現在働いていない人が、今後働こうとするときに望む支援については、「病院などへ行くための休みが取りやすい」のほか、「自分にあった仕事を見つけやすい相談窓口ができる」「能力や働き方に応じた賃金や身分が守られる」「一般企業等が障がいのある人をもっと雇うようになる」の割合が高い。(図表 III-39)
- ・ 障がい者を雇用している事業所、また当該事業所ではないが企業全体では雇用しているとする事業所は、いずれも約1割にとどまり、約8割の事業所は雇用経験がない。(図表 III-40)
- ・ 事業所が障がい者を雇用する上での課題や問題点では、「設備が整っていない」の割合が約4割で圧倒的に高く、次いで「どのような業務を任せればよいかわからない」が約2割となっている。(図表 III-41)
- ・ 18歳以上の障がい者が今後充実してほしいと思っていることについては、「障がいや生活に応じて適切な相談・支援をしてくれる窓口を充実する」が約5割にのぼっているほか、「家族が介護をできないときに利用できるショートステイを充実する」と「利用料の自己負担を軽減する」の割合が約3割と、他の項目よりも高くなっている。(図表 III-42)
- ・ 家族が介護を行ううえで感じる不安について、18歳以上のサービス未利用者の家族では、「自分が死んだあとの介護のことが心配」の割合が最も高く、次いで「気持ちや心が疲れている」「体が疲れている」が続いている。一方、18歳未満のサービス未利用者の家族では、「気持ちや心が疲れている」の割合が最も高く、次いで「自分が死んだあとの介護のことが心配」であるが、次に続くのは「働きたいが働けない」である。(図表 III-43)
- ・ 18歳未満のサービス未利用者の家族が、普段の生活で本人にもっとさせたいことでは、「障がいのない友だちとの遊びや交流」「公園などへ散歩にでかける機会」「障がいのある友達同士での遊びや交流」「旅行や遠足」の割合が高い。(図表 III-44)
- ・ 18歳未満のサービス未利用者の家族が、本人の将来の暮らしについて持っている不安については、「就職や仕事のこと」「進学や学校のこと」といった進路関係の割合や「生活に必要なお金や収入のこと」「家族が亡くなった後のこと」「家族が高齢になってからのこと」「本人の健康や障がいのこと」といった、本人や家族の状態に関することの割合が高くなっている。(図表 III-45)
- ・ 18歳未満のサービス未利用者の家族が考える、将来本人が望む働き方・仕事ができるようになるために必要な支援は、「役所や一般企業等が障がいのある人をもっと雇うようになる」の割合が最も高く、次いで「職場との連絡・調整のほか、必要な指導をしてく

れる人がいてくれる」「作業所や施設、一般企業等において働くための訓練や実習ができる」の割合が高い。(図表 III-46)

#### 考察

サービスを利用しない理由として「サービスの内容や利用方法がわからないから」の割合が高くなっており、サービス内容や利用方法の周知等の方法を検討する必要がある。

就労については、役所や企業が障がい者を積極的に採用すること、また、職業訓練や企業とのコーディネートを含めて、障がい者の就労を促すための支援を行うことが求められている一方で、設備や業務内容における課題を主な理由として雇用が進んでおらず、一層の取組の強化が求められている。

障がい者の家族は、家族が高齢になった時や、亡くなった時のことを心配する傾向が非常に強いため、障がい者が一人でも自立して生活できる、あるいは十分な支援を受けながら生活できるということが実感できるような環境の整備が必要である。

図表 III-37 障害者総合支援法のサービスを利用しない理由

上段： 構成比 下段： 回答数		集計母数	サービスを利用する必要がないから	他人の世話になりたくないから	自分は利用したいが家族が利用を反対するから	サービスを利用するために費用がかかるから	サービスを利用するための費用が高いから	利用できないから	障がい程度区分認定を受けたいとサービスを	サービスの内容や利用方法がわからないから	自分の障がいに対応できるサービスがないから	グループホームに空きがないから	介護保険サービスを利用しているから	家族と離れて生活するのが不安だから	家族が介護や手助けをしてくれるから	その他
18歳以上	全体	878	29.6%	6.4%	0.2%	5.4%	1.9%	2.4%	13.8%	4.1%	0.5%	6.7%	4.2%	13.4%	6.0%	
			260	56	2	47	17	21	121	36	4	59	37	118	53	
	身体障がい者	609	36.1%	7.6%	0.2%	4.6%	1.8%	2.5%	14.6%	3.3%	0.2%	8.2%	2.3%	14.6%	4.3%	
			220	46	1	28	11	15	89	20	1	50	14	89	26	
知的障がい者	206	11.7%	2.9%	0.0%	2.4%	1.0%	1.0%	6.3%	2.4%	1.0%	1.9%	8.3%	11.7%	6.8%		
			24	6	0	5	2	2	13	5	2	4	17	24	14	
精神障がい者	192	16.7%	7.3%	0.5%	10.4%	3.1%	3.1%	11.5%	7.8%	0.5%	7.3%	7.8%	10.9%	11.5%		
			32	14	1	20	6	6	22	15	1	14	15	21	22	
18歳未満	全体	217	18.4%	0.9%	-	4.6%	2.3%	4.1%	24.9%	-	-	-	-	14.7%	9.7%	
			40	2	-	10	5	9	54	-	-	-	-	32	21	
	身体障がい者	64	25.0%	0.0%	-	1.6%	1.6%	3.1%	23.4%	-	-	-	-	23.4%	9.4%	
			16	0	-	1	1	2	15	-	-	-	-	15	6	
知的障がい者	170	14.7%	0.6%	-	4.7%	2.9%	5.3%	22.9%	-	-	-	-	-	12.9%	8.8%	
			25	1	-	8	5	9	39	-	-	-	-	22	15	
精神障がい者	22	9.1%	0.0%	-	13.6%	0.0%	0.0%	45.5%	-	-	-	-	-	4.5%	13.6%	
			2	0	-	3	0	0	10	-	-	-	-	1	3	

(資料) 第4期吹田市障がい福祉計画(平成 27 年(2015 年)3 月)

図表 III-38 仕事でのいやなこと、不安に感じていること(18歳以上)

単位：%

区分	有効回答数(件)	能力や働きに応じた賃金がもらえない	一日の働く時間が長い	病院等へ行くための休みが取りにくい	作業環境がバリアフリー化されていない	職場へ通うための交通が不便	仕事をさせてもらえない	自分にあった仕事がない	仕事の仕方を上手に教えてくれる人がいない
全体	263	8.7	9.1	4.9	4.9	8.4	2.3	2.7	
身体障がい者手帳	183	9.3	8.2	6.0	6.6	7.7	1.6	2.2	
療育手帳	90	6.7	11.1	2.2	1.1	11.1	2.2	3.3	

区分	職場の人の障がいに対する理解が足りない	昇進や能力の評価をきちんとしてくれない	人間関係がうまくいかない	いつやめさせられるかわからない	仕事のやりがいを感じられない	その他	いやなこと不安なことはない	無回答
全体	13.7	2.7	8.0	13.7	3.8	11.8	34.6	11.4
身体障がい者手帳	13.1	2.2	5.5	12.0	3.3	9.8	36.6	10.9
療育手帳	14.4	1.1	14.4	21.1	4.4	12.2	27.8	16.7

(注)18歳以上のサービス未利用者。

(資料)第3期吹田市障がい福祉計画策定のためのアンケート調査 調査結果報告書(平成24年(2012年)3月)

図表 III-39 今後働こうとするときに望む支援

単位：%

区分	有効回答数(件)	能力や働きに応じた賃金や身分が守られる	病院などへ行くための休みが取りやすい	職場の設備や作業環境がバリアフリー化される	職場へ通うための交通が便利になる	仕事に就くための勉強や訓練を受けられる施設が増える	仕事や社会生活に慣れる訓練を一般企業等で受けられる
全体	112	31.3	45.5	11.6	19.6	17.0	5.4
身体障がい者手帳	88	30.7	50.0	12.5	22.7	14.8	1.1
療育手帳	25	36.0	32.0	12.0	12.0	20.0	16.0

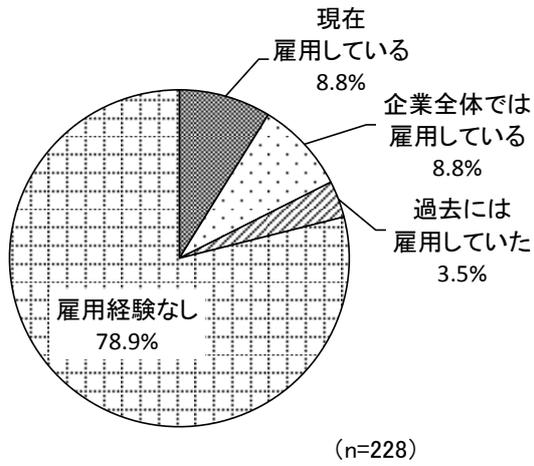
  

区分	障がいのある人と職場との調整や訓練の指導をする人がいる	自分にあった仕事が見つけやすい相談窓口ができる	職場での差別や偏見をなくすための取り組みが強化される	一般企業等が障がいのある人をもっと雇うようになる	同じような障がいのある仲間と一緒に働く場が増える	その他	無回答
全体	13.4	37.5	10.7	24.1	19.6	5.4	5.4
身体障がい者手帳	9.1	40.9	10.2	23.9	17.0	4.5	4.5
療育手帳	24.0	24.0	16.0	28.0	28.0	8.0	8.0

(注)18歳以上のサービス未利用者のうち、現在「働いていない」とした回答者。

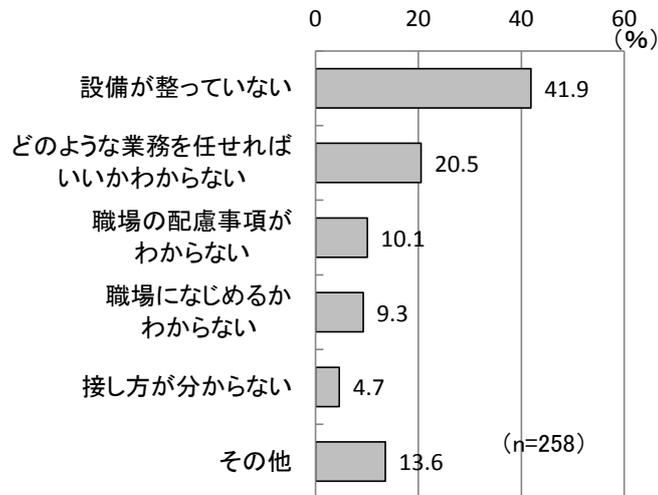
(資料)第3期吹田市障がい福祉計画策定のためのアンケート調査 調査結果報告書(平成24年(2012年)3月)

図表 III-40 障がい者の雇用状況



(資料) 平成 27 年度 (2015 年度) 吹田市労働事情調査

図表 III-41 障がい者を雇用する上での課題や問題点



(資料) 平成 27 年度 (2015 年度) 吹田市労働事情調査

図表 III-42 今後充実してほしいと思っていること(18歳以上)

上段：構成比 下段：回答数	集計母数	談する	障がいや生活に 適切な相 談・支援をして くれる窓口を充 実する	在宅での生活を 支える訪問系サ ービスを充実す る	外出の手助けを してくれるガイ ドヘルプサービ スを充実する	家族が介護を できないときに 利用できるショ ートステイを充 実する	仕事に就くた めの勉強や訓練 を受けるサービ スを充実する	社会での生活 に慣れるための 訓練を受けるサ ービスを充実す る	自宅から出て 社会参加できる 交流の場を充実 する	グループホー ムなどの住まい の場を充実する	補装具や日常 生活用具を利用 しやすくする	視覚障がいや 聴覚障がいある 人の意思疎通を 助けるサービ スを充実する	自宅で安心して 入浴できるサー ビスを充実する
		18歳以上	全体	878	49.4%	22.0%	18.0%	33.0%	10.8%	6.6%	13.6%	14.6%	11.8%
			434	193	158	290	95	58	119	128	104	53	50
	身体障がい者	609	47.3%	24.5%	17.7%	34.5%	6.1%	3.4%	10.8%	8.7%	16.3%	7.6%	6.6%
			288	149	108	210	37	21	66	53	99	46	40
	知的障がい者	206	50.5%	17.5%	26.7%	42.7%	11.7%	8.7%	18.0%	37.9%	7.3%	1.9%	5.3%
			104	36	55	88	24	18	37	78	15	4	11
	精神障がい者	192	49.0%	16.7%	12.5%	22.4%	21.9%	14.1%	15.6%	12.0%	2.6%	4.2%	5.2%
			94	32	24	43	42	27	30	23	5	8	10

上段：構成比 下段：回答数	集計母数	就職活動や社会 復帰のために必 要な費用を受け られるようにす る	病院や施設を出 て、地域で生活 できるようにす るための訓練を 充実する	賃貸マンション などを問題なく 借りられるよう 、公的保証人制 度を設ける	自宅での生活し やすくするよう 住宅改造費を充 実する。	一般企業等で障 がいのある人が 働けるよう指導 を強化する	サービスの契約 やお金の管理な ど権利擁護に関 する支援を充実 する	利用料の自己負 担を軽減する	入院時の支援を する	24時間緊急対 応をする	その他	
		18歳以上	全体	878	10.0%	4.0%	10.4%	18.9%	12.8%	9.0%	33.0%	20.5%
			88	35	91	166	112	79	290	180	141	38
	身体障がい者	609	6.2%	3.1%	7.2%	22.5%	8.4%	5.3%	34.2%	21.3%	16.3%	3.6%
			38	19	44	137	51	32	208	130	99	22
	知的障がい者	206	6.3%	3.9%	10.2%	9.7%	13.6%	19.4%	25.7%	22.3%	18.4%	5.3%
			13	8	21	20	28	40	53	46	38	11
	精神障がい者	192	25.5%	5.2%	16.1%	17.7%	21.4%	8.9%	30.7%	19.3%	8.9%	5.7%
			49	10	31	34	41	17	59	37	17	11

(資料) 第4期吹田市障がい福祉計画(平成27年(2015年)3月)

図表 III-43 障がい者の介護を行ううえで感じる不安

■18歳以上のサービス未利用者の家族

単位：%

区分	有効回答数(件)	体が疲れている	気持ちや心が疲れている	自分のための自由な時間を持ってない	思うように外出できない	働きたいが働けない	他の家族の世話・家事が十分にできない	病院の診察にかかる費用の負担が重い
全体	557	13.8	20.1	7.0	6.8	4.3	2.3	5.2
身体障がい者手帳	433	13.2	18.7	7.6	6.9	3.7	2.5	4.8
療育手帳	155	14.8	23.9	5.2	5.8	5.8	1.3	5.8

区分	周囲の人の自分たちを見る目が気になる	自分が死んだあとの介護のことが心配	職場の人の理解や協力が得られない	外出先で他人に手助けを頼みにくい	自分が高齢で介護をするのがしんどい	グループホームやケアホームなどに入所させたいが空きがない	その他	無回答
全体	2.5	37.2	0.5	5.4	6.5	2.0	11.7	35.9
身体障がい者手帳	1.6	32.3	0.5	6.2	6.9	1.4	11.8	39.5
療育手帳	4.5	56.1	0.6	3.9	7.1	5.8	13.5	20.6

■18歳未満のサービス未利用者の家族

単位：%

区分	有効回答数(件)	体が疲れている	気持ちや心が疲れている	自分のための自由な時間を持ってない	思うように外出できない	働きたいが働けない	他の家族の世話や家事が十分にできない	病院の診察にかかる費用の負担が重い
20～39歳	94	16.0	45.7	21.3	20.2	24.5	8.5	13.8
40～64歳	140	15.0	38.6	16.4	11.4	13.6	10.0	10.7
65歳以上	3	0.0	100.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0

区分	周囲の人の自分たちを見る目が気になる	自分が死んだあとの介護のことが心配	職場の人の理解や協力が得られない	外出先で他人に手助けを頼みにくい	自分が高齢で介護をするのがしんどい	その他	無回答
20～39歳	12.8	37.2	3.2	3.2	0.0	8.5	5.3
40～64歳	11.4	47.9	2.9	3.6	0.0	13.6	7.9
65歳以上	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(資料)第3期吹田市障がい福祉計画策定のためのアンケート調査 調査結果報告書(平成24年(2012年)3月)

図表 III-44 普段の生活で本人にもっとさせてあげたいこと(18歳未満)

単位：%

区分	有効回答数(件)	障がいのある友だちとの遊びや交流をさせてあげたい	図書館や博物館などに出かけて勉強させてあげたい	公園などへ散歩に出かける機会を増やしてあげたい	障がいのある友だち同士で遊びや交流をさせてあげたい	自分がほしい物を自分で買い物に行かせてあげたい	旅行や遠足に行かせてあげたい	障がいのある友だち同士で悩みを話す機会を持たせてあげたい	その他	無回答
全体	241	58.5	7.5	32.8	32.4	17.4	26.1	19.1	10.8	6.6
身体障がい者手帳	93	51.6	6.5	24.7	30.1	9.7	30.1	26.9	16.1	5.4
療育手帳	173	60.1	7.5	38.7	34.7	19.7	24.9	12.7	9.2	6.4

(注)18歳未満のサービス未利用者の家族。

(資料)第3期吹田市障がい福祉計画策定のためのアンケート調査 調査結果報告書(平成24年(2012年)3月)

図表 III-45 家族として本人の将来の暮らしについて持っている不安(18歳未満)

単位：%

区分	有効回答数(件)	ご本人の健康や障がいのこと	生活に必要なお金や収入のこと	住まいや生活の場所のこと	介護してくれる人がいること	利用できる障がい福祉サービスのこと	結婚や子育てのこと	進学や学校のこと
全体	241	32.4	42.3	14.9	3.3	9.5	11.6	40.7
身体障がい者手帳	93	52.7	17.2	12.9	3.2	7.5	17.2	49.5
療育手帳	173	22.5	53.8	18.5	4.6	12.1	8.7	34.7

区分	就職や仕事のこと	ご家族が高齢になってからのこと	ご家族が亡くなったあとのこと	その他	不安なことはない	考えたことはない	無回答
全体	44.8	31.5	42.3	1.7	0.8	0.4	0.8
身体障がい者手帳	45.2	28.0	32.3	1.1	2.2	1.1	0.0
療育手帳	37.6	38.2	52.0	1.7	0.0	0.0	1.2

(注)18歳未満のサービス未利用者の家族。

(資料)第3期吹田市障がい福祉計画策定のためのアンケート調査 調査結果報告書(平成24年(2012年)3月)

図表 III-46 将来本人が望む働き方・仕事ができるようになるために必要な支援(18歳未満)

単位：%

区分	有効回答数(件)	働くための訓練や実習ができる	作業所や施設、一般企業等において働くための訓練や実習ができる	ハローワークが障がいのある人の雇用に関する情報をもっと集める	一般企業で働けない人のための作業所や施設等を増やす	一般企業や役所等で仕事に必要な実習と社会に慣れる訓練が受けられる	職場との連絡調整のほか、必要な指導をしてくれる人がいてくれる	働くための訓練を受けたあと、就職活動に必要な費用をもらえる	働くための訓練を受けたあと、就職活動に必要な費用をもらえる	社会に慣れる訓練を受けるために必要な費用をもらえる	役所や一般企業等が障がいのある人をもっと雇うようになる	その他	無回答
全体	241	44.8	22.4	28.2	32.4	46.5	4.6	5.0	61.0	3.3	4.1		
身体障がい者手帳	93	29.0	30.1	20.4	21.5	39.8	1.1	2.2	62.4	6.5	4.3		
療育手帳	173	54.9	17.3	36.4	35.3	49.7	5.8	6.9	56.6	2.9	4.0		

(注)18歳未満のサービス未利用者の家族。

(資料)第3期吹田市障がい福祉計画策定のためのアンケート調査 調査結果報告書(平成24年(2012年)3月)

#### ④ 地域福祉・生活困窮者支援に関する事項

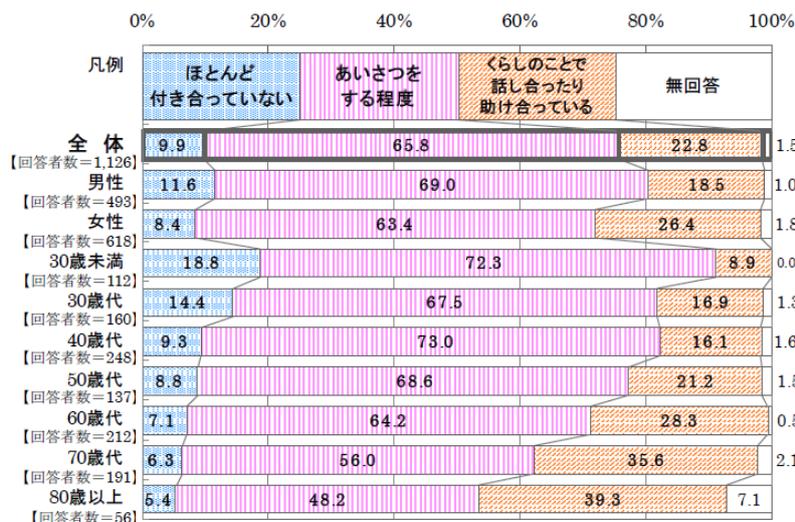
- ・ 隣近所との付き合いの程度は、「あいさつをする程度」という回答者が約7割で大半を占め、「くらしのことで話し合ったり助け合っている」の割合は、年齢が若いほど低くなっている。(図表 III-47)
- ・ 一方で、地域で安心して暮らすためには、「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」が必要であると考えている回答者が約5割であり、また、自分自身ができることとしても「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」を挙げる回答者が多い。(図表 III-48、図表 III-49)
- ・ 福祉ボランティア活動に参加している回答者は1割に満たない。また、活動内容も「赤い羽根共同募金等への寄付」の割合が圧倒的に高く、高齢者等への見守り・声かけ等、個人に直接関わるような活動は少ない。(図表 III-50)
- ・ 一方で、福祉について何とかしなければならぬと思っていることについては、「ひとり暮らしの高齢者のこと」や「高齢者世帯のこと」、「寝たきりや認知症等の方がいる世帯のこと」など、高齢者に関連する事項の割合が高い。(図表 III-51)
- ・ 生活困窮者支援として必要だと思う行政の取組については、「就労に必要な訓練等の事業」や「子どもへの日常生活支援や学習支援」の割合が圧倒的に高く、地域の取組としても「自立や就労支援のための活動の場の提供」が5割を超えている。(図表 III-52、図表 III-53)

#### 考 察

隣近所との付き合いについて、現状の付き合いはあいさつ程度でも、日常的な対話や交流、支え合いや、高齢者の見守りの重要性を認識している回答者は多いと考えられるため、地域での交流を促進するような取組に対する支援が必要になる。

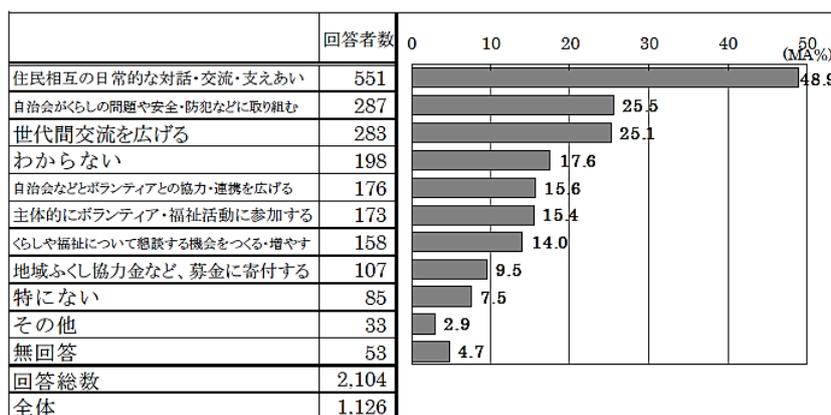
また、生活困窮者への支援としては、就労を軸とした自立を念頭においた支援が求められている。

図表 III-47 隣近所との付き合いの程度



(資料)吹田市民の地域福祉に関する実態調査報告書(平成 27 年(2015 年 3 月))

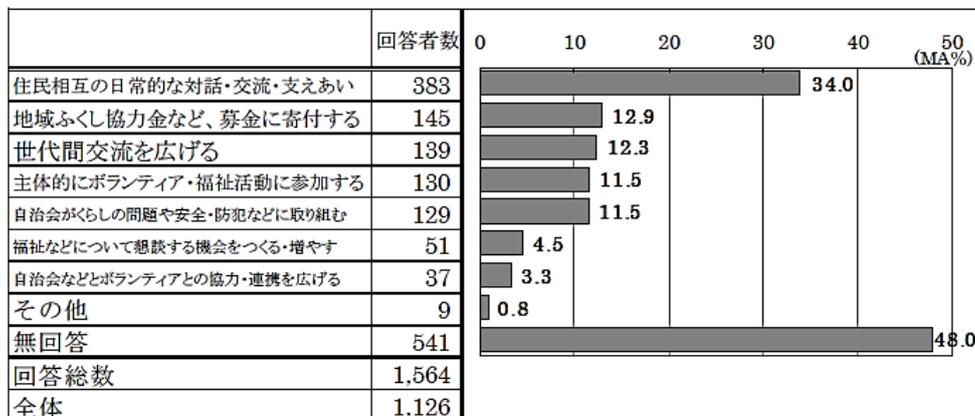
図表 III-48 地域で安心して暮らすために必要だと考える住民主体の取り組み



※「その他」の主な内容：テレビやインターネット (2)、家族 (2)、職場 (2) など

(資料)吹田市民の地域福祉に関する実態調査報告書(平成 27 年(2015 年 3 月))

図表 III-49 地域で安心して暮らすために自分自身ができること



※「その他」の主な内容：自治会があれば参加したい など

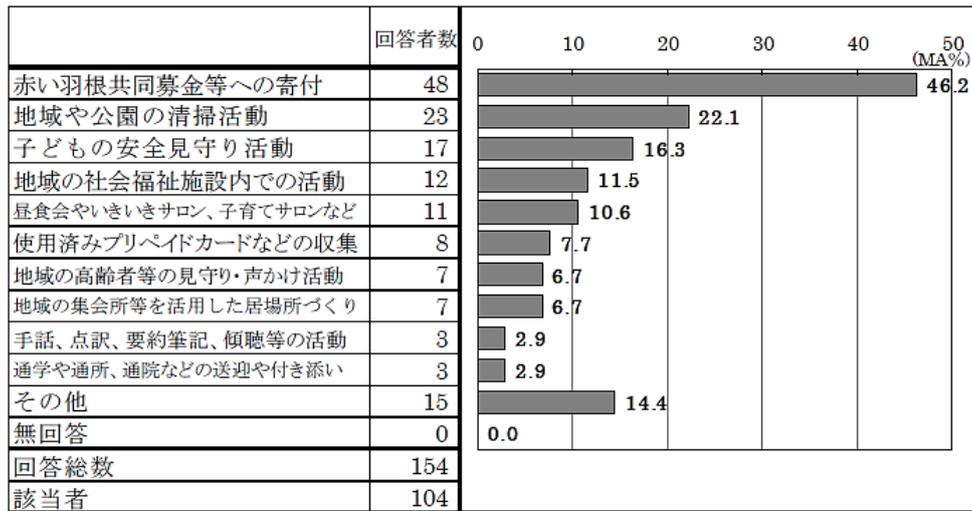
(資料)吹田市民の地域福祉に関する実態調査報告書(平成 27 年(2015 年 3 月))

図表 III-50 福祉ボランティア活動への参加状況と活動内容

■福祉ボランティア活動への参加状況

	回答者数	%
参加している	104	9.2%
参加していない	993	88.2%
無回答	29	2.6%
全 体	1,126	100.0%

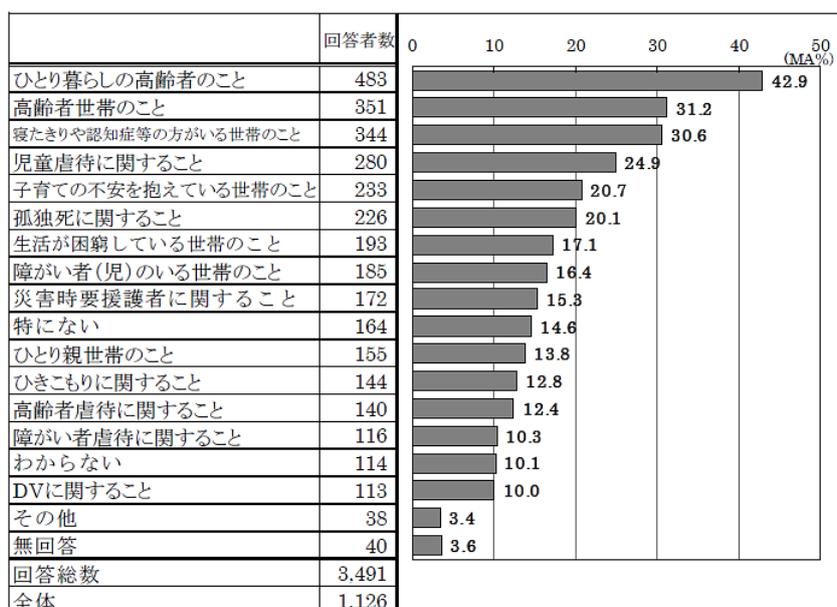
■参加している福祉ボランティア活動の内容



※「その他」の主な内容：清掃・美化活動（4）、青少年の健全活動（4） など

（資料）吹田市民の地域福祉に関する実態調査報告書（平成 27 年（2015 年 3 月）

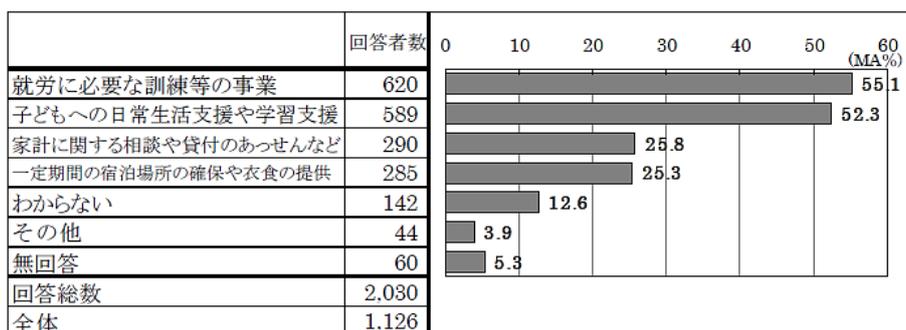
図表 III-51 福祉について何とかしなければならないと思っていること



※「その他」の主な内容：青少年の健全育成 (6)、1～14 のことすべて (3)、地域とのつながり (3)、自分のこと (3) など

(資料)吹田市民の地域福祉に関する実態調査報告書(平成 27 年(2015 年 3 月))

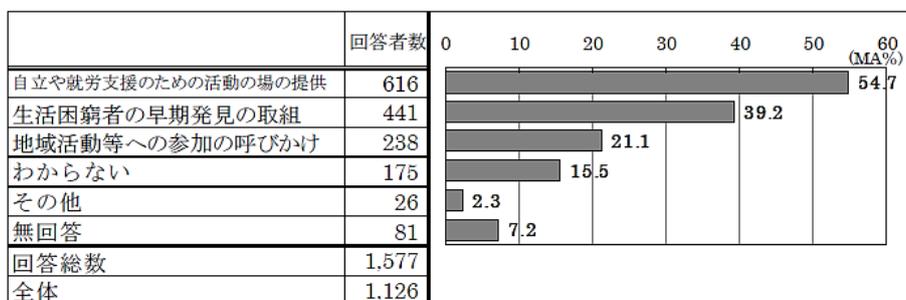
図表 III-52 生活困窮者支援として必要だと思う行政の取組



※「その他」の主な内容：就労の支援 (10)、生活保護などの厳格な運営 (5)、メンタル面の支援・心のサポート (3)、現金ではなく現物支給の支援を (3)、具体的な取り組みの周知・PR (2) など

(資料)吹田市民の地域福祉に関する実態調査報告書(平成 27 年(2015 年 3 月))

図表 III-53 生活困窮者支援として必要だと思う地域の取組



※「その他」の主な内容：生活保護の不正受給者をなくすこと (5)、特に必要ない (5)、支援や相談窓口などの周知 (4)、日常的な交流 (2) など

(資料)吹田市民の地域福祉に関する実態調査報告書(平成 27 年(2015 年 3 月))

## ⑤ 健康・医療に関する事項

- ・ 1日30分以上の運動の頻度は、30歳代から70歳代まででは、年齢が若いほど低い傾向にある。また、子どもは、小学生から中学生になると、ほとんどしていない子どもの割合が急激に高くなる。(図表 III-54)
- ・ 国民健康保険や後期高齢者医療制度の加入者の4割以上の人々が健診や人間ドックの受診について「いずれも受けていない」と回答しており、その理由として「費用がかかるから」「面倒だから」が挙げられている(図表 III-55、図表 III-56)
- ・ がん検診は約半数が過去2年間にわたり受診しておらず、その理由は「忙しいから」が最も多く、次いで「健康なので受ける必要がないから」「費用がかかるから」となっている。(図表 III-57、図表 III-58)
- ・ 市内の医療機関に対する評価については、療養型の医療機関やリハビリ施設のほか、休日・夜間診療や救急医療機関についての満足度が低い。また、市民病院に望む基本的な役割・機能については、救急医療の割合が圧倒的に高い。(図表 III-59、図表 III-60)

### 考 察

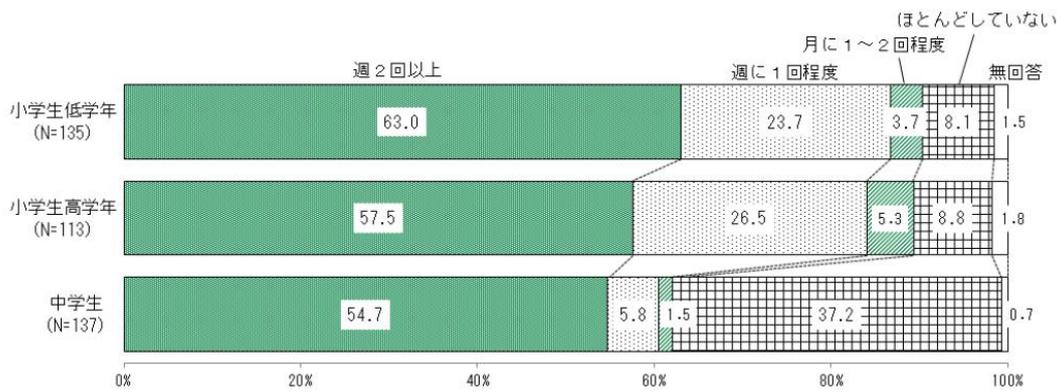
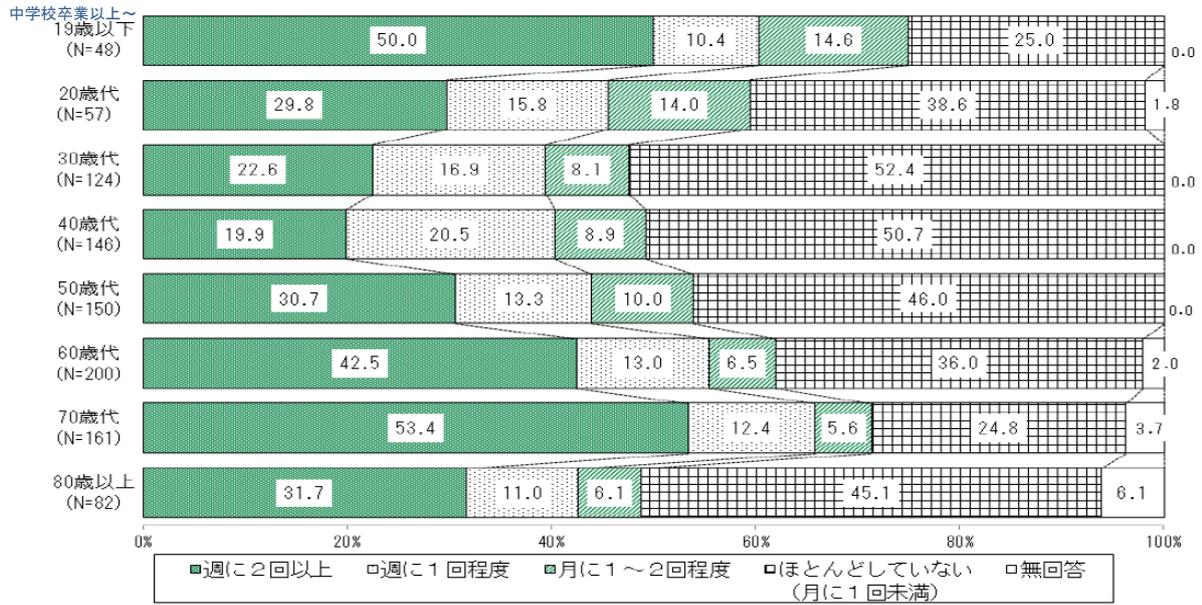
健康を維持するための運動の頻度は、30歳代、40歳代や中学生など、仕事や勉強で忙しいと思われる年代で低いが、将来的な介護予防までを見据えて、早い時期から運動習慣を身につけることが必要であり、啓発や機会の提供を進める必要がある。

また、疾病の早期発見・早期治療につながる健診や人間ドック、がん検診に関しては、市民一人ひとりの自発的な健康管理を促す観点からも、受診の必要性や費用等に関して適切な情報を提供し、啓発するとともに、さらなる受診機会の提供等に努める必要があると考えられる。

医療機関に関しては、休日・夜間や救急医療等に対するニーズが大きく、市民病院とその他の医療機関との役割分担も視野に入れた適切な医療体制の検討が必要である。

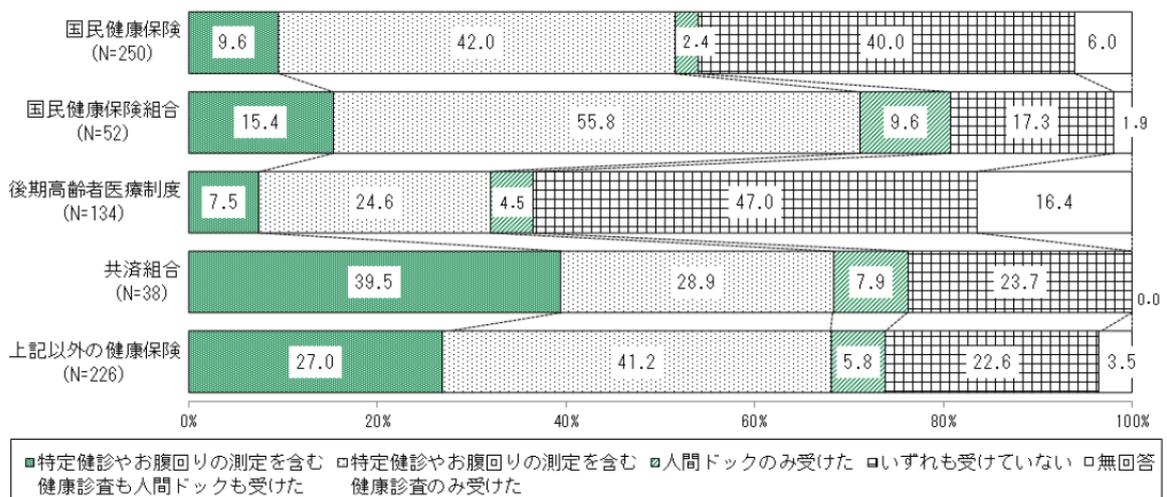
図表 III-54 日常生活における運動の実施頻度(年齢別)

※1日30分以上の運動(学校の授業は除く)



(資料)健康に関する市民意識アンケート調査報告書(平成27年(2015年)3月)

図表 III-55 過去1年間の健診や人間ドックの受診状況(健康保険の種類別)※40歳以上



(資料)健康に関する市民意識アンケート調査報告書(平成27年(2015年)3月)

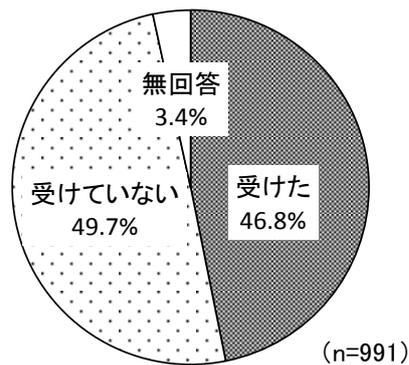
図表 III-56 健診や人間ドックを受診していない理由(健康保険の種類別)※40歳以上  
[複数回答](%)

	調査数 (人)	健康な ので受 ける必 要がな いから	面倒だ から	忙しい から	毎年受 ける必 要はな いと思 っているから	費用が かかる から	知らな かった から	結果が 不安な ので受 けたく ないから	健診場 所が遠 いから	その他	特にな い	医療機 関にか かっているから	無回答
全体	251	13.1	18.3	14.3	15.5	19.9	4.4	8.4	5.2	4.4	16.7	12.4	3.2
国保	100	13.0	12.0	10.0	19.0	26.0	5.0	13.0	2.0	3.0	13.0	10.0	5.0
後期高齢	63	17.5	19.0	4.8	11.1	4.8	7.9	4.8	1.6	7.9	20.6	20.6	3.2
上記以外	51	5.9	35.3	39.2	13.7	33.3	0.0	5.9	11.8	5.9	9.8	11.8	0.0

※『国民健康保険組合』『共済組合』については、該当母数わずかのため掲載省略

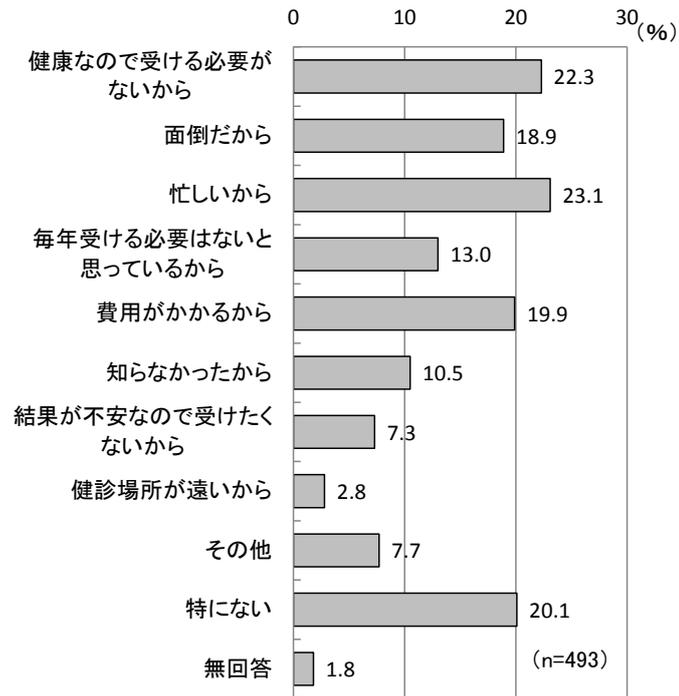
(資料)健康に関する市民意識アンケート調査報告書(平成27年(2015年)3月)

図表 III-57 過去2年間のがん検診の受診状況



(資料)健康に関する市民意識アンケート調査報告書(平成27年(2015年)3月)

図表 III-58 がん検診を受診していない理由 [複数回答]



(資料) 健康に関する市民意識アンケート調査報告書(平成 27 年(2015 年)3 月)

図表 III-59 市内の医療機関に対する満足度

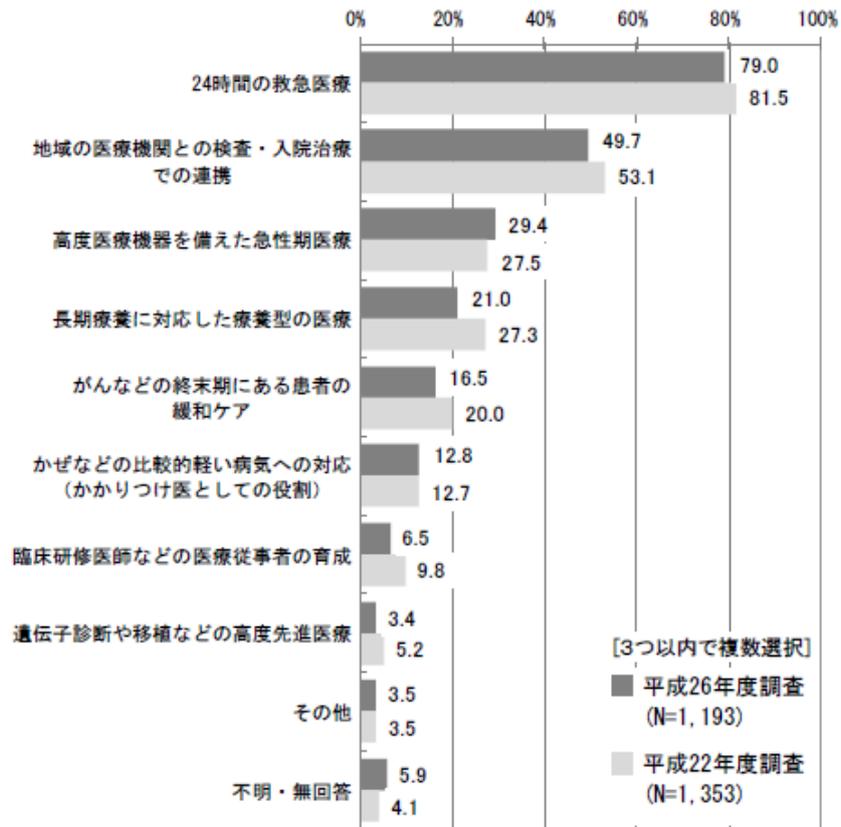
(満足度評価点、100点満点)

		N	① で診 療の 受診 を希 望の しや すさ 診療 科	② け専 や門 的 さ・ 高 度 医 療 の 受	③ ハ療 び養 り型 施の 設の 医 療 の 充 実 度 や り	④ 急休 診日 療・ 夜 間 の 整 備 に 必 要 な 救	⑤ 難、 急 交 通 の 機 関 ま で の 距
全 体		1,193	58.4	55.2	49.6	47.0	49.3
居住 地域 別	JR以南	106	57.9	56.1	48.7	42.9	51.5
	片山・岸部	183	55.8	54.1	49.6	46.2	49.0
	豊津・江坂・南吹田	190	56.8	53.5	50.9	45.5	42.9
	千里山・佐井寺	199	60.1	57.6	51.1	49.5	50.8
	山田・千里丘	270	59.1	53.1	48.1	45.6	46.1
	千里NT・万博・阪大	230	59.5	57.2	48.7	50.3	56.7
	不明・無回答	15	64.3	63.6	61.1	43.8	39.6
家族 構成 別	15歳未満の親族あり	273	58.4	55.5	50.0	44.5	46.2
	うち12歳未満の親族あり	224	58.0	56.0	50.6	43.8	44.6
	うち6歳未満の親族あり	142	57.5	56.9	50.3	43.3	43.4
	15歳未満の親族なし	908	58.6	55.2	49.5	48.0	50.6
	65歳以上の親族あり	518	60.6	55.8	50.1	49.3	49.6
	うち75歳以上の親族あり	222	62.6	56.9	50.7	48.9	49.0
	うち85歳以上の親族あり	37	63.2	57.5	57.5	53.3	54.7
65歳以上の親族なし	667	57.0	54.9	49.3	45.5	49.3	

※網掛け■は80点以上のもの

(資料) 平成 26 年度(2014 年度)吹田市市民意識調査報告書

図表 III-60 市民病院に望む基本的な役割・機能



(資料) 平成 26 年度 (2014 年度) 吹田市市民意識調査報告書

#### 4 個性がひかる学びと文化創造のまちづくり

##### (1) 政策に関する評価 (図表 III-61)

- ・重要度評価点について総合評価よりも点数が大幅に高い項目、また、重要度評価点と満足度評価点の差が市全体で20を超えている項目は、以下のとおりである。
  - －23. 学校教育
  - －24. 青少年の育成
- ・「23. 学校教育」については、全ての属性で重要度評価点と満足度評価点の差が20を超えており、年代別では特に子育て世代である30歳代と40歳代、地域別では特にJR以南と片山・岸部で、他の属性よりも差が大きくなっている。
- ・「24. 青少年の健全育成」についても、概ね学校教育と同様の傾向で、年代別では30歳代、40歳代に加えて70歳以上、地域別ではJR以南と片山・岸部で、他の属性よりも差が大きい。
- ・上記以外では、「25. 生涯学習に関する環境」で、JR以南と片山・岸部における差が他地域よりも大きくなっている。

図表 III-61 教育・文化についての重要度評価点と満足度評価点の差

		重要度評価点								重要度評価点と満足度評価点の差							
		23. 学校教育	24. 青少年の育成	25. 生涯学習に関する環境	26. スポーツを親しめる環境	27. 境芸術・文化を親しめる環境	28. 持特色のある都市との文化交流や歴史を	29. 国際交流活動	30. 項目の総合評価	23. 学校教育	24. 青少年の育成	25. 生涯学習に関する環境	26. スポーツを親しめる環境	27. 境芸術・文化を親しめる環境	28. 持特色のある都市との文化交流や歴史を	29. 国際交流活動	30. 項目の総合評価
全体		76.2	71.7	64.9	64.0	62.3	57.9	59.8	63.4	<b>23.0</b>	<b>20.1</b>	13.5	10.9	10.4	7.4	10.0	11.9
性別	女性	78.0	73.5	66.3	64.7	63.5	59.0	61.6	64.6	<b>24.6</b>	<b>21.2</b>	14.7	11.0	10.8	8.3	11.4	12.6
	男性	73.9	69.5	63.2	63.1	60.8	56.4	57.5	62.0	<b>21.0</b>	<b>18.8</b>	12.2	10.9	9.9	6.4	8.3	11.2
年齢別	30歳未満	75.8	71.0	66.3	65.3	63.3	58.9	61.3	64.8	<b>21.0</b>	<b>17.2</b>	12.9	13.2	12.7	8.3	11.3	13.1
	30歳代	76.3	70.1	65.4	63.1	61.2	58.2	59.9	63.5	<b>25.3</b>	<b>20.4</b>	15.4	11.6	11.2	9.5	11.9	13.4
	40歳代	76.6	71.5	62.4	63.4	61.1	54.3	57.3	61.7	<b>23.8</b>	<b>20.7</b>	11.4	10.5	9.5	4.1	8.0	10.8
	50歳代	72.8	68.8	63.2	63.4	62.2	56.4	57.5	62.4	<b>20.9</b>	<b>16.6</b>	12.2	12.0	11.3	6.1	7.7	11.0
	60歳代	75.7	72.1	64.3	63.2	61.3	56.6	58.7	61.7	<b>22.3</b>	<b>20.3</b>	12.6	9.5	8.0	5.3	7.0	9.5
	70歳以上	79.8	76.6	68.9	66.2	65.8	64.4	65.5	67.9	<b>23.9</b>	<b>24.7</b>	17.2	10.3	11.7	13.2	<b>16.0</b>	<b>15.3</b>
居住地域別	JR以南	75.9	72.4	65.1	64.7	63.4	57.4	57.7	60.8	<b>27.5</b>	<b>24.3</b>	17.0	12.2	11.2	6.6	8.0	10.0
	片山・岸部	77.3	73.0	64.8	63.7	61.4	59.7	60.2	64.1	<b>25.8</b>	<b>22.5</b>	15.9	11.8	10.2	11.3	12.7	14.9
	豊津・江坂・南吹田	73.4	69.4	63.3	62.2	61.8	57.3	58.0	61.0	<b>21.1</b>	<b>19.6</b>	12.3	10.8	11.6	7.3	8.4	11.1
	千里山・佐井寺	77.0	73.2	67.2	65.5	63.6	58.7	63.0	65.5	<b>20.8</b>	<b>19.3</b>	12.4	10.9	9.5	6.6	11.7	11.7
	山田・千里丘	77.6	71.9	64.6	64.2	62.6	56.0	57.2	64.2	<b>23.1</b>	<b>19.0</b>	12.8	10.3	9.4	4.8	6.3	11.1
千里NT・万博・阪大	76.1	71.8	65.7	64.8	62.3	59.2	62.9	64.3	<b>22.3</b>	<b>20.0</b>	13.9	11.8	12.1	9.5	13.8	13.4	

(注1) 重要度評価点から満足度評価点を引いた差。値が大きいほど、「重要度の水準に比して満足度が低い」ことを示す。

(注2) 差の欄におけるグレーの網掛けは差が15以上、白抜き文字は差が20以上。

(資料) 平成26年度(2014年度)吹田市市民意識調査報告書から作成

## (2) 個別事項の状況

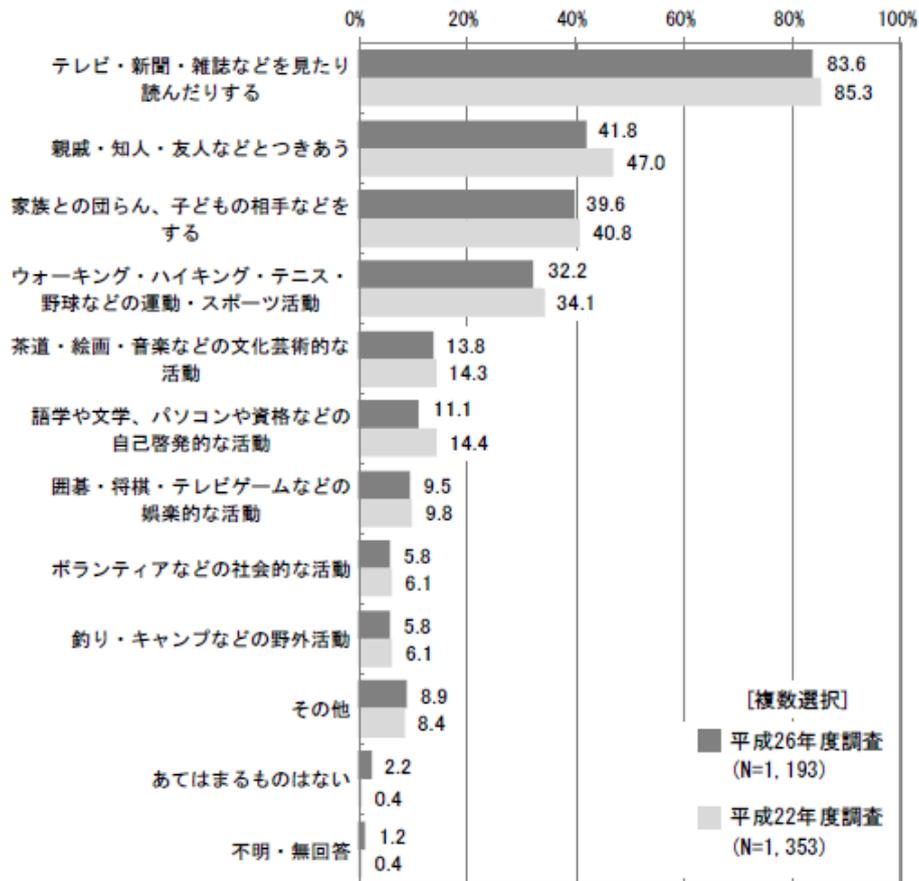
- ・ 余暇時間は、テレビ・新聞・雑誌の閲覧や家族との団らんなど、自宅で過ごしていると思われる回答者が圧倒的に多い。それ以外では、友人等との交流やスポーツ活動の実施率は比較的高いが、芸術・文化活動や野外活動、ボランティア活動の実施率は低い。(図表 III-62)
- ・ 運動・スポーツ、芸術・文化活動とも、年齢が若いほど実施頻度・実施率が低い傾向にある。(図表 III-63、図表 III-64)
- ・ 学習活動を行う際の情報源として、ロコミやテレビ・インターネットを活用する人がそれぞれ約 3 割となっている。次いで、市の広報誌やホームページが 2 割となっているが、「学びの情報」「もよおしいろいろ」と回答した人は少ない。(図表 III-65)
- ・ 学習活動で身につけた知識・経験を地域や社会での活動に生かそうと考える人は少ないが、60 歳代以上ではそれを目的に学習活動を実施する人の割合が比較的高い。(図表 III-66)
- ・ 吹田市立図書館は、余暇や生活に必要な情報を得るために活用されることが多い。図書館における望ましい機能としては、生活上必要な情報を得る機能のほか、勉強や仕事での活用、子ども向けサービスに対するニーズも比較的大きい。(図表 III-67、図表 III-68)
- ・ 吹田市立図書館の職員の対応については満足度が高いが、雑誌、視聴覚資料、新刊書、専門書等、蔵書の品揃えについて不満の割合が高いものがある。(図表 III-69)

### 考 察

余暇時間における積極的な学習活動や地域活動を促進するための啓発のほか、活動機会や活動場所の提供等について検討を行うとともに、情報が確実に市民に届くよう、情報発信の手法等の改善策が必要である。また、学習活動で身につけた知識・経験の地域への還元を促進することにより、地域における課題の解決に関する取組や多世代交流地域につながることも考えられる。

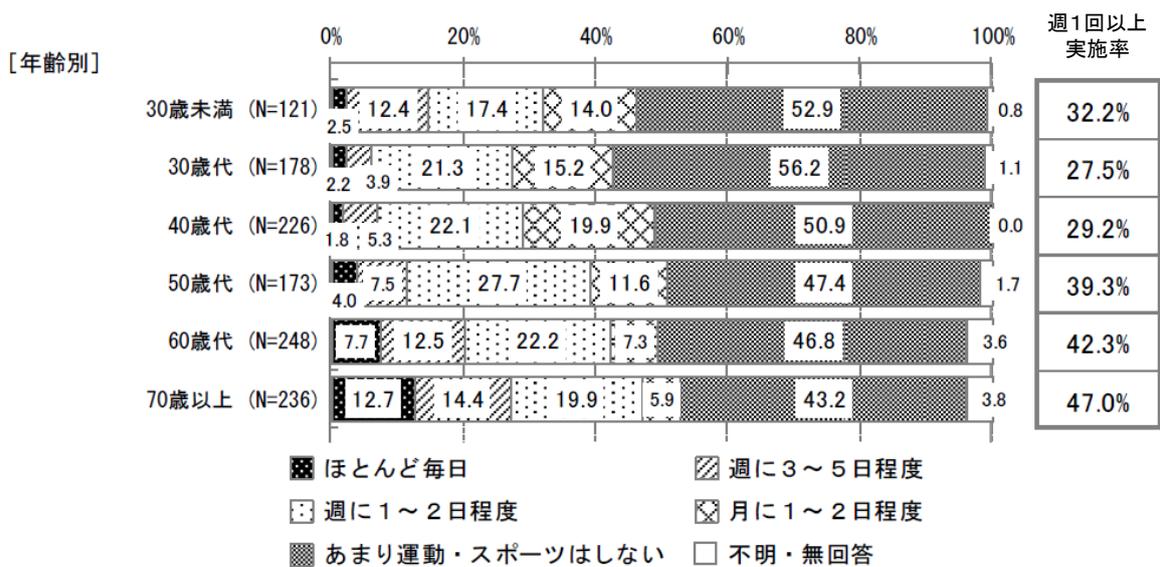
市立図書館については、勉強や仕事での活用を視野にいれた蔵書の拡充やレファレンス機能の強化等により、幅広いニーズに対応できる体制を整備することが望ましい。

図表 III-62 余暇時間の過ごし方



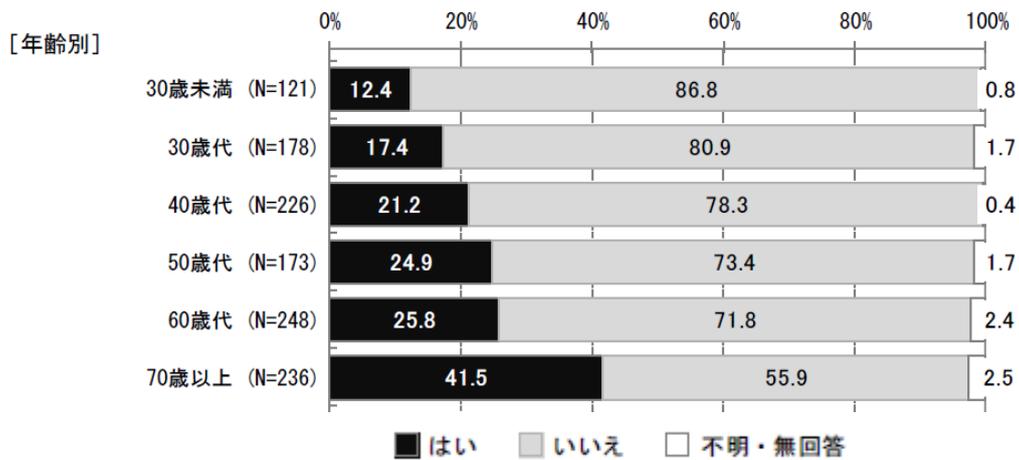
(資料) 平成 26 年度 (2014 年度) 吹田市市民意識調査報告書

図表 III-63 過去1年間の運動・スポーツの実施状況



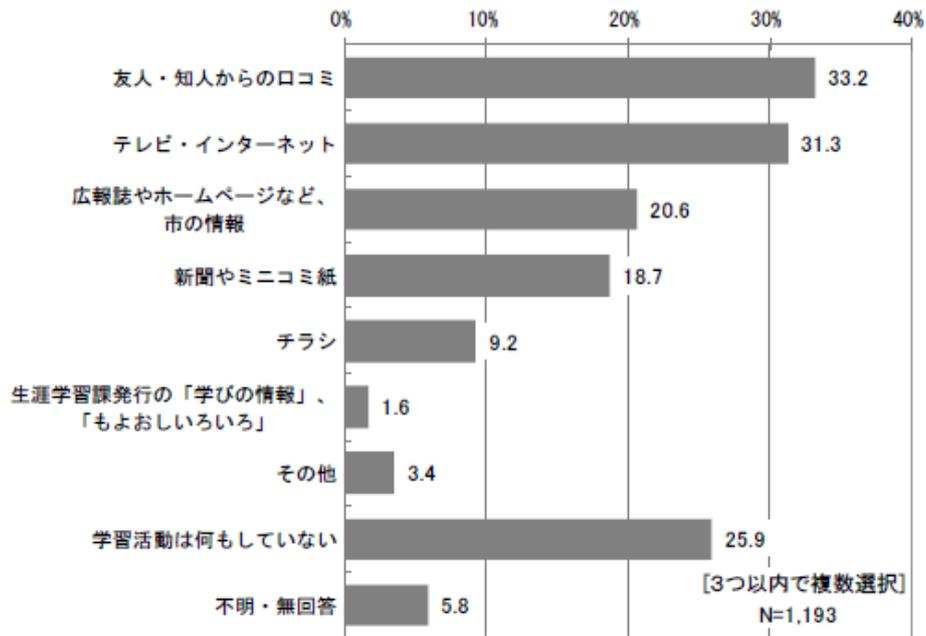
(資料) 平成 26 年度 (2014 年度) 吹田市市民意識調査報告書

図表 III-64 過去1年間の芸術・文化活動の実施状況



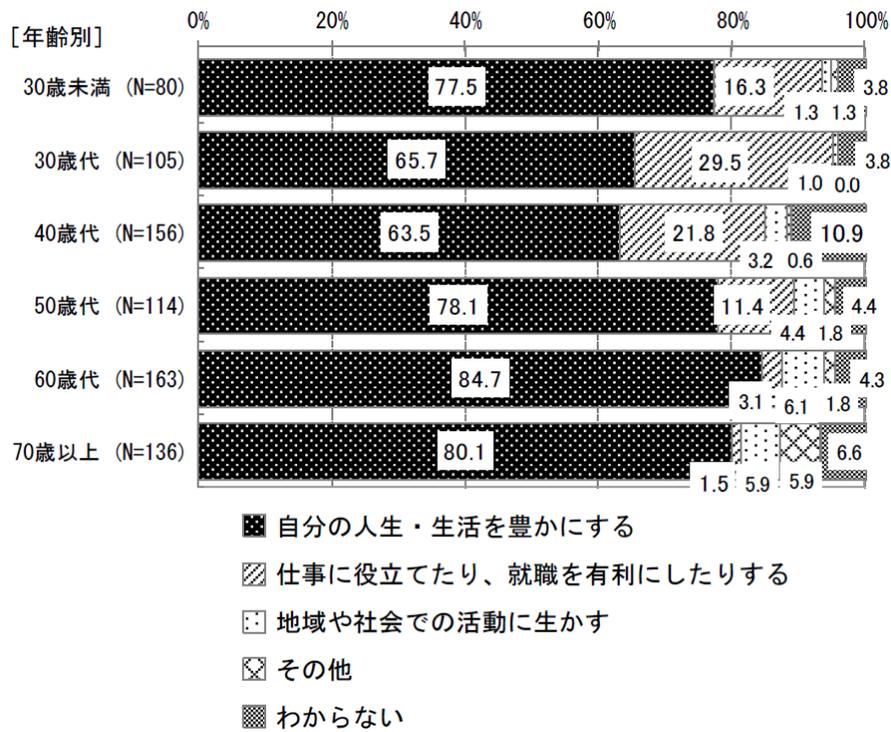
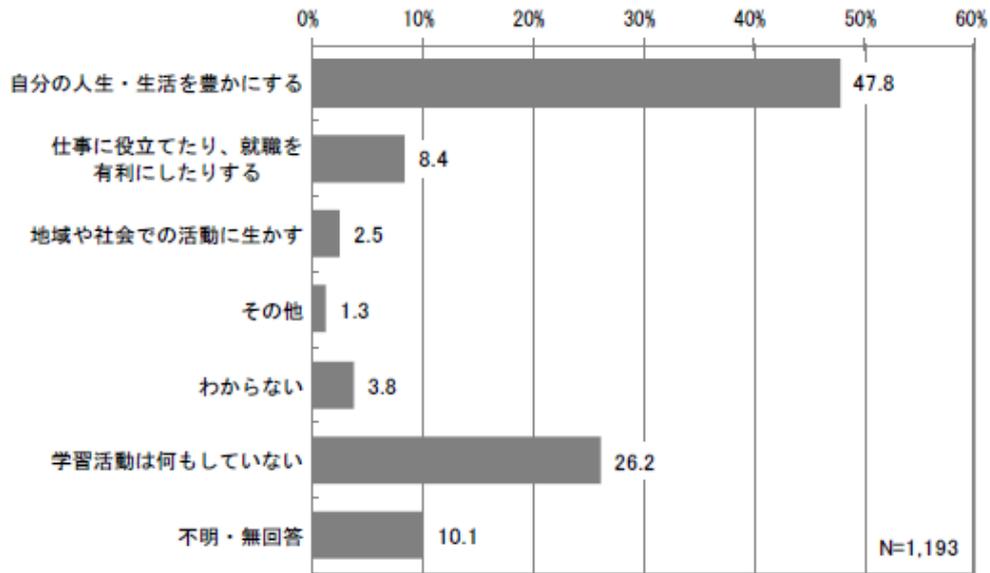
(資料)平成26年度(2014年度)吹田市市民意識調査報告書

図表 III-65 学習活動を行うときの情報源



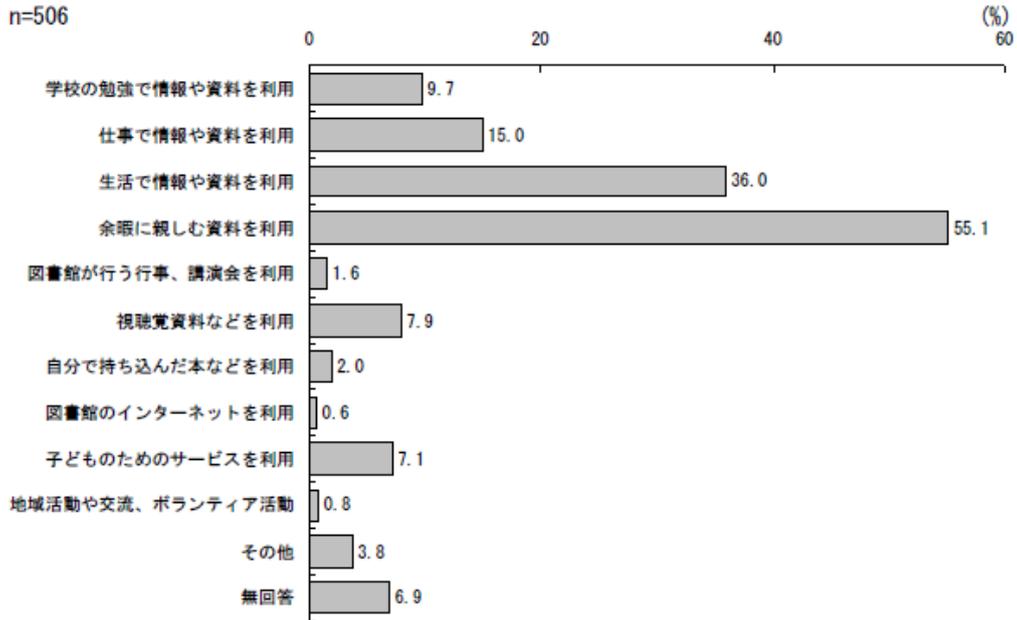
(資料)平成26年度(2014年度)吹田市市民意識調査報告書

図表 III-66 学習活動で身につけた知識・経験の生かし方



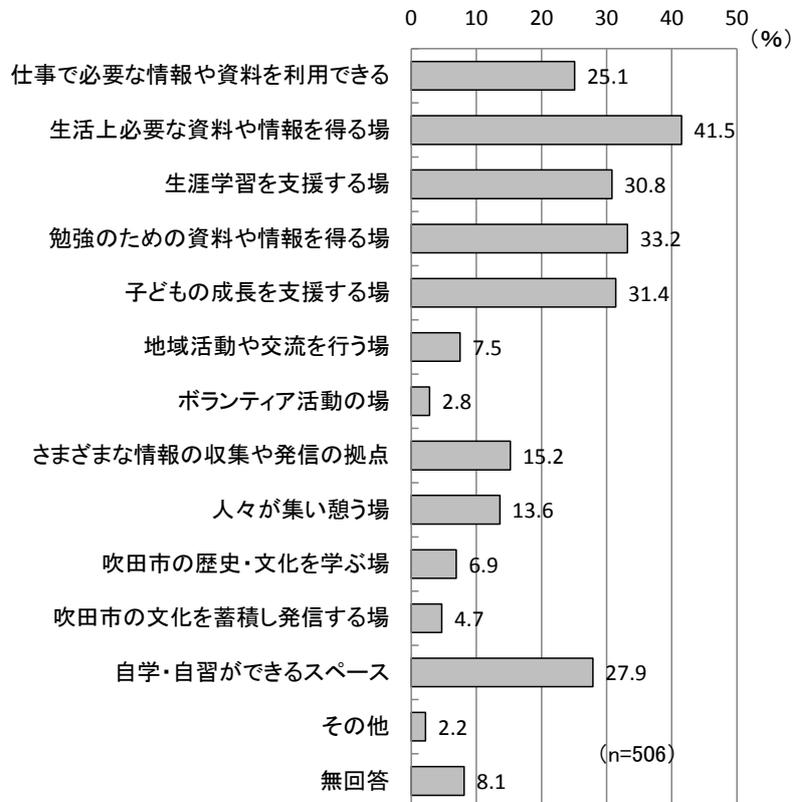
(資料) 平成 26 年度 (2014 年度) 吹田市市民意識調査報告書

図表 III-67 吹田市立図書館を利用する目的



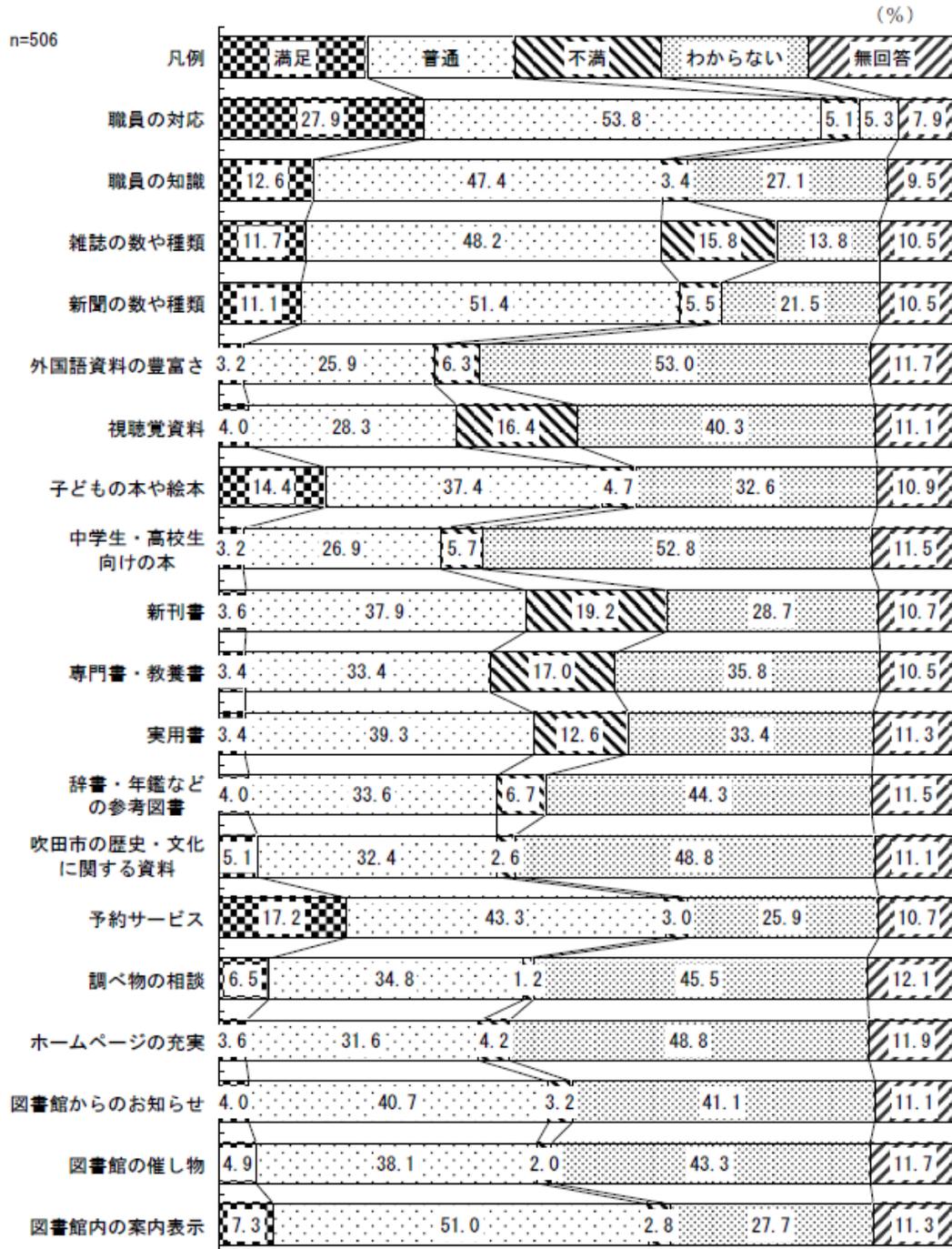
(注)「最もよく利用する図書館」に吹田市立図書館を選択した回答者のみ。  
 (資料)平成 24 年度(2012 年度)市政モニタリング調査

図表 III-68 望ましい吹田市立図書館のイメージ



(注)「最もよく利用する図書館」に吹田市立図書館を選択した回答者のみ。  
 (資料)平成 24 年度(2012 年度)市政モニタリング調査

図表 III-69 吹田市立図書館についての満足度



(注)「最もよく利用する図書館」に吹田市立図書館を選択した回答者のみ。

(資料)平成 24 年度(2012 年度)市政モニタリング調査

## 5 環境を守り育てるまちづくり

### (1) 政策に関する評価（図表 III-70）

- ・重要度評価点について総合評価よりも点数が高いものは、以下の項目であり、いずれも日々の暮らしに関係が深い。
  - －31. 環境汚染防止対策
  - －32. 快適な生活環境の確保
  - －33. 自然環境の保全
  - －35. ごみの発生抑制・排出抑制やリサイクルなどごみ減量の取組
- ・重要度評価点と満足度評価点の差をみると、市全体で 20 を超えているのは、以下の項目である。
  - －31. 環境汚染防止対策
  - －34. 地球温暖化防止対策
- ・年代別では、60 歳代以上で、重要度評価点と満足度評価点の差が大きい項目が比較的多くあり、特に 60 歳代で顕著である。
- ・地域別では、片山・岸部で全ての項目の差が大きくなっているほか、J R以南でも 4 つの項目で差が大きくなっている。

図表 III-70 環境についての重要度評価点と満足度評価点の差

		重要度評価点							重要度評価点と満足度評価点の差						
		31. 環境汚染防止対策	32. 快適な生活環境の確保	33. 自然環境の保全	34. 地球温暖化防止対策	35. 減量やリサイクルの取組	36. ごみ抑制・排出抑制	37. 省エネ・節エネの取組	31. 環境汚染防止対策	32. 快適な生活環境の確保	33. 自然環境の保全	34. 地球温暖化防止対策	35. 減量やリサイクルの取組	36. ごみ抑制・排出抑制	37. 省エネ・節エネの取組
全体		73.5	73.6	73.2	71.4	72.3	70.1	71.5	20.4	17.9	17.6	21.3	17.0	18.3	18.2
性別	女性	74.2	74.4	74.0	73.6	74.8	72.0	73.0	21.3	18.3	18.1	23.9	19.1	20.1	19.7
	男性	72.5	72.6	72.1	68.6	69.3	67.8	69.7	19.2	17.5	17.0	18.2	14.4	16.0	16.4
年齢別	30歳未満	72.9	73.5	71.6	70.3	71.4	67.6	70.3	19.5	16.9	15.1	19.9	18.0	16.5	17.5
	30歳代	71.6	72.8	72.4	69.7	70.9	68.8	70.2	21.2	19.9	19.3	21.2	19.7	19.0	19.4
	40歳代	70.7	71.6	70.1	69.2	70.0	68.7	69.2	18.9	15.2	14.7	18.1	15.9	17.4	15.7
	50歳代	71.7	71.1	71.5	69.9	69.7	67.9	69.6	19.3	16.0	15.8	19.8	13.4	15.7	16.0
	60歳代	75.6	76.2	77.1	73.5	75.0	73.0	74.6	21.7	20.9	21.5	23.8	19.0	20.5	21.1
	70歳以上	78.4	76.4	76.3	75.7	76.9	74.0	75.0	21.9	19.0	18.8	25.3	16.4	20.4	19.9
居住地域別	JR以南	74.1	73.0	73.9	70.7	70.9	69.0	69.0	23.6	21.9	23.9	22.9	14.8	17.6	18.5
	片山・岸部	75.0	73.5	73.0	71.4	74.1	72.2	73.1	23.7	20.1	20.5	23.1	22.0	22.3	22.3
	豊津・江坂・南吹田	70.9	71.2	70.2	69.2	69.3	67.5	68.9	18.1	18.4	17.4	19.0	15.6	14.9	16.7
	千里山・佐井寺	74.0	76.7	75.1	73.5	74.1	71.9	73.6	19.6	19.1	17.0	22.1	17.2	18.5	18.5
	山田・千里丘	73.7	73.6	73.8	70.8	71.8	69.2	71.9	21.2	17.6	17.9	20.7	16.5	18.1	18.1
	千里NT・万博・阪大	74.2	74.4	74.1	73.4	74.1	71.5	72.1	19.2	14.8	13.8	22.5	16.3	19.2	16.7

(注1) 重要度評価点から満足度評価点を引いた差。値が大きいほど、「重要度の水準に比して満足度が低い」ことを示す。

(注2) 差の欄におけるグレーの網掛けは差が 15 以上、白抜き文字は差が 20 以上。

(資料) 平成 26 年度(2014 年度)吹田市市民意識調査報告書から作成

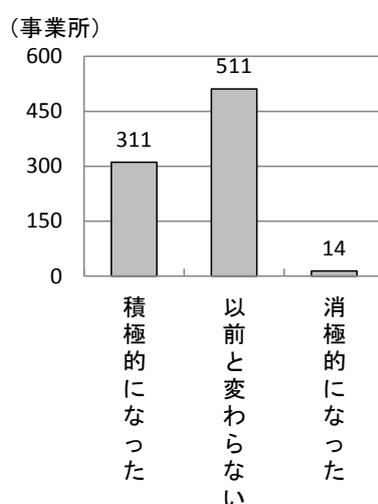
## (2) 個別事項の状況

- ・ 事業所アンケートによると、東日本大震災以降に省エネルギーに対して積極的になった事業所、また環境に配慮した取組を実施している事業所が、それぞれ4割近くある。(図表 III-71、図表 III-72)

### 考察

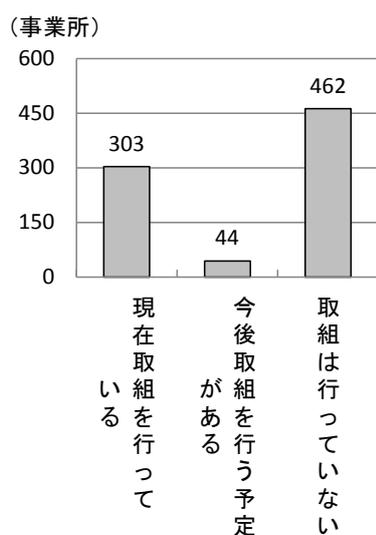
環境に配慮した活動を促進するには、業務や家庭生活など、身近なところで実施できる取組の啓発が欠かせないため、時間をかけて取り組んでいく必要がある。

図表 III-71 東日本大震災以降の省エネルギーに対する考え方の変化



(資料)平成26年度吹田市事業所実態調査結果報告書

図表 III-72 環境に配慮した取組の実施状況



(資料)平成26年度吹田市事業所実態調査結果報告書

## 6 安全で魅力的なまちづくり

### (1) 政策に関する評価（図表 III-73）

- ・ 上下水道に関連する項目の重要度評価点は比較的高いが、満足度評価点との差はそれほど大きくなく、他の施策と比較すると満足度が高めであると考えられる。
- ・ ただし、片山・岸部では「21. 公共下水道の整備」で重要度評価点と満足度評価点の差がやや大きくなっている。

図表 III-73 上下水道についての重要度評価点と満足度評価点の差

(評価点、100点満点)

		重要度評価点		満足度との差	
		20. 良質な 水道水 の安定 供給	21. 公共 下水道 の整備	20. 良 質な 水道 水 の安 定 供 給	21. 公 共 下 水 道 の 整 備
全体		76.0	73.7	12.9	12.4
性別	女性	77.5	74.9	14.5	13.9
	男性	74.2	72.2	11.2	10.8
年齢別	30歳未満	75.4	73.7	12.3	12.7
	30歳代	73.2	71.1	13.5	12.9
	40歳代	73.8	70.3	12.9	8.9
	50歳代	74.7	72.1	13.5	12.5
	60歳代	77.5	76.2	13.4	14.3
	70歳以上	80.8	78.4	12.3	13.8
居住地域別	JR以南	75.8	72.2	11.3	11.7
	片山・岸部	76.7	75.2	14.1	15.6
	豊津・江坂・南吹田	71.8	69.5	11.6	10.2
	千里山・佐井寺	77.6	75.6	14.2	13.1
	山田・千里丘	77.0	75.0	13.7	14.3
	千里NT・万博・阪大	77.3	74.2	12.5	9.8

(注1) 重要度評価点から満足度評価点を引いた差。値が大きいほど、「重要度の水準に比して満足度が低い」ことを示す。

(注2) 差の欄におけるグレーの網掛けは差が 15 以上、白抜き文字は差が 20 以上。

(資料) 平成 26 年度(2014 年度)吹田市市民意識調査報告書から作成

## (2) 個別事項の状況

- ・ 災害時の避難場所（市が定めた場所か自治会が定めた場所のいずれか）を認知している人は約7割だが、両方を知らず、災害時の避難場所も決めていない人も約2割いる。また、自治会加入者のほうが、避難場所を認知している割合が高い。（図表 III-74）
- ・ 災害に備えた取組としては、非常用食糧の備蓄や家族間での避難場所等の取り決めが多くなっている一方で、取組を行っていない人が3割以上となっている。また、避難場所の認知状況と同様、全般的に自治会加入者のほうが取組割合が高い傾向にある。（図表 III-75）
- ・ 防災気象情報はTV等から得られていることが多く、市のホームページで閲覧できる防災気象情報の認知度は非常に低いため、防災啓発や防災関連リンクも利用されていないと考えられる。一方で、回答者の約半数に利用意向がある。（図表 III-76）
- ・ 住宅用火災報知器の設置義務についての認知度は上昇しており、設置も進んでいる。（図表 III-77）
- ・ まちづくりに関して重要度等の評価を地域別に比較すると、千里NT・万博・阪大以外の地域では、「歩行者道・自転車道」と「高齢者向け住宅及びサービス」については、重要度が高いと回答されている一方で満足度が低い。また、JR以南では、「地震・風水害対策」と「防犯対策」の満足度が他地域よりも低く、片山・岸部や山田・千里丘では「駅前や駅周辺の商業地における魅力・にぎわい」の満足度が低い。（図表 III-78）
- ・ 定住意向は、南部よりも北部の方が強い傾向が見られる。（図表 III-79）
- ・ 住み続けたい理由は生活利便性や交通利便性の高さと公園や緑地が多く環境が良いなど住環境としての良さが主な理由である一方、引っ越したい理由は住環境及び現状の住まいの条件への不満が主である。（図表 III-80、図表 III-81）
- ・ 今後の公共施設のあり方については、移転や統廃合による総量減を望ましいとする回答者が多く、次いで利用者負担を増やしての現状維持が多い。また、特に維持・充実すべき施設としては、保健・医療施設、高齢者・障がい者支援施設、行政施設、学校施設、子育て支援施設などが挙げられている。（図表 III-82、図表 III-83）

### 考 察

市民が自ら災害に対する備えを十分に行えるよう、啓発や情報提供の強化を図ることが必要である。また、自治会加入者のほうが防犯に関する取組が進んでいることから、自治会加入促進を支援することも重要になると考えられる。また、防災に関する情報発信については、必要な情報を確実に届けられる方法で発信するための工夫が必要となる。

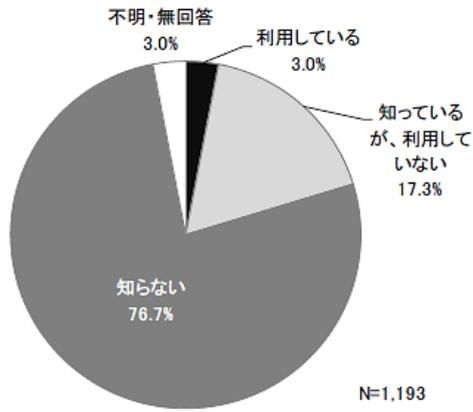
住環境については、ここでも図表 II-7 と同様に歩行者道及び自転車道に対する満足度が低いことが確認されており、早急な対応が必要になると考えられる。また、地域別の課題を確実に把握し、地域に応じたまちづくりを進めていく必要がある。

公共施設については、医療・福祉系及び教育系の施設に対するニーズが高い。今後、市民が必要とする施設やサービスを十分に提供していくため、公共施設のあり方や維持管理に関する財政負担等について、現状及び将来の見通しを踏まえ、早急に検討する必要がある。

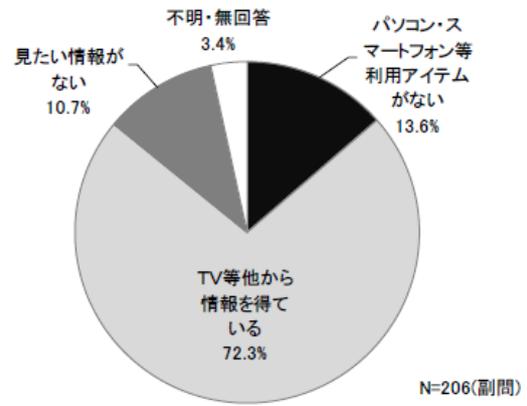


図表 III-76 市の防災気象情報の認知状況・利用していない理由・今後の利用意向

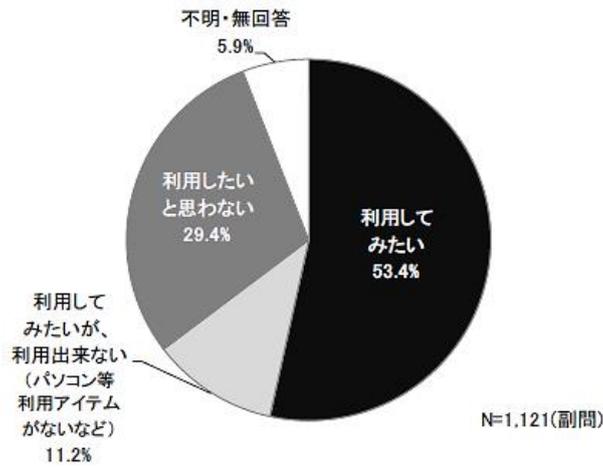
市の防災気象情報の認知・利用状況



市の防災気象情報を利用していない理由

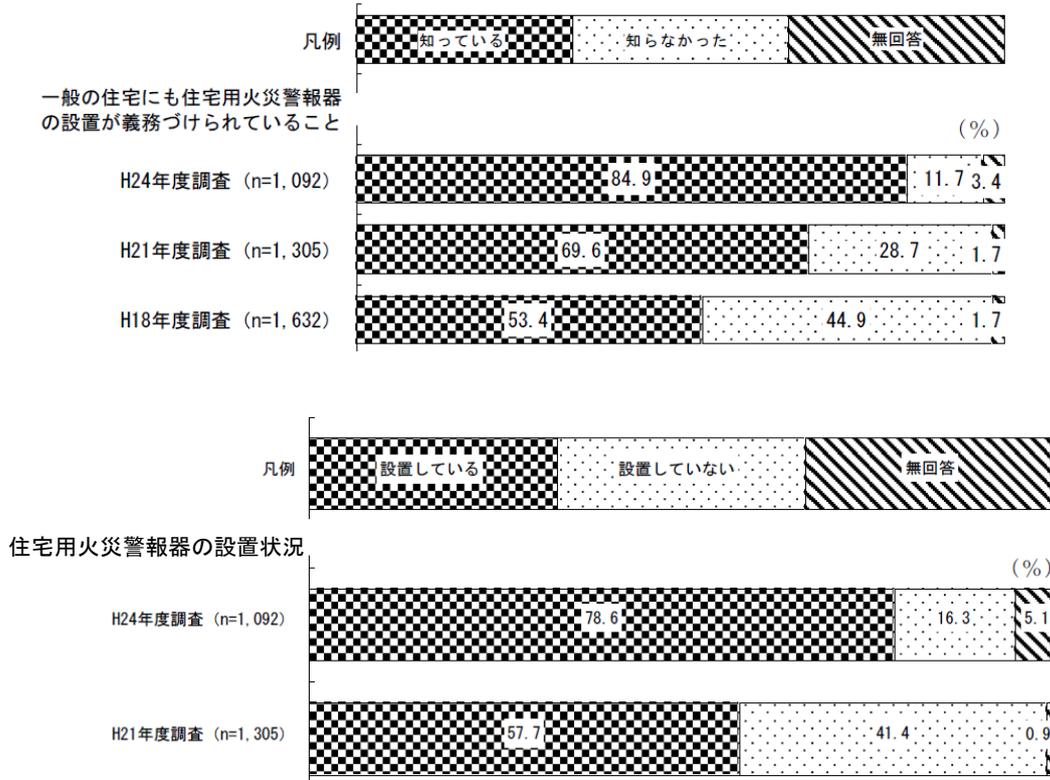


市の防災気象情報の今後の閲覧意向



(資料)平成 26 年度(2014 年度)吹田市市民意識調査報告書

図表 III-77 住宅用火災報知器の設置義務の認知・設置状況



(資料) 平成 24 年度(2012 年度) 市政モニタリング調査

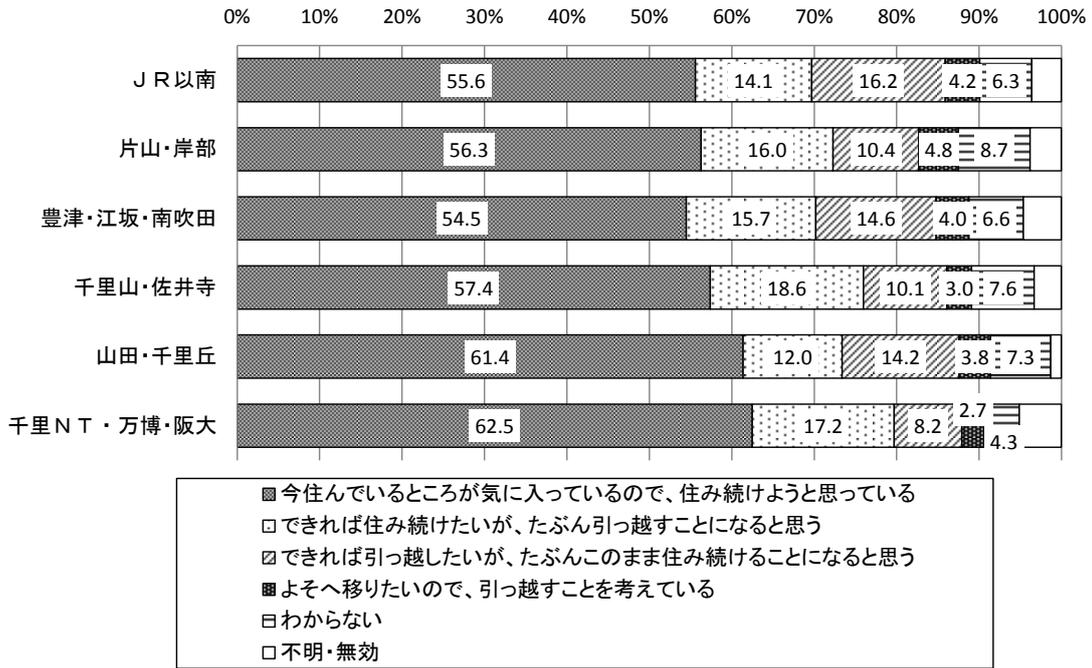
図表 III-78 満足度等の評価によるまちづくりに関する課題

番号	テーマ	JR以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里NT・万博・阪大
1	身近な範囲にお店や病院などの生活施設が充実している	125	176	182	151	138	302
2	歩行者や自転車が快適に利用できる道が整備されている	-27	-120	-62	-96	-188	132
3	自動車が快適に利用できる道が整備されている	15	-9	11	-26	-17	235
4	鉄道やバスなどの公共交通機関が利用しやすい	134	163	163	90	154	344
5	地震や風水害に対して安全なまちである	-35	90	38	140	168	202
6	防犯面で安心できるまちである	-7	29	21	67	80	127
7	公害や騒音・振動・悪臭などがなく、健康的に暮らせる	30	127	34	190	209	283
8	まちの特性に応じた計画的な土地利用が行われている	-29	-4	12	25	-53	92
9	公園や緑地・水辺などの自然環境が充実している	8	63	95	170	170	350
10	駅前や駅周辺の商業地に魅力・にぎわいがある	0	-88	118	-44	-75	55
11	さまざまな産業が集積し、まちに活力がある	-40	-51	60	-59	-90	-86
12	省資源・省エネルギーなど、環境に配慮したまちである	-48	-47	-52	-41	-57	3
13	地域の自然や歴史文化が継承され、活用されている	16	88	19	51	86	84
14	良好で魅力あるまちなみが保全・形成されている	-16	33	20	60	52	138
15	まちなかや公共施設のバリアフリー化が進んでいる	-13	-7	-32	-9	-56	127
16	高齢者が安心して暮らせる住宅やサービスが整っている	-23	-26	-38	-12	-39	41
17	生涯学習、文化活動、コミュニティ活動の場が充実している	24	42	29	48	91	85
18	身近な地域のまちづくりに関わる機会が整っている	-27	-7	-27	-18	-36	-1

表中の数値は満足度に関する回答をポイント換算した得点を示す **グレー**得点がマイナスの項目(弱み・課題) **白抜き**得点が150以上の項目(強み・特長)  
**黒塗り**各地域において、満足度のポイントがマイナスとなったテーマのうち、重要度が高いもの(選択率が25%以上であった回答)を太枠囲い

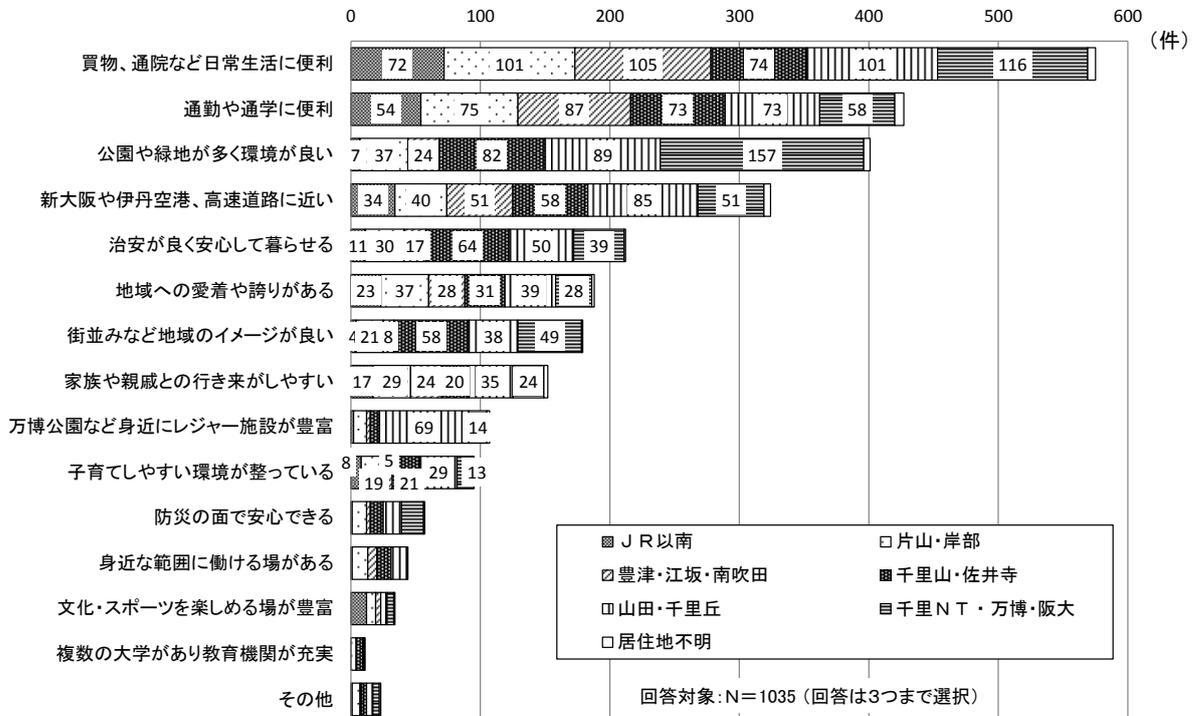
(資料) 都市計画マスタープランの見直しに関するアンケート調査(平成 25 年(2013 年)2 月)

図表 III-79 定住意向



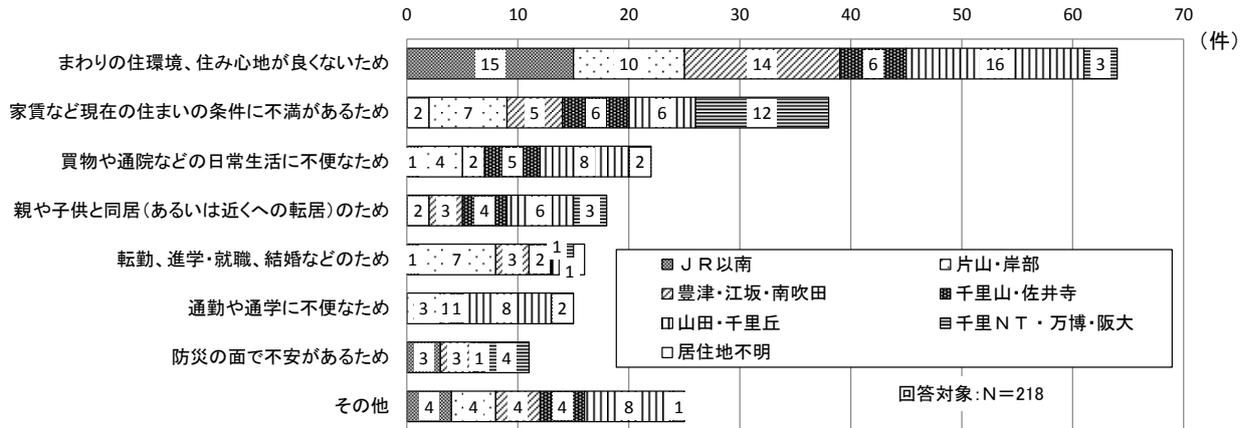
(資料) 都市計画マスタープランの見直しに関するアンケート調査(平成 25 年(2013 年)2 月)

図表 III-80 住み続けたい理由



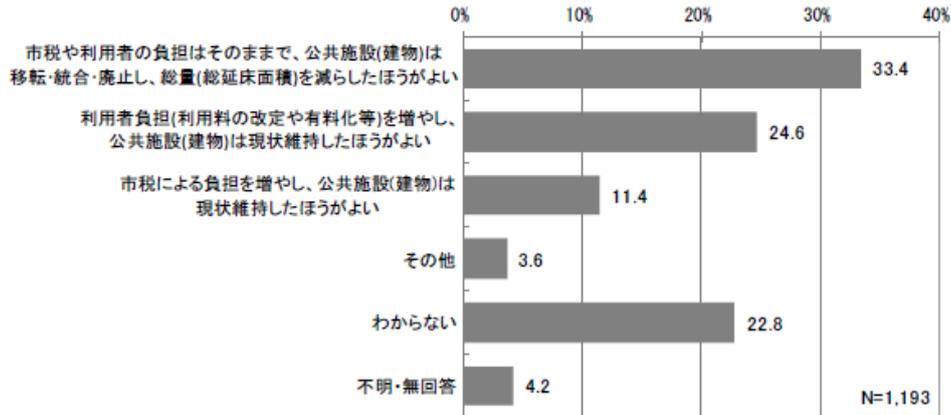
(資料) 都市計画マスタープランの見直しに関するアンケート調査(平成 25 年(2013 年)2 月)

図表 III-81 引っ越したい理由



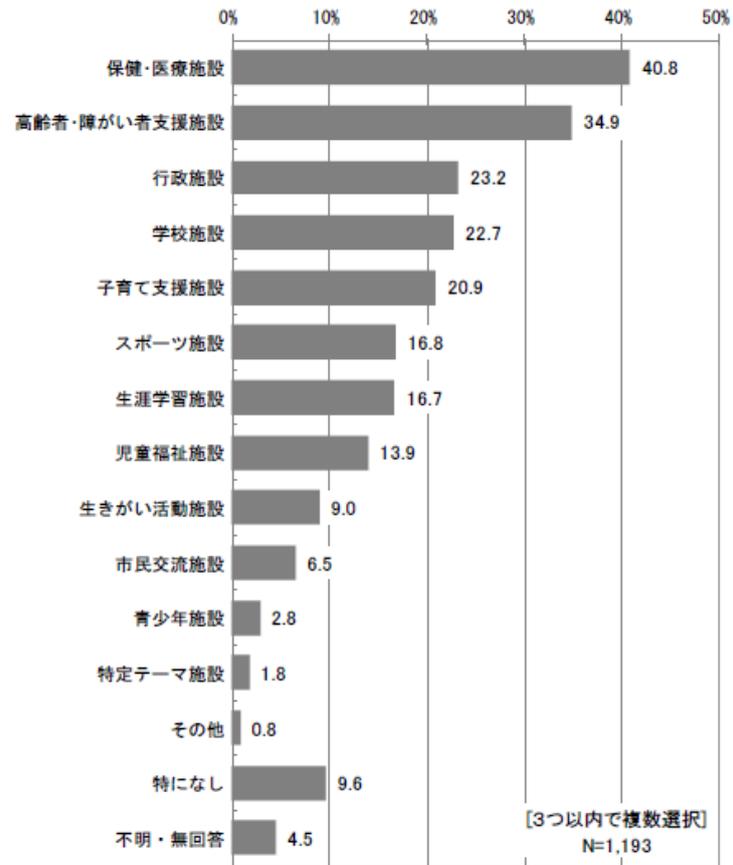
(資料) 都市計画マスタープランの見直しに関するアンケート調査(平成 25 年(2013 年)2 月)

図表 III-82 今後の公共施設のあり方



(資料) 平成 26 年度(2014 年度)吹田市市民意識調査報告書

図表 III-83 特に維持・充実していくべき公共施設



(資料) 平成 26 年度 (2014 年度) 吹田市市民意識調査報告書

## 7 活力あふれにぎわいのあるまちづくり

### (1) 政策に関する評価 (図表 III-84)

- ・ 重要度評価点について、総合評価よりも点数が大幅に高いもの、また、重要度評価点と満足度評価点の差が市全体で 20 を超えているものは、以下の項目である。
  - － 41. 雇用・就労の促進
  - － 42. 雇用の安定・勤労者福祉
- ・ 属性別の重要度評価点と満足度評価点の差をみると、「41. 雇用・就労の促進」と 42. 雇用の安定・勤労者福祉」については、ほとんどの属性で差が 20 を超えており、いずれも、特に 30 歳未満と JR 以南、片山・岸部における差が大きい。
- ・ 上記以外では、「38. 商工業の振興」と「44. 消費者の利益と安全の確保」で、全体的に差が大きくなっており、「38. 商工業の振興」では特に JR 以南と片山・岸部、「44. 消費者の利益と安全の確保」では 60 歳代以上及び JR 以南と片山・岸部で差が 20 を超えている。

図表 III-84 にぎわいについての重要度評価点と満足度評価点の差

		重要度評価点								重要度評価点と満足度評価点の差							
		38. 商工業の振興	39. 進都市と調和する農業の推進	40. 市の魅力を伝える取組	41. 雇用・就労の促進	42. 雇用の安定・勤労者福祉	43. 観光振興事業の推進	44. 消費者の利益と安全の確保	45. 価値項目 38	38. 商工業の振興	39. 進都市と調和する農業の推進	40. 市の魅力を伝える取組	41. 雇用・就労の促進	42. 雇用の安定・勤労者福祉	43. 観光振興事業の推進	44. 消費者の利益と安全の確保	45. 価値項目 38
全体		65.0	60.3	60.3	69.1	68.3	58.7	67.1	63.7	16.9	13.7	12.4	22.8	21.8	11.2	19.0	16.2
性別	女性	65.3	60.9	61.1	69.9	69.4	59.0	67.8	64.2	17.6	14.0	12.5	24.0	23.3	11.2	19.4	16.4
	男性	64.7	59.5	59.4	68.0	67.0	58.4	66.3	63.1	16.1	13.2	12.2	21.3	20.1	11.2	18.5	15.9
年齢別	30歳未満	66.5	61.3	62.1	72.5	70.5	60.0	67.2	64.8	15.2	14.7	13.1	25.8	25.0	13.0	18.0	17.2
	30歳代	64.4	57.2	58.3	68.2	67.2	56.8	64.7	61.5	19.1	11.7	12.5	23.2	22.0	10.5	17.9	15.4
	40歳代	63.1	57.2	56.8	65.7	65.0	55.5	64.0	60.6	14.5	11.0	9.8	20.0	18.7	8.8	16.6	14.0
	50歳代	63.8	59.7	57.8	68.4	67.9	55.7	64.4	62.0	17.3	13.3	10.2	23.7	22.5	9.6	16.7	14.8
	60歳代	64.8	62.1	61.5	69.8	69.0	60.5	70.3	65.8	16.5	14.6	12.1	22.8	21.7	11.9	21.8	17.0
	70歳以上	68.8	65.6	67.3	72.2	72.1	65.0	72.5	69.0	19.8	18.1	18.0	23.3	23.7	15.2	23.2	20.4
居住地域別	JR以南	68.2	61.3	64.3	72.0	70.2	60.1	67.5	65.2	22.6	15.3	18.8	27.9	26.4	12.1	20.3	19.2
	片山・岸部	66.6	62.3	60.2	71.9	70.7	59.1	68.2	65.5	21.8	18.3	13.7	27.2	25.9	14.1	22.0	19.9
	豊津・江坂・南吹田	63.8	59.4	60.7	67.6	66.6	58.6	66.6	62.8	12.6	11.1	11.6	20.1	19.3	10.2	19.0	15.3
	千里山・佐井寺	65.6	58.8	60.4	67.2	67.1	57.6	67.3	63.2	16.3	11.7	12.8	19.7	19.2	10.8	18.6	14.8
	山田・千里丘	63.0	59.8	58.7	69.1	68.3	57.7	66.9	62.8	14.3	13.7	10.3	22.7	21.8	9.9	18.2	15.0
	千里NT・万博・阪大	66.3	61.8	61.3	69.5	69.3	60.6	67.4	64.9	19.1	14.1	12.4	23.6	22.3	12.2	18.5	16.5

(注1) 重要度評価点から満足度評価点を引いた差。値が大きいほど、「重要度の水準に比して満足度が低い」ことを示す。

(注2) 差の欄におけるグレーの網掛けは差が 15 以上、白抜き文字は差が 20 以上。

(資料) 平成 26 年度 (2014 年度) 吹田市市民意識調査報告書から作成

## (2) 個別事項の状況

- ・ 事業所が吹田市に立地するメリットとして突出して大きいのは交通利便性である。一方、デメリットについては、「競合相手が多い」、「地価や借地料などが高い」などの回答があるものの、「特にない」が圧倒的に多い。(図表 III-86)
- ・ 直近3年間の売上額の傾向は「減少している」が最も多く、次いで「横ばい」が多い。減少している割合は、特に従業者数が4人以下の事業所で高くなっている。減少の理由としては、いずれの業種でも、「同業者との競争関係」や「景気変動」などの回答が多い。(図表 III-87)
- ・ 経営上の問題点の内的要因としては、「人材等の確保」や「営業力の不足」を挙げる事業所が多いほか、「経費の増大」「資金調達」「店舗設備の老朽化」に対する回答も比較的多い。経営上の問題の外的要因としては、「業者間の競争激化」や「来客数の減少」を挙げる事業所が多いが、一方で、「特になし」も比較的多い。(図表 III-88)
- ・ 直近の3年間で人材の採用実績(予定)がない事業者が多く、その理由は「人手が足りていた」が最も多い。また、事業所の約7割は、若年層(34歳以下)の人材を採用していない。(図表 III-89、図表 III-90)
- ・ 一方で、不足している人材としては「営業、マーケティング知識のある人」や「専門技術能力のある人」が多くなっており、現状維持であれば人材が充足している(あるいは採用する余力がない)が、事業を拡大するには人手が不足しているという状況にあることが推察される。(図表 III-91)
- ・ 学生の約半数は、大手企業への就職を希望している。また、その規模の企業を就職先として希望する理由としては、「安定してそうだから」や「自分のやりたい仕事(職種)ができそうだから」、「給料がよさそうだから」の割合が高い。(図表 III-92)
- ・ 吹田の企業に就職したいと思うための条件については、「働きたいと思うような企業が多くできる」が圧倒的に多く、次に「給料のよい就職先が多くできる」「志望する職種に就けるようになる」が続いており、規模別の就職希望先を選ぶ場合の理由と大きく変わらない。(図表 III-93)
- ・ 吹田にある企業の認知度については、「知らない」が圧倒的に多く、約6割を占める。(図表 III-94)
- ・ 今後の事業承継については「わからない」とする事業所が最も多く、後継者を決めていない事業所が多い。(図表 III-95)
- ・ 今後、設備投資や事業所・店舗の増設を予定している事業所は少ない。(図表 III-96、図表 III-97)
- ・ 市の商工振興施策を活用したことがある事業所は少なく、「施策は知っているが活用したことはない」事業所と「施策を知らない」事業所がそれぞれ約4割となっている。(図表 III-98)
- ・ 施策を知る機会としては、「吹田商工会議所等の経済団体からの案内」か「市報すいた」が多く、「企業訪問やメール等、本市職員からの直接の案内」は少ない。(図表 III-99)
- ・ 希望する商工振興施策については、「特に必要ない」が最も多いが、「資金調達支援」や

- 「販路開拓・受注拡大支援」、「人材獲得・育成支援」への回答も多い。(図表 III-100)
- ・多様な働き方の実現につながる年次休暇の時間単位取得制度は、回答企業の7割以上で導入されていない。また、変形労働時間制についても導入していない企業が6割近くにのぼる。(図表 III-101)
  - ・労働者福祉の向上につながる福利厚生制度は、導入している事業所は約半数となっている。(図表 III-102)
  - ・ワーク・ライフ・バランスへの取組を推進するにあたっての課題や問題点としては、「人員に余裕がない」の割合が最も高く、次いで「社内の認識が乏しい」「情報やノウハウの不足」が多く挙げられている。(図表 III-103)

### 考察

本市は、事業所にとって、交通利便性に恵まれた立地環境となっており、この特性をいかした企業誘致及び既存企業の流出抑制のための取組を推進することが望ましい。ただし、本市ではまとまった産業用地の確保は困難であり、企業誘致等にあたっては、手法の工夫を検討する必要がある。

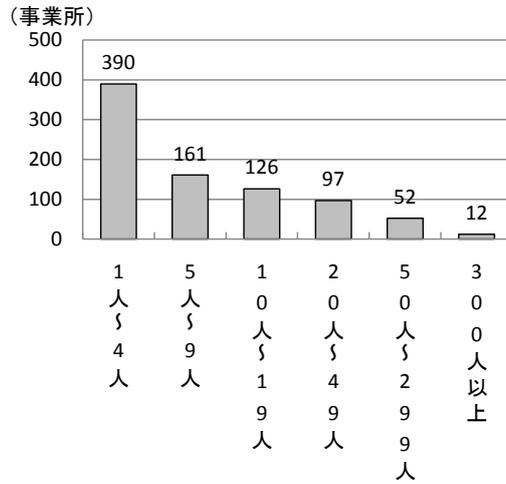
市の商工振興施策についてはあまり認知されておらず、商工会議所等の関係機関とも連携しながら、市と事業者との関係を強化する必要があると考えられる。

同業者との競争の激化や景気変動、顧客の減少等により、売上高が伸びない事業所が多く、また人材や営業力の不足を認識している事業者も多い。売上向上のためには、販路の開拓・拡大や事業の新展開等が欠かせず、当該分野を支援するための取組が必要になることが考えられる。また、人材確保については、学生をはじめとした今後就職が見込まれる世代に対する積極的なPRを支援し、市内企業への就職を促進する必要がある。

事業所における福利厚生やワーク・ライフ・バランス確保への取組は十分に進んでいるとは言えない状況にあり、今後も啓発が必要になると考えられる。

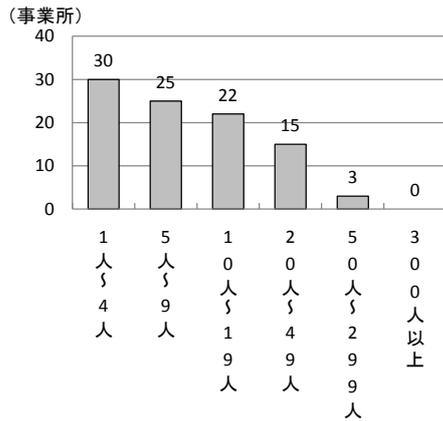
図表 III-85 回答事業所の業種別従業員規模

《全体》

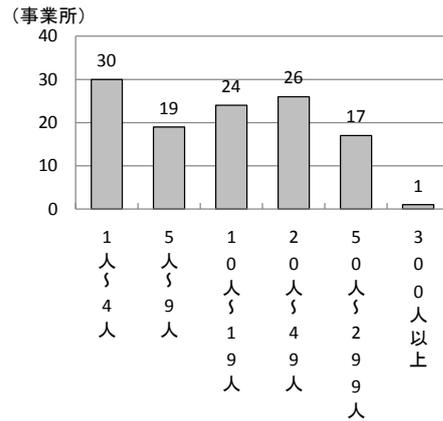


《業種別》

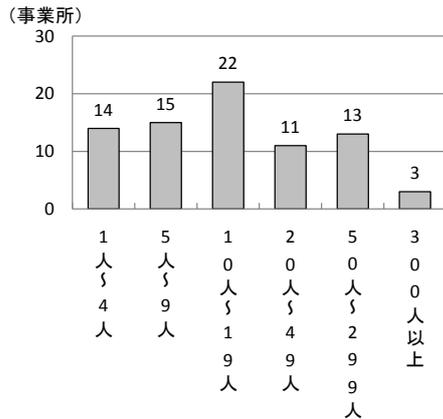
(建設業)



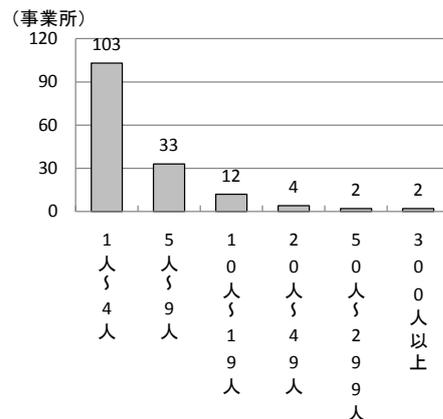
(製造業)



(卸売業)



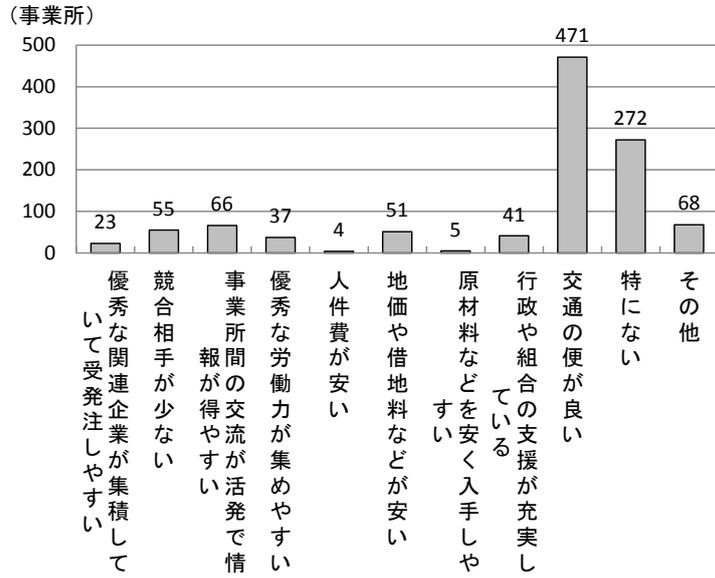
(小売業)



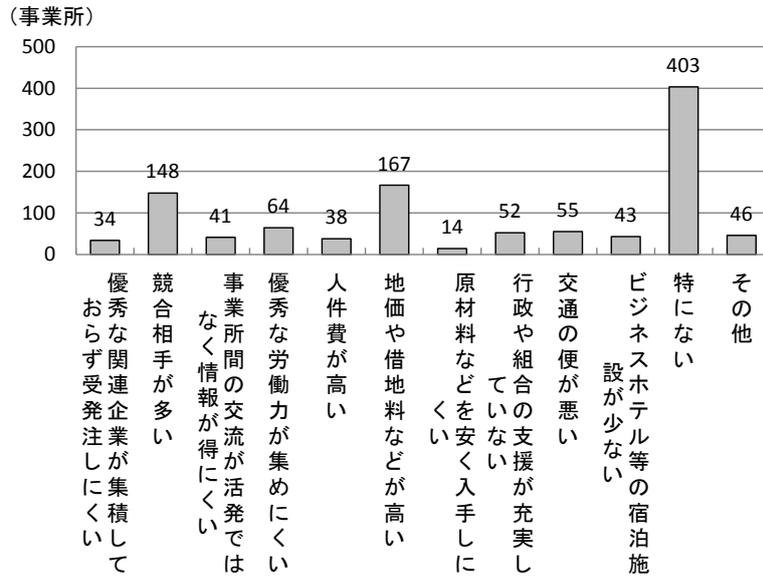
(資料) 平成 26 年度吹田市事業所実態調査結果報告書

図表 III-86 吹田市に立地していることによるメリット・デメリット

■メリット



■デメリット

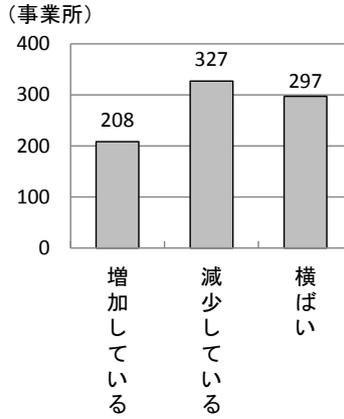


(資料)平成 26 年度吹田市事業所実態調査結果報告書

図表 III-87 直近3年間の売上額の動向

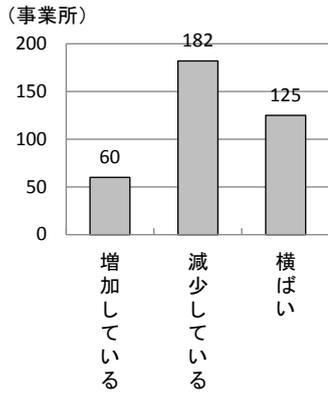
■売上額の動向

《全体》

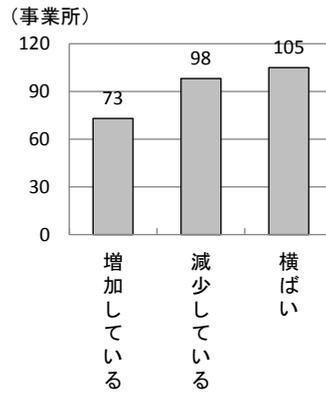


《従業員規模別》

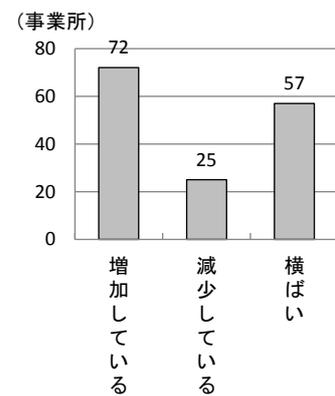
(1人～4人)



(5人～19人)



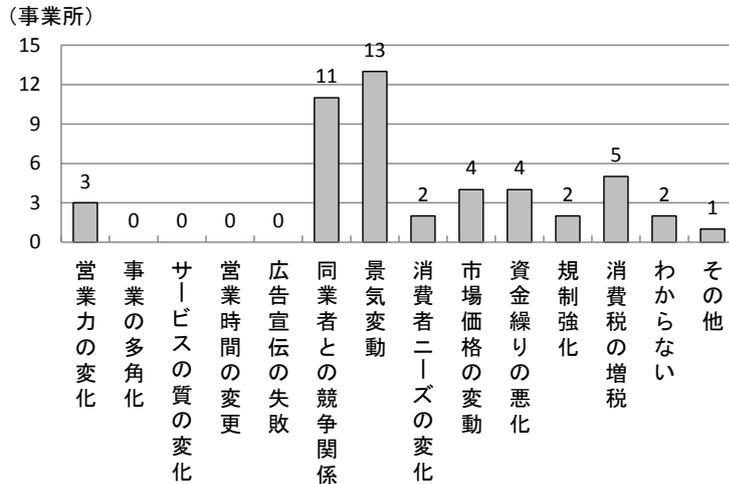
(20人～)



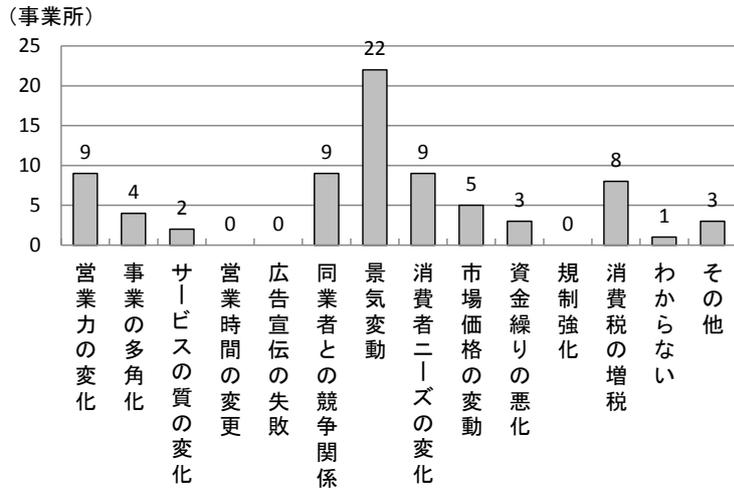
■減少の理由

《業種別》

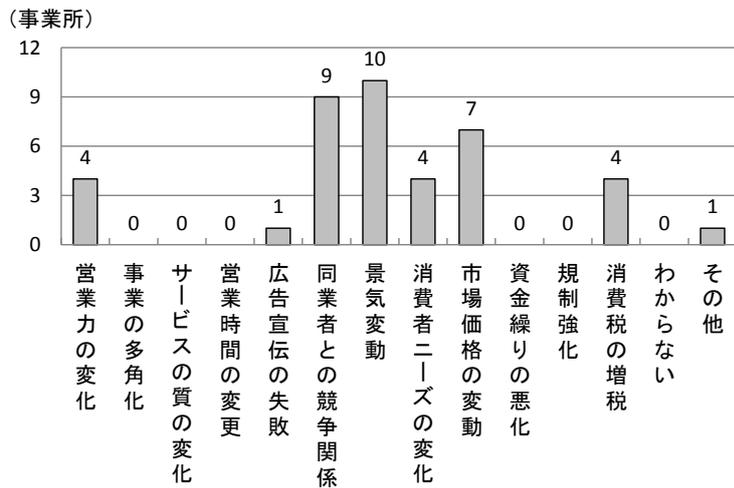
(建設業)



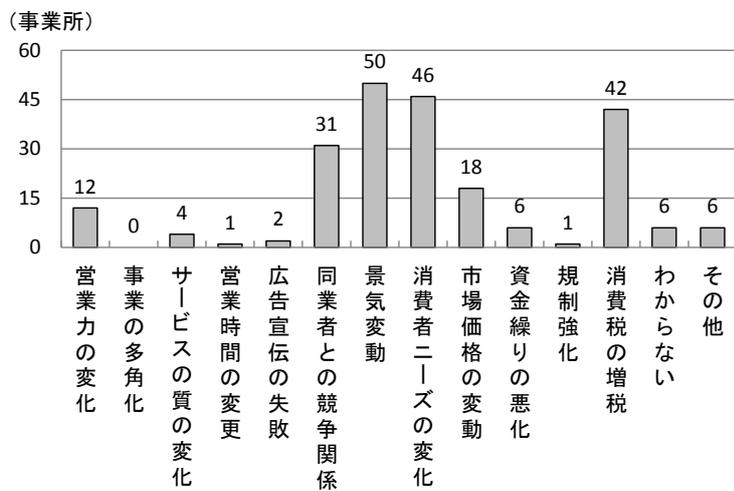
(製造業)



(卸売業)



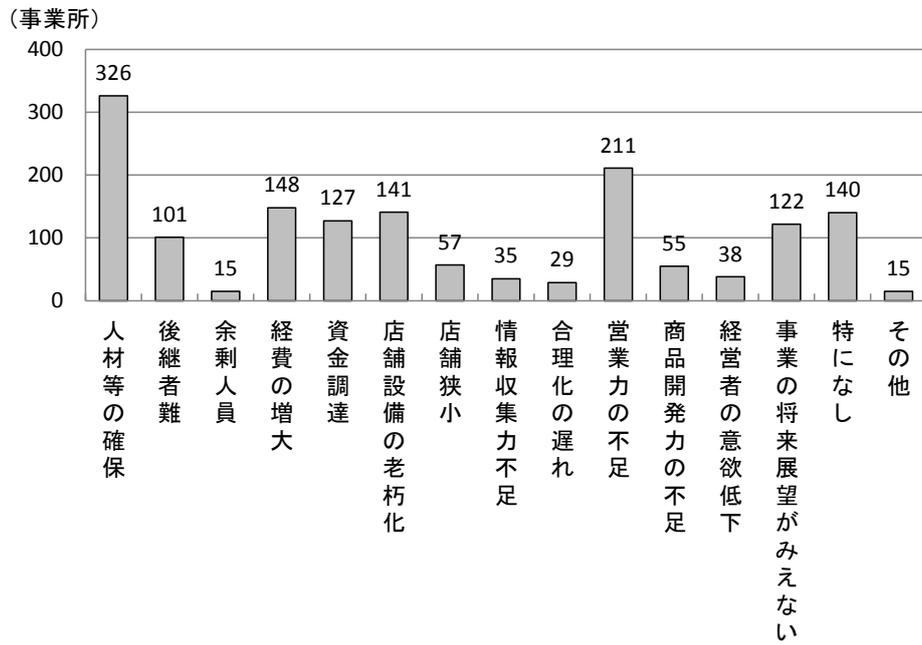
(小売業)



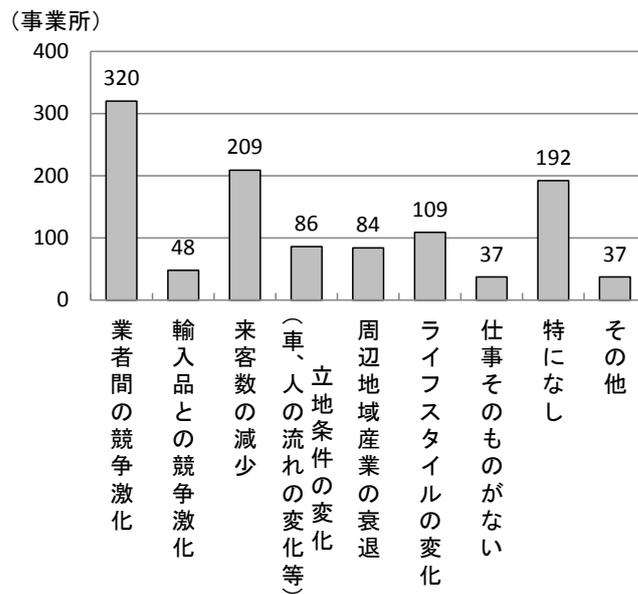
(資料) 平成 26 年度吹田市事業所実態調査結果報告書

図表 III-88 経営上の問題点

■内的要因によるもの



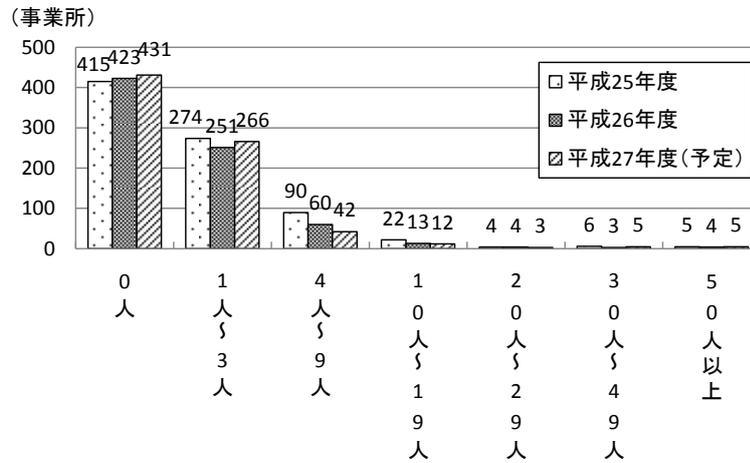
■外的要因によるもの



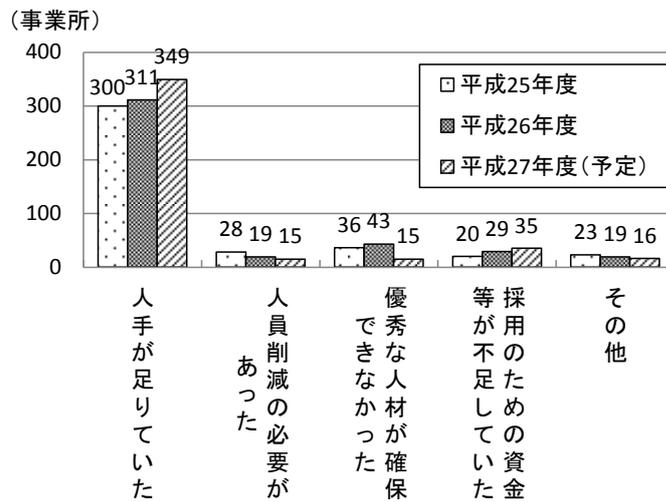
(資料) 平成 26 年度吹田市事業所実態調査結果報告書

図表 III-89 平成 25・26 年度採用実績、27 年度採用予定と採用しない理由

■採用実績

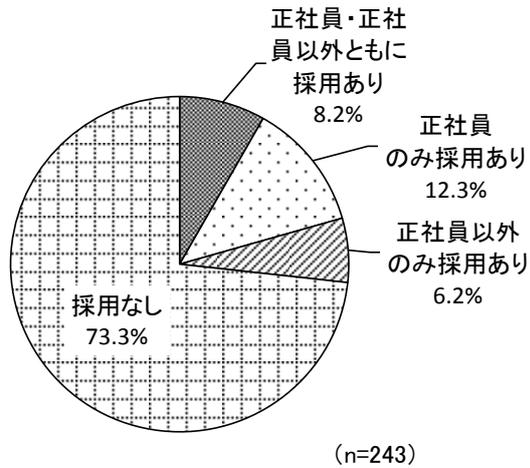


■採用実績がない理由



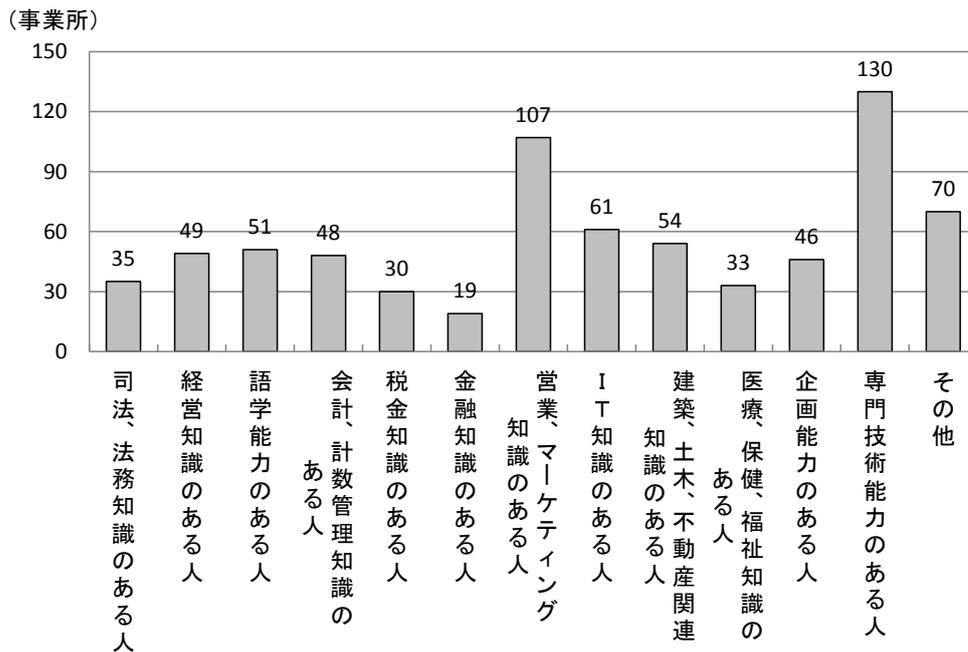
(資料)平成 26 年度吹田市事業所実態調査結果報告書

図表 III-90 平成 26 年度における若年層(34 歳以下)の採用の状況



(資料)平成 27 年度(2015 年度)吹田市労働事情調査

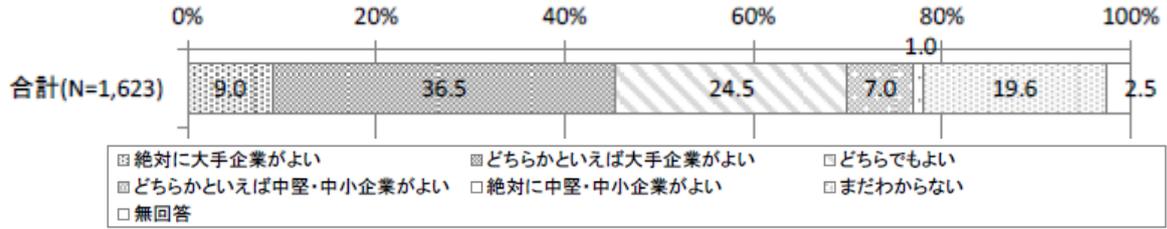
図表 III-91 事業所、店舗等で不足している人材



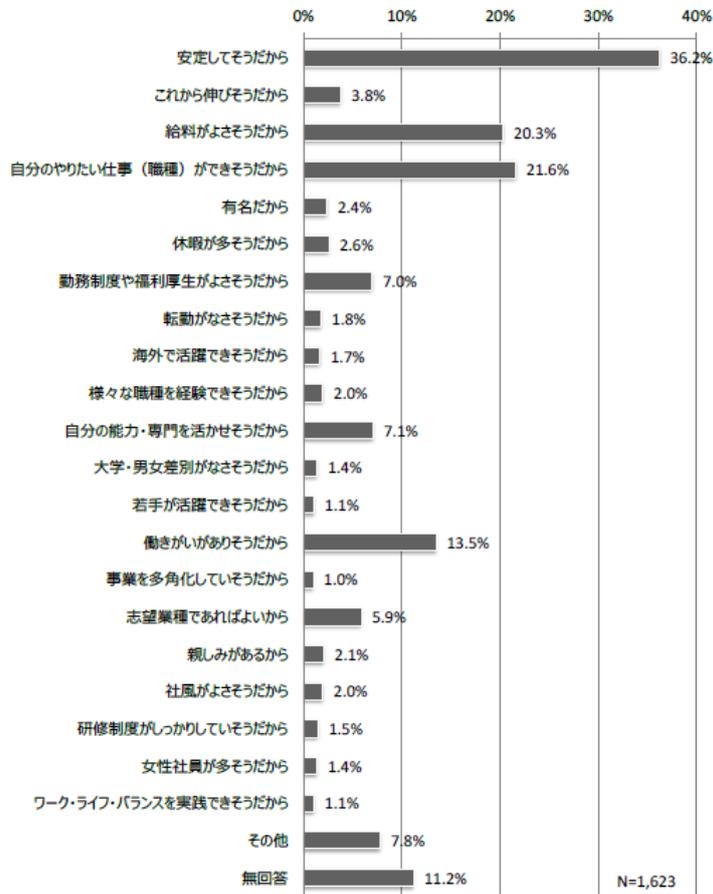
(資料)平成 26 年度吹田市事業所実態調査結果報告書

図表 III-92 大学生が就職先として希望する企業の規模と理由

■就職先として希望する企業の規模

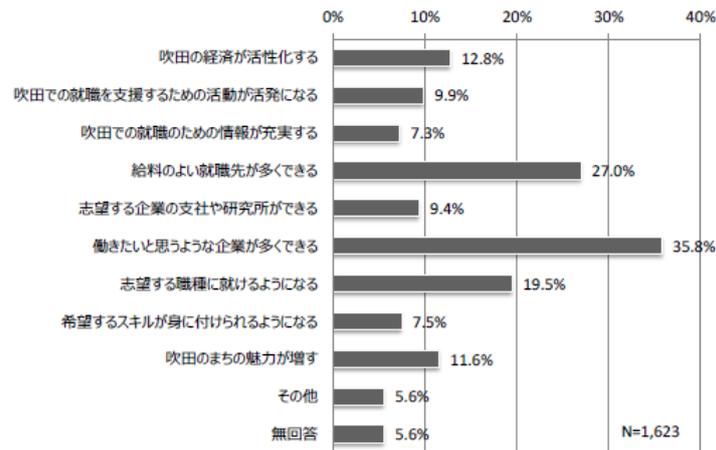


■希望する理由



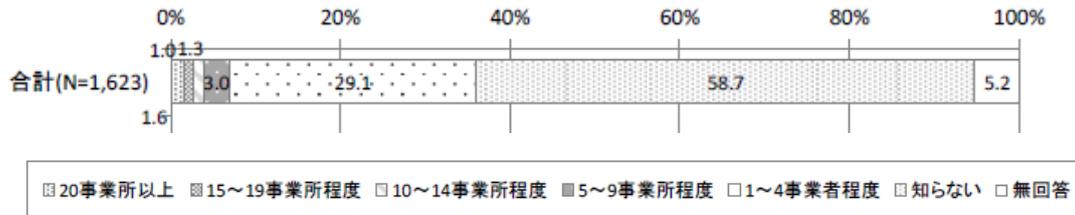
(資料)吹田市内の大学に就学する学生の就職意識等に関するアンケート調査報告書(平成27年(2015年)10月)

図表 III-93 吹田の企業に就職したいと思うための条件



(資料) 吹田市内の大学に就学する学生の就職意識等に関するアンケート調査報告書  
(平成 27 年(2015 年)10 月)

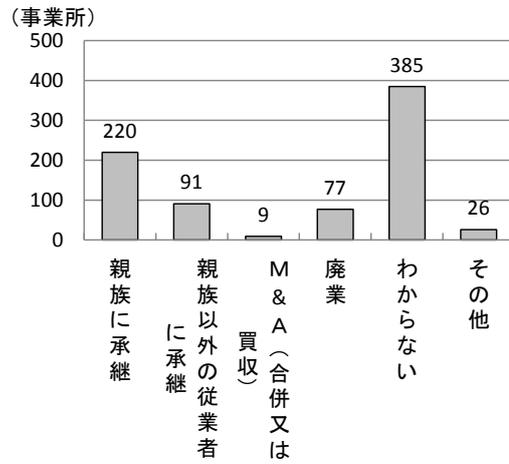
図表 III-94 吹田にある企業(本社、支社、規模は不問)の認知度



(資料) 吹田市内の大学に就学する学生の就職意識等に関するアンケート調査報告書  
(平成 27 年(2015 年)10 月)

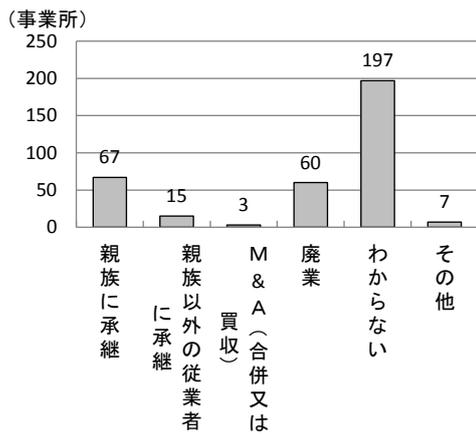
図表 III-95 今後の事業承継

《全体》

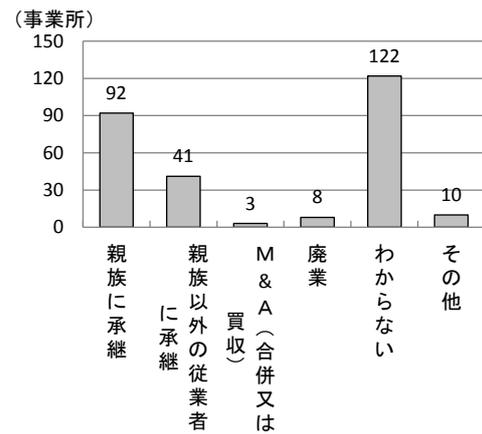


《従業員規模別》

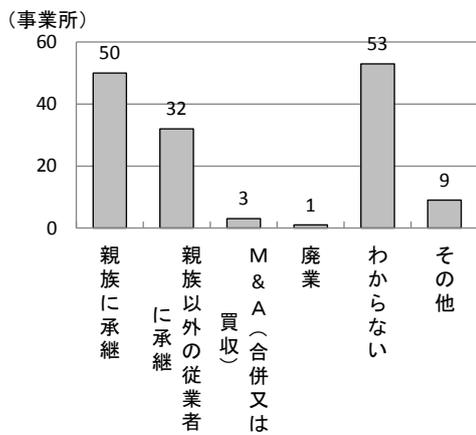
(1人～4人)



(5人～19人)



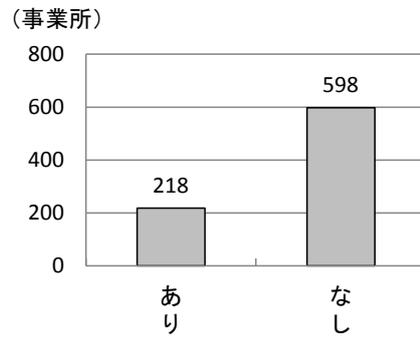
(20人～)



(資料) 平成 26 年度吹田市事業所実態調査結果報告書

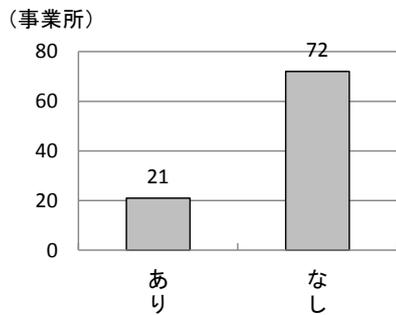
図表 III-96 今後の設備投資予定

《全体》

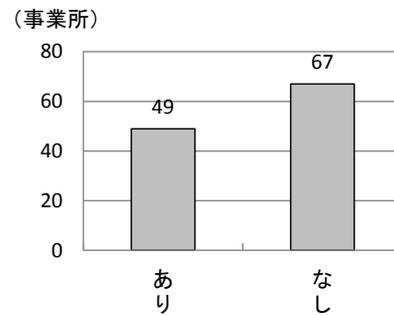


《業種別》

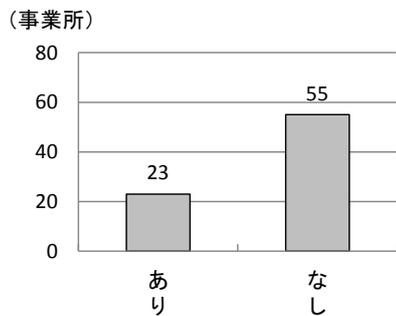
(建設業)



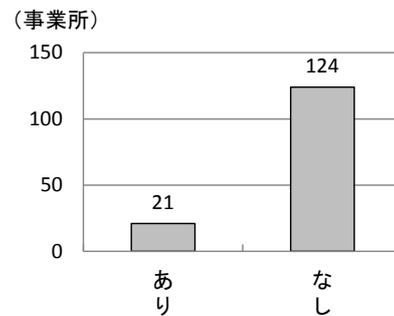
(製造業)



(卸売業)



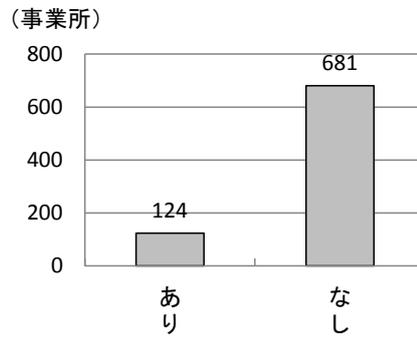
(小売業)



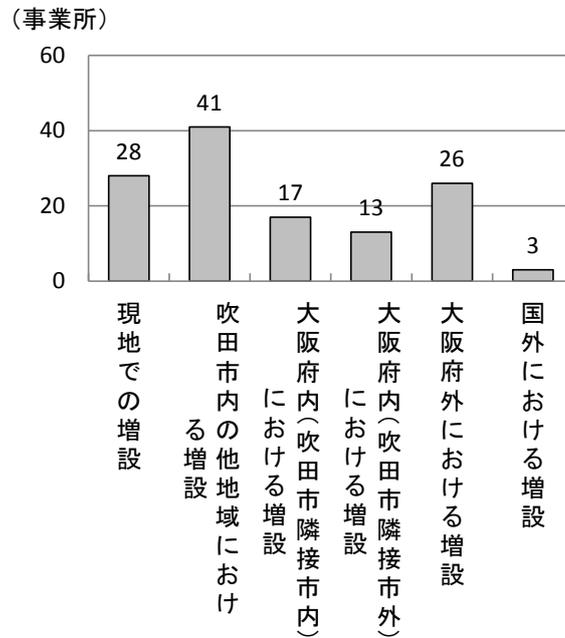
(資料)平成 26 年度吹田市事業所実態調査結果報告書

図表 III-97 今後の事業所・店舗の増設予定と増設場所

■ 増設予定

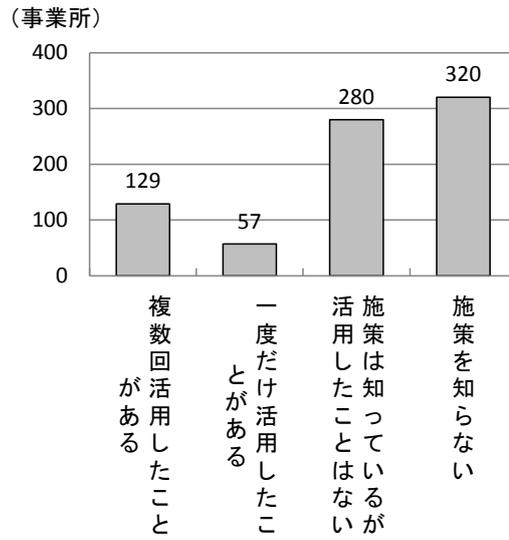


■ 増設場所



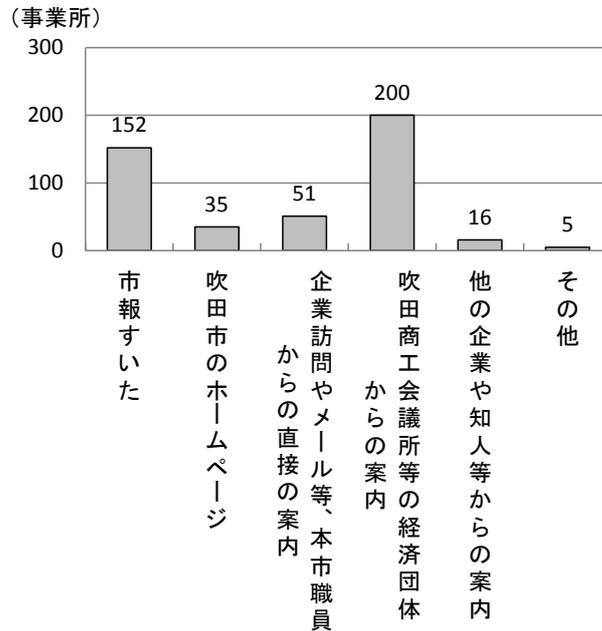
(資料) 平成 26 年度吹田市事業所実態調査結果報告書

図表 III-98 商工振興施策の活用状況



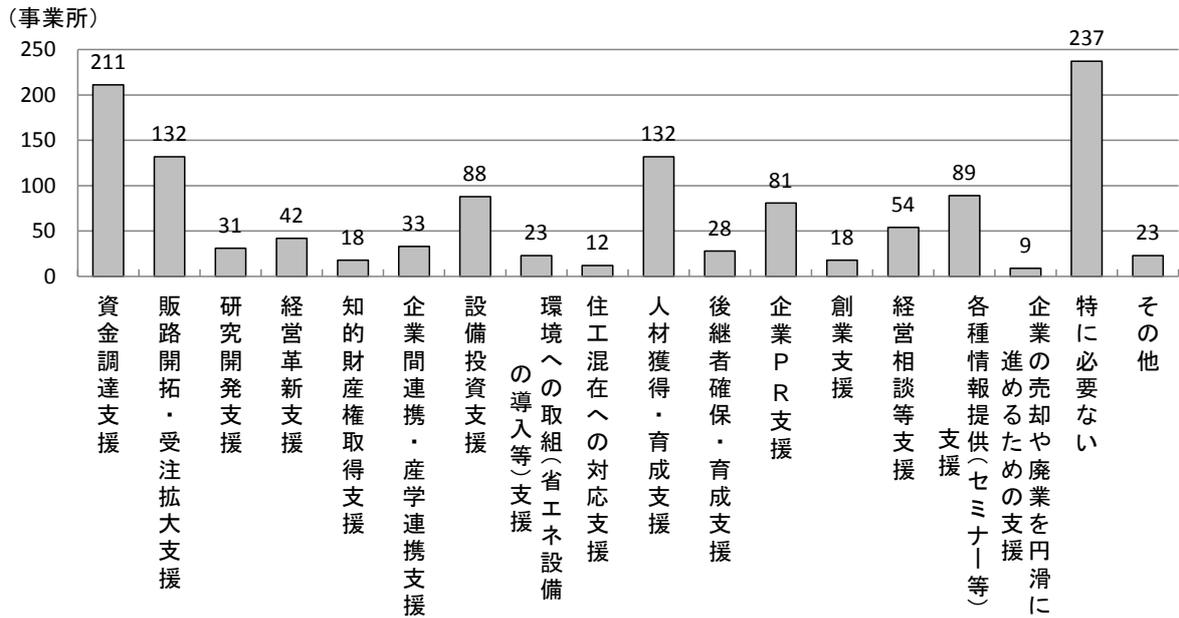
(資料)平成 26 年度吹田市事業所実態調査結果報告書

図表 III-99 施策を知る機会が多いもの



(資料)平成 26 年度吹田市事業所実態調査結果報告書

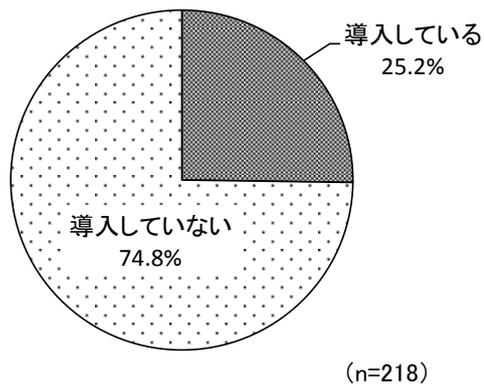
図表 III-100 希望する商工振興施策



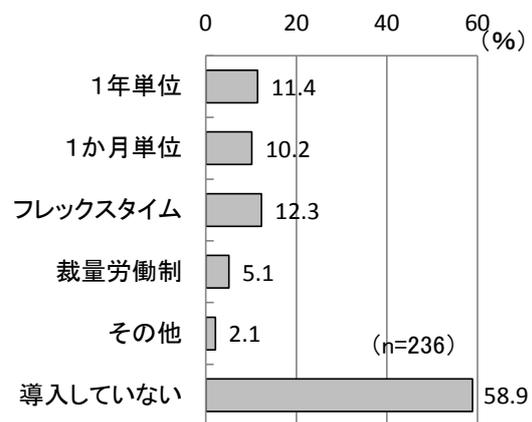
(資料) 平成 26 年度吹田市事業所実態調査結果報告書

図表 III-101 年次休暇の時間単位取得制度・変形労働時間制等の導入状況

[年次休暇の時間単位取得制度]

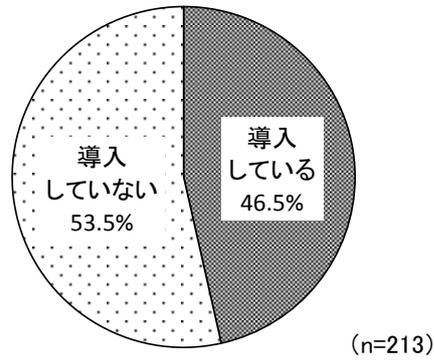


[変形労働時間制等]



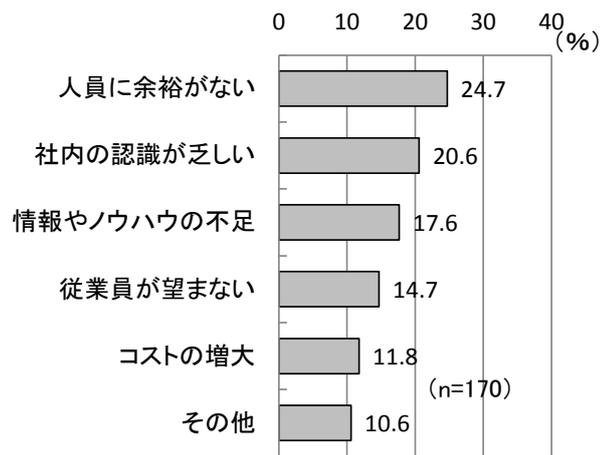
(資料) 平成 27 年度(2015 年度)吹田市労働事情調査

図表 III-102 福利厚生制度の導入状況



(資料) 平成 27 年度(2015 年度)吹田市労働事情調査

図表 III-103 ワーク・ライフ・バランスへの取組を推進するにあたっての課題や問題点



(資料) 平成 27 年度(2015 年度)吹田市労働事情調査

## 8 基本計画推進のために

### (1) 政策に関する評価（図表 III-104）

- ・ 重要度評価点はいずれの項目でも 70 点を超えており、比較的重要度が高い分野であると考えられる。
- ・ 属性別の重要度評価点と満足度評価点の差をみると、全ての項目及びほとんどの属性で差が 20 を超え、中には 30 を超えるものもあることから、満足度は全般的に低いといえる。

図表 III-104 市政全般についての重要度評価点と満足度評価点の差

		重要度評価点			重要度評価点と満足度評価点の差		
		46. 効率的な 行財政運 営	47. 市職員 の育成	48. 市の窓 口サー ビスの 満足	46. 効率的な 行財政運 営	47. 市職員 の育成	48. 市の窓 口サー ビスの 満足
全体		71.1	71.0	71.7	27.2	26.7	23.0
性別	女性	71.6	71.2	72.2	28.1	27.1	24.3
	男性	70.4	70.8	71.0	26.2	26.2	21.4
年齢別	30歳未満	71.0	69.9	71.6	26.7	24.3	23.7
	30歳代	68.5	67.9	69.9	26.2	25.3	25.9
	40歳代	68.5	68.7	69.5	24.6	25.7	23.1
	50歳代	67.8	69.2	70.9	24.5	25.0	24.9
	60歳代	75.2	73.7	74.0	30.4	28.1	23.8
	70歳以上	75.1	76.2	74.2	30.4	30.8	17.7
居住地 域別	JR以南	70.3	74.4	74.7	26.9	30.5	27.3
	片山・岸部	74.7	72.3	71.9	32.8	28.6	24.3
	豊津・江坂・南吹田	69.7	69.6	69.2	25.3	25.8	20.3
	千里山・佐井寺	70.8	70.7	72.7	26.8	25.6	25.0
	山田・千里丘	69.8	71.3	72.4	24.8	27.0	24.1
	千里NT・万博・阪大	72.0	70.3	71.2	28.2	25.4	19.6

(注1) 重要度評価点から満足度評価点を引いた差。値が大きいほど、「重要度の水準に比して満足度が低い」ことを示す。

(注2) 差の欄におけるグレーの網掛けは差が 15 以上、白抜き文字は差が 20 以上。

(資料) 平成 26 年度(2014 年度)吹田市市民意識調査報告書から作成

## (2) 個別事項の状況

- ・ 歳入確保のために重点を置くべき施策としては、「未利用市有地の有効活用や処分」、「企業誘致などによる市税収入確保」とする回答が多く、歳出削減に関しては、「建設事業の無駄を省く」や「人件費の削減」とする回答が多い。(図表 III-105)
- ・ 窓口サービスについては、職員に関すること(言葉遣い、身だしなみ、説明のわかりやすさ)では概ね満足度が高いが、手続きに関すること(申請書類等のわかりやすさ、用件にかかった時間)の満足度はやや低い。(図表 III-106)

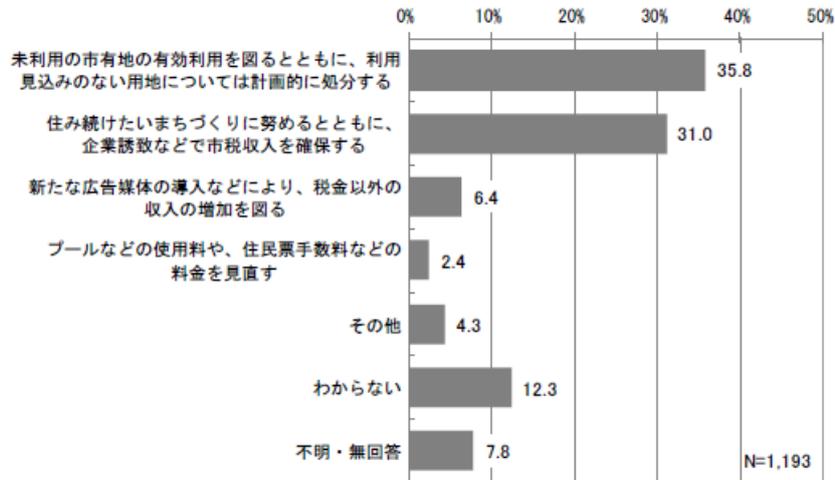
### 考察

市民サービスの充実と持続可能な財政運営の両立を図るためには、真に必要な事業や施策の優先性などを点検しながら、コストの削減や平準化による歳出削減を図っていく必要がある。

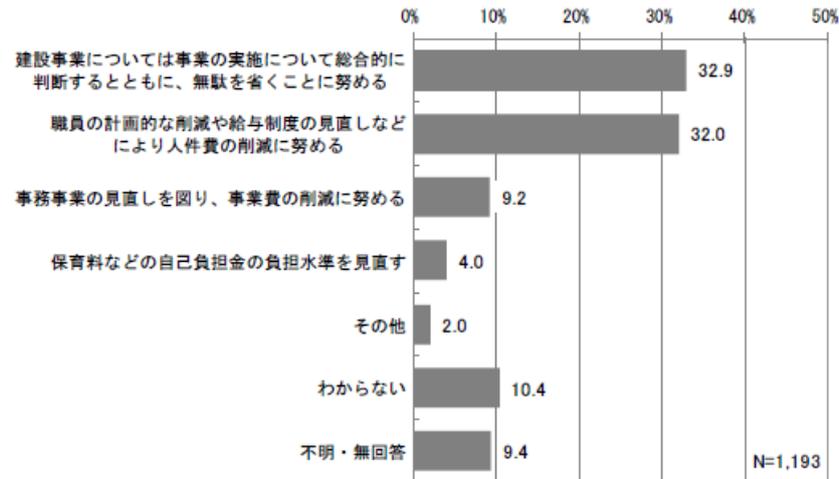
また、窓口等における手続きについては、簡素化できる部分には一定の制約があるものの、申請書類を記入しやすくなるような説明や記入例を示すことや、迅速な対応を心掛けるなど、できる限り市民の利便性の向上を目指した取組が求められる。

図表 III-105 歳入確保・歳出削減のため、今後重点を置くべきと考える施策

■歳入確保のための施策



■歳出削減のための施策

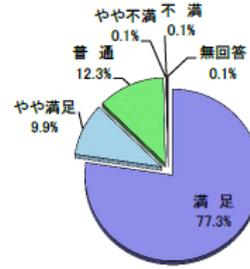


(資料) 平成 26 年度(2014 年度)吹田市市民意識調査報告書

図表 III-106 窓口サービスに対する評価

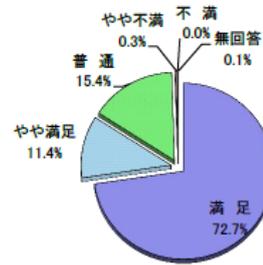
① 質問1 職員の言葉づかい

	26年度		25年度	24年度
	回答数(件)	構成比(%)	構成比(%)	構成比(%)
満足(5点)	1,656	77.3	70.7	68.0
やや満足(4点)	213	9.9	13.4	14.1
普通(3点)	264	12.3	15.5	16.9
やや不満(2点)	3	0.1	0.3	0.5
不満(1点)	3	0.1	0.0	0.3
無回答	2	0.1	0.1	0.3
合計	2,141	100.0	100.0	100.0



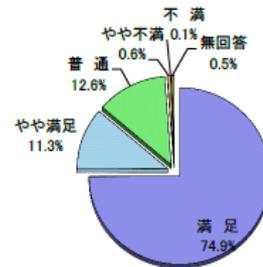
② 質問2 職員的身だしなみ

	26年度		25年度	24年度
	回答数(件)	構成比(%)	構成比(%)	構成比(%)
満足(5点)	1,556	72.7	66.9	65.0
やや満足(4点)	244	11.4	13.2	15.1
普通(3点)	330	15.4	18.9	18.8
やや不満(2点)	7	0.3	0.7	0.6
不満(1点)	1	0.0	0.0	0.2
無回答	3	0.1	0.3	0.3
合計	2,141	100.0	100.0	100.0



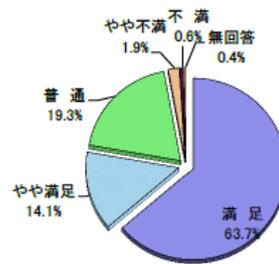
③ 質問3 職員の説明のわかりやすさ

	26年度		25年度	24年度
	回答数(件)	構成比(%)	構成比(%)	構成比(%)
満足(5点)	1,604	74.9	68.0	66.2
やや満足(4点)	243	11.3	14.1	14.8
普通(3点)	269	12.6	16.1	17.3
やや不満(2点)	12	0.6	1.1	0.8
不満(1点)	3	0.1	0.2	0.4
無回答	10	0.5	0.5	0.5
合計	2,141	100.0	100.0	100.0



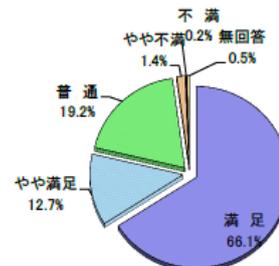
④ 質問4 申請書類等のわかりやすさ

	26年度		25年度	24年度
	回答数(件)	構成比(%)	構成比(%)	構成比(%)
満足(5点)	1,364	63.7	59.2	54.6
やや満足(4点)	301	14.1	16.1	17.7
普通(3点)	414	19.3	21.6	23.8
やや不満(2点)	41	1.9	2.3	2.7
不満(1点)	13	0.6	0.3	0.6
無回答	8	0.4	0.5	0.7
合計	2,141	100.0	100.0	100.0



⑤ 質問5 用件にかかった時間

	26年度		25年度	24年度
	回答数(件)	構成比(%)	構成比(%)	構成比(%)
満足(5点)	1,412	66.1	61.8	59.2
やや満足(4点)	271	12.7	14.0	15.6
普通(3点)	412	19.2	20.9	21.8
やや不満(2点)	31	1.4	1.3	1.1
不満(1点)	5	0.2	0.4	0.9
無回答	10	0.5	1.6	1.5
合計	2,141	100.0	100.0	100.0



(資料)平成26年度(2014年度)窓口サービスアンケートの結果について